188 本條ニ依リ執達吏破産財團ニ屬スル財産ノ價額ノ評定ニ立會ヒタル場合ニ於ケル手數料ハ執達吏手數料規則第一六條ノ三ニ基キ同第八條ニ依ルヲ相當トス（大一二・民事局長回答）

査委員若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ決議ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

議決權ヲ有セサリシ破産債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依ル禁止決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第六章　破産財團ノ管理及換價

第百八十五條　破産管財人ハ就職ノ後直ニ破産財團ニ屬スル財産ノ占有及管理ニ着手スルコトヲ要ス

第百八十六條　破産管財人必要ト認ムルトキハ裁判所書記、執達吏又ハ公證人ヲシテ破産財團ニ屬スル財産ニ封印ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ封印ヲ爲シタル者ハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ封印除去ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百八十七條　裁判所書記ハ破産宣告ノ後直ニ破産者ノ財産ニ關スル帳簿ヲ閉鎖シ之ニ署名捺印シ且調書ヲ作リ之ニ帳簿ノ現狀ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十八條　破産管財人ハ遅滯ナク裁判所書記、執達吏又ハ公證人ノ立會ヲ以テ破産財團ニ屬スル一切ノ財産ノ價額ヲ評定スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ遲滯ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ立會ヲ求ムルコトヲ要ス

第百八十九條　破産管財人ハ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

破産管財人ハ財産目錄及貸借對照表ノ謄本ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス封印ニ關スル調書ニ付亦同シ

利害關係人ハ前項ニ規定スル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第百九十條　裁判所ハ通信官署又ハ公衆通信取扱所ニ對シ破産者ニ宛テタル郵便物又ハ電報ヲ破産管財人ニ配達スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ要ス

破産管財人ハ其ノ受取リタル前項ノ郵便物又ハ電報ノ開披ヲ爲スコトヲ得

破産者ハ前項ノ郵便物又ハ電報ノ閲覽ヲ求メ且破産財團ニ關セサルモノノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第百九十一條　裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シタルトキ又ハ破産終結ノ決定アリタルトキハ裁判所ハ前條第一項ノ囑託ヲ取消スコトヲ要ス

第百九十二條　第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セラルル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法ハ裁判所之ヲ定ム

第百九十三條　破産管財人ハ破産宣告ニ至リタル事情竝破産者及破産財團ニ關スル經過及現狀ニ付第

198 本條ニ依レハ裁判所ハ破産管財人カ第一九七條所定ノ行爲ヲ爲スニ付之ヲ許可スルカ又ハ其ノ求ムル許可ヲ拒ムコトヲ得ルヲ爲スニ過キスシテ破産管財人ノ爲スヘキ行爲ノ內容ヲ變更シテ許可スルヲ得ヘキモノニ非ス（昭三・大審「法新二八一六號一〇頁」）

一回ノ債權者集會ニ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十四條　第一回ノ債權者集會ニ於テハ扶助料ノ給與、營業ノ廢止又ハ繼續及高價品ノ保管方法ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十五條　破産管財人ハ別除權者ニ對シ其ノ權利ノ目的タル財産ヲ示スヘキコトヲ求ムルコトヲ得

破産管財人カ前項ノ財産ヲ評價セムトスルトキハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百九十六條　一般ノ債權調査ノ終了前ニ於テハ破産管財人ハ破産財團ノ換價ヲ爲スコトヲ得ス一般ノ債權調査ノ終了前强制和議ノ提供アリタル場合ニ於テ其ノ落著ニ至ル迄亦同シ

破産財團ニ屬スル財産ニシテ遲滯ナク之ヲ換價スルニ非サレハ破産財團ニ損害ヲ生スル虞アルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ得

第百九十七條　破産管財人左ニ掲クル行爲ヲ爲スニハ監査委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ第七號乃至第十四號ニ掲クル行爲ニ付千圓以上ノ價額ヲ有スルモノニ關セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　不動産ニ關スル物權、登記スヘキ日本船舶及外國船舶ノ任意賣却

二　鑛業權、漁業權、特許權、意匠權、實用新案權及著作權ノ任意賣却

三　營業ノ讓渡

四　商品ノ一括賣却

五　借財

六　第九條第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄ノ承認、第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈拋棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定ニ依ル特定遺贈ノ拋棄

七　動産ノ任意賣却

八　債權及有價證券ノ讓渡

九　第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求

十　訴ノ提起

十一　和解及仲裁契約

十二　權利ノ拋棄

十三　財團債權、取戻權及別除權ノ承認

十四　別除權ノ目的ノ受戻

第百九十八條　第一回ノ債權者集會前ニ於テ前條ノ規定ニ依リ監査委員ノ同意ヲ要スル行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

監査委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルヲ以テ足ル

第六章　破産財團ノ管理及換價

一九四　第一回債權者集會ニテ議決スヘキ事項ノ說明（大一三・中。大一五・明・阿部）

第百九十九條　前二條ノ場合ニ於テ破産管財人ハ遲滯ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第二百條　破産管財人カ第百九十七條ニ掲クル行爲ヲ爲スニ付監査委員ノ同意ヲ得タルトキト雖裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ其ノ行爲ノ執行ノ中止ヲ命シ且其ノ行爲ニ關スル決議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第二百一條　破産管財人カ第百九十六條乃至第百九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ前條ノ規定ニ依ル執行中止ノ命令ニ違反シタルトキト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百二條　第百九十七條第一號及第二號ニ掲クルモノノ換價ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百三條　破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ別除權ノ目的タル財産ノ換價ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ別除權者ノ受クヘキ金額カ未タ確定セサルトキハ破産管財人ハ代金ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ別除權ハ代金ノ上ニ存ス

第二百四條　別除權者カ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ別除權ノ目的ヲ處分スル權利ヲ有スルトキハ裁判所ハ破産管財人ノ申立ニ因リ別除權者カ其ノ處分ヲ爲スヘキ期間ヲ定ム別除權者カ前項ノ期間內ニ處分ヲ爲ササルトキハ前項ノ權利ヲ失フ

第二百五條　破産管財人ハ債權者集會ノ定ムル所ニ依リ債權者集會又ハ監査委員ニ破産管財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百六條　破産管財人カ其ノ寄託シタル貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ返還ヲ求ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ニ依ル

破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ受寄者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ辨濟ハ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ破産管財人カ受寄者ヲシテ支拂其ノ他ノ給付ヲ爲サシムル爲證券ヲ發行スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百七條　商法第九十二條ノ規定ハ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ基金ノ支拂ニ付亦同シ

第二百八條　無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應シ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ必要ナル金額ヲ社員ニ賦課スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルトキハ其ノ負擔スヘキ金額ハ他ノ社員之ヲ負擔ス

第二百九條　前條ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ第

百八十九條第二項ノ規定ニ依リ財産目錄及貸借對照表ノ謄本ヲ裁判所ニ提出シタル後直ニ計算表ヲ作リ之ニ各社員ノ氏名、住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十條　破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主務官廳カ認證シタル定款ノ謄本ヲ添附シ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

破産ノ宣告ヲ受ケタル相互保險會社ニ關スル登記簿カ破産裁判所タル區裁判所ノ出張所ニ在ルトキハ登記所カ交付シタル社員名簿ノ謄本ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

第二百十一條　前條ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ計算表ニ記載シタル社員ヲ呼出ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

裁判所ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲期日ヨリ三日前ニ計算表ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百十二條　裁判所ハ前條ノ期日ニ於テ相互保險會社ノ取締役、監査役、破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

社員ハ期日ニ於テ異議ヲ述フルコトヲ得

第二百十三條　裁判所ハ社員ノ異議ヲ理由アリトスルトキ其ノ他必要ト認ムルトキハ計算表ヲ更正シ又ハ破産管財人ヲシテ之ヲ更正セシメタル後計算表認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定ハ期日又ハ直ニ言渡シタル一週間內ノ期日ニ於テ之ヲ言渡スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲計算表ト共ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百十四條　第二百十一條第一項及前條第一項第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百十五條　計算表認可ノ決定アリタルトキハ破産管財人ハ遲滯ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

社員ニ對スル强制執行ハ執行文ヲ附シタル決定ノ正本及計算表ノ抄本ニ依リテ之ヲ爲ス

民事訴訟法第五百二十一條、第五百四十五條及第五百四十六條ノ規定ニ依ル訴ハ第二百四十五條ニ定ムル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百十六條　各社員ハ計算表認可ノ決定言渡ノ日ヨリ一月ノ不變期間內ニ破産管財人ニ對シ計算表ニ付異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタルトキ又、過失ナクシテ之ヲ主張スルコト能ハサリシコト、疏明スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百十七條　前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴訟ノ目的ノ價額カ區裁判所ノ權限ヲ超ユル場合ニ於テハ本案ノ辯論前ニ當事者ノ申立アリタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其

ノ抗告期間ハ決定言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ決定カ確定シタルトキハ事件ハ地方裁判所ニ繫屬ス此ノ場合ニ於テハ區裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ハ之ヲ地方裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ノ一部ト看做ス

第二百十八條　第二百十六條第一項ノ期間内ハ異議ノ訴ニ付口頭辯論ヲ開クコトヲ得ス

數個ノ訴ノ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條　强制執行ノ停止及續行竝執行處分ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第五百四十七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十條　異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ社員ノ全員ニ對シテ共ノ效力ヲ有ス

第二百二十一條　社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ理由ニ因リ社員ニ對スル賦課ヲ必要トスルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十二條　最後ノ配當ノ許可アリタルトキハ破産管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十三條　最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ爲スニ足ルヘキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ脫退シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度内ニ於テ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條　前十六條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ産業組合其ノ他ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條　匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタルトキハ破産管財人ハ匿名組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十六條　相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財産分離アリタルトキハ相續財産ノ處分ハ破産管財人之ヲ爲スコトヲ要ス限定承認又ハ財産分離アリタル後相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

破産管財人カ前項ノ處分ヲ終ヘタルトキハ殘餘財産ニ付破産財團ノ財産目錄及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條　前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス

二二〇　異議ニ關スル訴ノ判決ノ效力（大一一・中・遠藤）

240 破産管財人ハ破産者又ハ破産債權者ノ代理人ニ非スシテ公ノ機關トシテ破産手續ニ關與スルモノナルヲ以テ破産財團ノ管理處分其他破産法上效力ヲ有スル事項ニ付テノミ權限ヲ有シ破産手續上何等效果ナキ事項ニ付テハ權限ナシ從テ債權調査ノ期日ニ於テ債權確定ノ爲承認ヲ爲ス權限アルモ債權調査期日以外ニ債務者ノ承認ヲ爲スモ破産手續上何等效果ナキヲ以テ如此行爲ハ其權限ニ屬セサルモノト謂フヘク破産管財人ノ權限ニ屬セサル行爲ハ民

第七章　破産債權ノ屆出及調査

第二百二十八條　破産債權者ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債權ノ額及原因、一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ屆出テ且證據書類又ハ其ノ謄本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス

別除權者ハ前項ニ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ屆出ツルコトヲ要ス

破産債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ニ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ屆出ツルコトヲ要ス

第二百二十九條　裁判所書記ハ債權表ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　債權者ノ氏名及住所

二　債權ノ額及原因

三　優先權アルトキハ其ノ權利

四　別除權者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ屆出タル債權額

裁判所書記ハ債權表ノ謄本ヲ破産管財人ニ交付スルコトヲ要ス

第二百三十條　債權ノ屆出ニ關スル書類及債權表ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百三十一條　債權調査ノ期日ニ於テハ屆出アリタル各債權ニ付第二百二十九條第一項ニ揭クル事項ヲ調査ス

第二百三十二條　破産者ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

屆出ヲ爲シタル破産債權者又ハ其ノ代理人ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百三十三條　債權ノ調査ハ破産管財人出頭スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條　期間後ニ屆出アリタル債權ニ付テハ破産管財人及破産債權者ノ異議アル場合ヲ除クノ外債權調査ノ一般期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲スコトヲ得

破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アリタルトキハ裁判所ハ前項ノ債權ノ調査ヲ爲ス爲特別期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ屆出ヲ爲シタル破産債權者ノ負擔トス

第二百三十五條　前條ノ規定ハ破産債權者カ屆出タル事項ニ付屆出期間後他ノ破産債權者ノ利益ヲ害スヘキ變更ヲ加ヘタル場合ニ之ヲ準用ス

第七章　破産債權ノ屆出及調査

二三四　破産債權屆出期間ニ屆出テサルトキハ如何ナル不利益アリヤ（大元・東・加藤）

認承ノ務債右テ以ヲ之ハラアノ金納據ハ費用ノ通知費用ハ豫法上ニ於テモ何等ノ效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ支拂フモ可ナリ財團ニ現金存スレハ之ヲ以テ支拂フモ可ナリ當面現在何ヲ以テ支拂フカハ問題ニナラス此等ノ費ノ共益費用トシテ財團債權ト生ヲ發ヲ果效タル認承ノ號三第條七四一第法民法ニ對シ破産者カ破産者ニ非サルコト論ヲ俟タス（昭・三・大審「新報」一七五號四六二頁）

243 本條ノ通知費用ハ豫納金アラハ之ヲ以テ支拂フモ可ナリ財團ニ現金存スレハ之ヲ以テ支拂フモ可ナリ當面現在何ヲ以テ支拂フカハ問題ニナラス此等ノ費ノ共益費用トシテ財團債權ト

第二百三十六條　第二百三十四條第二項ノ規定ハ破産債權者カ債權調査ノ一般期日後ニ債權ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條　債權調査ノ特別期日ヲ定ムル決定ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及屆出ヲ爲シタル破産債權者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第二百三十八條　前條ノ規定ハ債權調査ノ期日ノ變更並債權調査ノ延期及續行ニ之ヲ準用ス但シ言渡アリタルトキハ公告及送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百三十九條　前二條ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百四十條　債權調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債權者ノ異議ナカリシトキハ債權ノ額及優先權ハ之ニ因リテ確定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ債權者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十一條　裁判所ハ債權調査ノ結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス破産者ノ述ヘタル異議亦同シ

裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百四十二條　確定債權ニ付テハ債權表ノ記載ハ破産債權者ノ全員ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四十三條　破産債權者カ債權調査ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ其ノ債權ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債權者ニ通知スルコトヲ要ス

第百十八條第一項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第二百四十四條　異議アル債權ニ付テハ其ノ債權者ハ異議者ニ對シ訴ヲ以テ其ノ債權ノ確定ヲ求ムルコトヲ得

異議者數人アルトキハ之ヲ共同被告トス破産者カ異議者ノ一人ナルトキ亦同シ

裁判所ハ債權者ニ其ノ債權ニ關スル債權表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第二百四十五條　債權確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴カ地方裁判所ノ權限ニ屬スルトキハ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

二四〇　債權調査期日ニ屆出アリタル破産債權ニ對シ破産者ノ述ヘタル異議ノ效果（昭三・中・阿部）

二四四　破産手續ニ於ケル確定訴訟及優先訴訟ノ解說（大一一・中・阿部）【關係】二四五—二四八・二二八・一〇八

ナルモノニ外ナラサルカ故ニ結局財團ノ負擔ニ歸スヘク若財團カ不足ナルトキハ破産申立人ノ負擔ニ歸ス（昭二・法決「法曹五卷四號一五〇頁」）

第二百四十六條　異議アル債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スル場合ニ於テ債權者カ其ノ債權ノ確定ヲ求メムトスルトキハ異議者ヲ相手方トシテ訴訟ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條　破産債權者ハ第二百四十一條第一項ノ規定ニ依リ債權表ニ記載シタル事項ニ付テノミ債權確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十條第二項若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十八條　執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債權ニ付テハ異議者ハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リテノミ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得

第二百四十四條第二項、第三項、第二百四十六條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十九條　裁判所ハ破産管財人又ハ破産債權者ノ申立ニ因リ債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五十條　債權ノ確定ニ關スル訴訟ニ付爲シタル判決ハ破産債權者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百五十一條　破産財團カ債權ノ確定ニ關スル訴訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破産債權者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ訴訟費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十二條　債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ配當ノ豫定額ヲ標準トシ受訴裁判所之ヲ定ム

第二百五十三條　公訴附帶ノ私訴ニ付テハ第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼キ、上訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

公訴附帶ノ私訴ノ目的タル債權ニ付破産者カ異議者ノ一人ナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコトヲ得ス

第二百五十四條　第三十八條第四號ニ掲クル請求權ニ付テハ國又ハ公共團體ハ遲滯ナク其ノ額及原因ヲ裁判所ニ屆出ツルコトヲ要ス

第二百四十一條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ屆出アリタル請求權ニ付之ヲ準用ス

第二百五十五條　前條第一項ノ規定ニ依リ屆出アリタル請求權ノ原因カ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ請求權ノ額及原因ヲ破産管財人ニ通知スルコトヲ要ス

第二百四十八條乃至第二百五十條ノ規定ハ破産管財人カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　配當

第二百五十六條　一般ノ債權調査終了後ニ於テハ破産管財人配當スルニ適當ナル金錢アリト認ムル毎

264 配當表ニ關スル異議ノ訴ハ債權者カ配當財團ニ付他ノ債權者ヨリモ優先的地位ニ於テ辨濟ヲ求ムルコトヲ目的トスルモノナリ然ルニ配當財團ノ算定ニ誤アルニ過キサル場合ニハ之ニヨリテ配當率ノ高低ヲ來スニ止マリ之カ爲他ノ債權者ニ優先スヘキ地位ヲ取得スルモノニ非サルヲ以テ右事由ハ配當表ニ對スル異議ノ訴ノ原因トナスヲ得ス（昭四・東地「新報一八四號六七頁」）

ニ遲滯ナク配當ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十七條　破産管財人配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十八條　破産管財人ハ配當表ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　配當ニ加フヘキ債權者ノ氏名及住所

二　配當ニ加フヘキ債權ノ額

三　配當スルコトヲ得ヘキ金額

配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ノ有無ニ依リテ之ヲ區別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百五十九條　破産管財人ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲配當表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第二百六十條　破産管財人ハ配當ニ加フヘキ債權ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十一條　異議アル債權ニ付テハ債權者カ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ確定ニ關スル訴ノ提起又ハ訴訟ノ受繼ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其ノ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十二條　別除權者カ前條ニ定ムル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利ノ目的ノ處分ニ著手シタルコトヲ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ疏明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十三條　左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

一　債權表ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタルトキ

二　前二條ニ定ムル事項ノ證明及疏明アリタルトキ

三　別除權者カ除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示シ又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ債權額ヲ證明シタルトキ

第二百六十四條　債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限リ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

裁判所カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八章　配當

二五六　破産財團ト配當財團トノ區別（大元・京・雉本）（共通）六

二六四　破産配當表ニ對シ不服ヲ申立テ得ル者並ニ其方法（大六・中・遠藤）

270 特別調査期日ニ於テ異議ナクシテ確定シタル債權ヲ有スル者ハ假令前ノ配當ニ參加スルノ機會ヲ失シタレハトテ爾後前ノ配當ニ參加シタランニハ其ノ受クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ先チ配當ヲ受ケ得ヘキモノトス（昭五・東地「新報二四三號五〇三頁」）

第二百六十五條　破産管財人ハ前條第一項ニ定ムル期間經過シタル後、異議ノ申立アリタルトキハ其ノ決定アリタル後遲滯ナク配當率ヲ定メ配當ニ加フヘキ各債權者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

配當率ヲ定ムルニハ監督委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百六十六條　解除條件附債權ヲ有スル者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第二百六十七條　强制和議ノ提供アリタルトキハ裁判所ハ破産管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合ニ限リ提供者ノ申立ニ因リ其ノ配當ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十八條　前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命シタル場合ニ於テ强制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ强制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十九條　債權者ハ破産管財人ニ就キ配當ヲ受クルコトヲ要ス

破産管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二百七十條　第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ定ムル事項ヲ證明又ハ疏明セサルニ因リテ配當ヨリ除斥セラレタル債權者カ後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ其ノ證明又ハ疏明ヲ爲シタルトキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得

第二百七十一條　左ニ掲クル債權ニ對スル配當額ハ破産管財人之ヲ寄託スルコトヲ要ス

一　第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ異議アル債權ニ付訴ノ提起又ハ訴訟ノ受繼アリタルモノ

二　配當率ノ通知ヲ發スル前ニ訴願又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權

三　第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ疏明シタル債權額

四　停止條件附債權及將來ノ請求權

五　第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル場合ニ於ケル解除條件附債權

第二百七十二條　破産管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意アリタルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條　最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間以上一月内ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百七十四條　最後ノ配當ニ在リテハ破産管財人

277 或請求權發生ノ決定要件中ノソノ或ルモノハ已ニ成立セルモ或ハ將來ノモノハ成立スルヤ知レサル場合ニコノ未必ナルモノハ現在ノ權利狀態ヲ將來ノ請求權ト稱スルモノトス（昭五・五・大審「評論一九卷五號二三頁」）

ハ配當表ニ對スル異議落著ノ後遲滯ナク各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百七十五條　停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間內ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條　解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間內ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第百一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條　別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間內ニ破產管財人ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十八條　第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十九條　配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルトキハ破產管財人ハ遲滯ナク配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

第二百八十條　左ニ揭クル配當額ハ債權者ノ爲破產管財人之ヲ供託スルコトヲ要ス

一　第二百七十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ寄託シタル配當額

二　配當額ノ通知ヲ發スル前ニ異議ノ訴、訴願又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權ニ對スル配當額

三　債權者カ受取ラサル配當額

第二百八十一條　計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破產管財人カ價値ナキ爲換價セサリシ財產ノ處分ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十二條　債權者集會終結シタルトキハ裁判所ハ破產終結ノ決定ヲ爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

二八二　配當ニ因ル破產終結ト强制和議ニ因ル破產終結トノ差異（大七・東・加藤。大一五・明・阿部。昭五・東・加藤）（共通）三二四

▽破產手續ノ終了原因、方法（大一四・關・齋藤。昭五・早・阿部）（共通）三二四・三四七・三五三

第二百八十三條　配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財產アルニ至リタルトキハ破產管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲スコトヲ要ス破產終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ破產管財人追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ遲滯ナク配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告シ且各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百八十四條　追加配當ハ最後ノ配當ニ付作リタル配當表ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十五條　破產管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク計算報告書ヲ作リ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第二百八十六條　配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破產管財人ニ知レサル財團債權者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

第二百八十七條　確定債權ニ付テハ破產者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限リ債權表ノ記載ハ破產者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

債權者ハ破產終結ノ後債權表ノ記載ニ基キテ强制執行ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百八十八條　破產者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ債權調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ一週間內ニ限リ異議ヲ追完スル爲破產裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得（大正十五年法律第七十號ヲ以テ本項ヲ改正）

裁判所ハ職權ヲ以テ破產者ノ異議アル債權ノ債權者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送達スルコトヲ要ス

裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破產者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

（大正十五年法律第七十號ヲ以テ第四項削除）

第二百八十九條　相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除斥セラレタル相續債權者及受遺者ハ殘餘財產ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第九章　强制和議

第二百九十條　破產者ハ何時ニテモ强制和議ノ提供ヲ爲スコトヲ得

第九章　强制和議

二九〇　强制和議ノ法律上ノ性質（大五・法・長瀧）

▽强制和議及支拂猶豫（大二・東・加藤）（關係）三八七

▽協諧契約成立要件（大九・中・阿部）（關係）三〇三—三〇八・三二一

第二百九十一條　強制和議ノ提供ハ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

第二百九十二條　強制和議ノ提供ハ相續財産ニ在リテハ相續人之ヲ爲シ相續人數人アルトキハ其ノ一致アルコトヲ要ス

第二百九十三條　一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ハ強制和議ニ付テハ之ヲ破産債權者ト看做サス

第二百九十四條　強制和議ノ提供ヲ爲スニハ提供者ハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他強制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

第二百九十五條　強制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ又ハ詐欺破産ノ公訴繫屬スルトキハ強制和議ヲ爲スコトヲ得ス詐欺破産ニ付有罪ノ判決確定シタルトキ亦同シ

第二百九十六條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコトヲ得

一　債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルコトアルトキ

二　強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日公告後ニ其ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

三　強制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

四　強制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二百九十七條　裁判所強制和議ノ提供ヲ棄却セサル場合ニ於テ監査委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二百九十八條　強制和議ノ提供ニ關スル書類及監査委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百九十九條　強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月內ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

期日ニハ屆出ヲ爲シタル破産債權者、強制和議ノ提供者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者、破産管財人及監査委員ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ強制和議ノ條件及監査委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百條　裁判所ハ強制和議ノ提供者及監査委員ノ申立ニ因リ強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ヲ債權調査ノ一般期日ト併合スルコトヲ得

第三百一條　強制和議ノ提供者ハ期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

強制和議ノ提供者又ハ其ノ代理人期日ニ出頭シテ

304 破産ノ提供ノ強制和議條件カ一定時期後ニ生スヘキ利息債權ヲ債權者ニ於テ拋棄スルノ趣旨ナル場合ニ於テ破産債權ノ總テカ利息附ノモノナルトキハ右條件ハ各債權者ニ對シ平等ト謂ヒ得ヘキモ破産債權者中無利息ノモノアランカ該無利息債權者ハ何等拋棄スヘキ利息債權ナキ故之ニ對シテハ其全債權額ニ就キ滿足ヲ與フルコトトナリ利息中債權者トノ間ニ衡平ヲ失スルニ至ルコト明カナリ（昭三・東地「法新二八三〇號一七頁」）

強制和議ノ申立ヲ爲ササルトキハ其ノ提供ヲ撤回シタルモノト看做ス

第三百二條　強制和議ノ提供者ハ破産債權者ヲ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第三百三條　強制和議ハ一般ノ債權調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得

第三百四條　強制和議ノ條件ハ各破産債權者ニ付平等ナルコトヲ要ス但シ不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百五條　強制和議ノ提供者又ハ第三者カ強制和議ノ條件ニ依ラシテ或破産債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル行爲ハ之ヲ無效トス

第三百六條　強制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ屆出ヲ爲シタル破産債權者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ確定債權ニ在リテハ其ノ額ニ依リ其ノ他ノ債權ニ在リテハ裁判所カ第百八十二條第二項ノ規定ニ依リ定メタル所ニ依ル

第三百七條　前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ又ハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ニ超ユル者カ期日ノ續行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メ之ヲ言渡スコトヲ要ス

第三百八條　強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第二百九十九條第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得

第三百九條　第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條　裁判所ハ左ノ場合ニ限リ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一　強制和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ

二　第二百九十五條ニ規定スル事由カ強制和議ノ決議後ニ生シタルトキ

三　強制和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ

四　強制和議ノ決議カ破産債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

議決權ヲ有セサリシ破産債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

申立人ハ申立ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要

311 一旦破産管理人カ起シタル訴訟ノ繫屬中強制和議ノ確定ニ因リ破産ノ解止シタルトキハ強制和議ニ特別ノ定メナキ限リ破産者タリシ者カ訴訟ヲ受繼スル迄モナク訴訟ハ破産者タリシ者ニ存續シ從來破産管財人カ爲シタル訴訟ヲ續行シ得（大一五・東地「評論一五卷諸法二六二頁」）

312 株式會社カ解散ニ因リ既ニ清算手續ヲ開始シタル以後ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其後強制和議ノ可決アリトスルモス

第三百十一條　法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ財團法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ法人ヲ繼續スルコトヲ得

第三百十二條　法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲ス

爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

法人ヲ繼續セサルトキ又ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十三條　相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續債權者ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十四條　相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十五條　相續財産及相續人又ハ前戶主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人又ハ前戶主ノ債權者又ハ前戶主ノ相續開始後ノ債權者ニ限リ之ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十六條　前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債權者ノ債權ハ第三百六條第一項ノ總債權ニ之ヲ算入セス

第三百十七條　強制和議カ前條ノ破産債權者ノ正當ノ利益ヲ害スヘキトキハ裁判所ハ其ノ申立ニ因リ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百十八條　強制和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第三百十九條　議決權ヲ有セサリシ破産債權者カ強制和議認否ノ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルニハ其ノ破産債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百二十條　強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債權者ハ強制和議不認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百二十一條　強制和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第三百二十二條　強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第三百二十三條　強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權者及一般ノ先取特權

會社ハ最早法人繼續ノ手續ヲ爲シ得サルモノニシテ該強制和議ハ不認可ノ決定ヲ受クルヲ免レサルモノトス（大一五・東區「評論一五卷諸法四九六頁」）

326 強制和議ハ破産債務者カ破産者ノ保證人ニ對シテ有スル權利ニ影響ヲ及ホササルカ故ニ破産債權者ニ一部ノ支拂ヲ爲シ殘部債權ヲ消滅セシムヘキ條件ノ強制和議認可決定確定シタル場合ニ於テモ尙保證人ハ破産債權者ノ請求ニヨリ其債權ノ全額ヲ辨濟ス其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ノ確定債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

財團債權及一般ノ優先權アル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ破産管財人ハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス破産管財人ニ對シ疏明アリタル一般ノ優先權アル債權ニ付亦同シ

第三百二十四條　第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認可ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條　破産財團ノ管理及處分ニ付テハ破産者ハ強制和議ニ定メタル制限ニ從フコトヲ要ス

第三百二十六條　強制和議ハ破産債權者ノ全員ノ爲且其ノ全員ニ對シテ效力ヲ有ス

強制和議ハ破産債權者カ破産者ノ保證人其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及破産債權者ノ爲ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ホサス

第三百二十七條　法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破産債權者ニ對シ強制和議ノ定ムル限度ニ於テ其ノ責任ヲ負フ但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第三百二十八條　確定債權ヲ有スル破産債權者ハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限リ破産終結ノ後破産者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債權者ノ爲ニ擔保ヲ供シタル者ニ對シ債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適用ヲ妨ケス

第二百十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條　強制和議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキハ各破産債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得但シ過失ニ因リ強制和議不認可ノ申立ヲ爲ササリシ破産債權者ハ此ノ限ニ在ラス

讓歩ノ取消權ハ破産債權者カ取消ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス強制和議認可ノ決定確定ノ時ヨリ二年ヲ經過シタルトキ亦同シ

三二四　配當ニ因ル破産終結ト強制和議ニ因ル破産終結トノ差異（大七・東・加藤。大一五・明・阿部。昭五・東・加藤）（共法）二八二

▽破産手續ノ終了原因、方法（大一四・關・齋藤。昭五・早・阿部）（共法）二八二・三四七・三五三

三二六　債務者カ協調契約ニ因リ債務一部ノ免除ヲ得シトキハ其保證人又ハ連帶債務者ハ右免除ノ限度ニ於テ同シク其責ヲ免レ得ルカ（大五・東・加藤）

ヘキ義務アルモノトス（昭五・大審「評論二〇卷一號二三二頁」）

330 譲歩トハ其譲歩シタル部分ヲ取消スモ債權者ハ尚和議ノ拘束ヲ受ケ之ニ定メタル條件ニ從ヒ取消シタル譲歩以外ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキ場合例ヘハ債務ノ一部免除ノ如キヲ指稱スルモノトス（昭五・大審「評論一九卷三號三二頁」）

第三百三十條　破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ其ノ履行ヲ受ケサル破産債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル譲歩ヲ取消スコトヲ得

第三百三十一條　譲歩ノ取消ハ破産債權者カ強制和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ホサス

譲歩ノ取消ニ因リテ回復シタル債權額ニ付テハ破産債權者ハ強制和議ノ履行完了ノ後ニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十二條　破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ屆出ヲ爲シタル破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

強制和議ノ定ムル所ニ從ヒ全部ノ履行ヲ受ケタル破産債權者ハ前項ノ申立ニ必要ナル員數ニハ之ヲ算入セス全部又ハ一部ノ履行ヲ受ケタル者ニ付テハ從前ノ破産債權ノ額ヨリ其ノ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ債權額トス

第一項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第三百六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百三十三條　詐欺破産ニ付有罪ノ判決カ確定シタルトキハ裁判所ハ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ　強制和議ノ取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ有罪ノ判決確定前ト雖第百五十四條及第百五十五條ニ定ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第三百三十四條　第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條　強制和議取消ノ決定カ確定シタルトキハ破産手續ヲ續行ス

第三百三十六條　第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做シ第三百三十二條ノ場合ニ在リテハ強制和議取消ノ申立、第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做ス

第三百三十七條　第百四十一條乃至第百四十六條及第百五十四條乃至第百五十六條ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ付之ヲ準用ス

破産手續續行ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第三百三十八條　強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ付テハ從前ノ破産債權ノ額ヨリ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ破産債權ノ額トス

第三百三十九條　從前ノ確定債權ニ付テハ破産債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ノミヲ調査ス

第三百四十條　強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタルモノアルトキハ從前ノ破産債權ノ額ヲ以テ配當ニ加フヘキ債權ノ額ト看做シ破産財團ニ其ノ債權者カ受ケタルモノヲ加算シテ配當率ノ標準ヲ定ム但シ其ノ債

347 破産廢止ハ屆出ヲ爲セル總債權者カ破産拋棄ノ意思アル場合ニ於テ之ヲ爲スヲ本來ノ精神トス從テ債權屆出期間內ニ屆出ヲ爲シタル總債權者ノ同意ヲ得ヘキハ勿論第三五一條ニ依リ破産廢止ノ申立ニ付異議ヲ申立ツルコトヲ得ル債權者ノ同意モ亦之ヲ必要トス（大一五・東區「法新二六三二號一七頁」）

權者ハ他ノ破産債權者カ自己ノ受ケタルモノト同一ノ割合ノ配當ヲ受クル迄ハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第三百四十一條　破産總結ノ後破産者カ強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ對シテ爲シタル擔保ノ供與ハ強制和議ノ取消ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第三百四十二條　強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ハ從前ノ債權ニ付テハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十三條　強制和議取消ノ申立及破産アリタル場合ニ於テ裁判所カ其ノ一ニ付強制和議取消ノ決定又ハ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ他ノ一ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル棄却ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十四條　第三百三十一條第一項及第三百三十一條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ履行完了前ニ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十三條ノ規定ニ依リ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三百四十五條　相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ハ強制和議ノ履行完了前其ノ固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

民法第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項第二項及第千二十一條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十六條　第百三十一條ノ規定ハ相續財産ニ關スル強制和議取消ノ申立ニ之ヲ準用ス

第十章　破産廢止

第三百四十七條　破産者ハ債權屆出ノ期間內ニ屆出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ爲ササル破産債權者ニ對シ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ破産財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破産廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債權者ノ同意ヲ必要トスヘキカ否ハ裁判所之ヲ定ム破産債權者ニ供スヘキ擔保カ相當ナルカ否ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十八條　法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百十一條ノ規定ヲ準用ス

第十章　破産廢止

三四七　破産手續ノ終了原因、方法（大一四・刑・齋藤。昭五・早・河部）（共通）二八二・三二四・三五三

第三百四十九條　破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立ニ必要ナル條件カ具備スルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百五十條　裁判所ハ破産廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百五十一條　破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間經過前ニ届出ヲ爲シタル破産債權者モ亦異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條　裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破産廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破産者、破産管財人及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條　破産宣告ノ後裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、産業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第三百五十四條　裁判所カ破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條　破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權ノ辨濟ヲ爲シ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條　第二百九十一條及第二百九十二條ノ規定ハ破産廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條　第二百八十七條ノ規定ハ破産廢止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一章　小破産

第三百五十八條　破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓ニ滿タスト認ムルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ第百四十三條第一項ニ掲クル事項ノ外小破産決定ノ主文ヲ公告シ且同條第二項ノ書面ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

三五三　破産手續ノ終了原因、方法（大一四・明・實廣。昭五・早・阿部）（共通）二八二・三二四・三四七

364　本條第一項ハ小破産手續ノ性質ニ鑑ミ手續ヲ簡捷ニシ且費用ヲ節約スル趣旨ノ下ニ或種事項ニ付テハ債權者集會ヲ開催スル煩雜ヲ避ケタルニ止マル（昭四・大審「新報二一〇號四八二頁」）

366　破産法第三六六條ニ依リ小破産手續ニ關スル公告ハ其手續費用ヲ可成寡少ナラシムル簡易手續トシテ第一一六條ニ從ヒ官報及新聞紙ニ公告ヲ爲スコトヲ要セスシテ單ニ同條所定ノ提示ヲ爲スヲ以テ足ルト解シ其宣告ト同時ト場合モ揭ス爲ス決定ヲ小破産ノ時ニ告其

第三百五十九條　裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルトキハ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破産ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破産管財人、監査委員竝知レタル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條　裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキハ小破産取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百六十一條　小破産ノ決定及小破産取消ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十二條　第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調査ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條　監査委員ハ之ヲ置カス

第三百六十四條　第一回ノ債權者集會、强制和議取消後ノ第一回ノ債權者集會竝債權調査、計算報告及强制和議ノ爲ニスル債權者集會ヲ除クノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債權者集會ノ決議ニ代フ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十五條　配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關スル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百六十六條　小破産手續ニ關スル公告ハ第百十六條ノ規定ニ依ル揭示ヲ爲スヲ以テ足ル

第三編　復權

第三百六十七條　破産者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ破産債權者ニ對スル債務ノ全部ノ免責ヲ得タルトキハ破産裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ復權ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

申立人ハ免責ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百六十八條　復權ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三百六十九條　裁判所ハ復權ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百七十條　破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ三月内ニ復權ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條　異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産者及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百七十二條　復權ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百七十三條　第百八條乃至第百十二條及第百十四條乃至第百十七條ノ規定ハ復權ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四編　罰則

示ノミニテ足ル趣旨ナリトス（大一二・民事局長回答）

376 而モ債務者タル株式會社ニ對シテ爲サレシ破産宣告確定シ而テ其確定前債務者ノ取締役等ニ舊商法一五一條第一項各號所定ノ行爲アリタル以上其行爲ト破産宣告確定ノ時期ノ懸隔奈何ニ論ナク又二者連繫ノ有無ヲ問ハス行爲者ハ舊商法一〇五二條破産法三七六條ノ規定ニ從ヒ處罰ヲ免レサルモノトス（大一五・大審「新報」九八號一五頁）

第三百七十四條　債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス自己若ハ他人ノ利益ヲ圖リ又ハ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ左ニ揭クル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ詐欺破産ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

一　破産財團ニ屬スル財産ヲ隱匿、毀棄又ハ債權者ノ不利益ニ處分スルコト

二　破産財團ノ負擔ヲ虛僞ニ增加スルコト

三　法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

四　第百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十五條　債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ揭クル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　浪費又ハ賭博其ノ他ノ射倖行爲ヲ爲シ因テ著ク財産ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト

二　破産ノ宣告ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト

三　破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ債務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務者ノ義務ニ屬セサルモノ

四　法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

五　第百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十六條　債務者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者竝支配人前二條ニ規定スル行爲ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戶主竝其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第四編　罰則

三七五　過怠破産ト詐欺破産トノ差異ヲ辯明シ支拂停止屆出義務ヲ强制スル立法ノ可否ヲ說明スヘシ（大五・法・長瀨）（共通）和議一〇

第三百七十七條　本法ニ依リ監守ヲ命セラレタル者逃走シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ外人ト面接若ハ通信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産者裁判所ノ許可ヲ得スシテ居住地ヲ離レタルトキ罰前項ニ同シ

第三百七十八條　債務者及第三百七十六條ニ規定スル者ニ非スシテ第三百七十四條ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者又ハ自己若ハ他人ヲ利スル目的ヲ以テ破産債權者トシテ虛僞ノ權利ヲ行ヒタル者ハ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十九條　第三百七十四條、第三百七十五條及前條ノ規定ノ適用ニ付テハ强制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第三百八十條　破産管財人又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三百八十一條　破産管財人、監査委員、破産債權者、理事若ハ其ノ代理人又ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三百八十二條　第百五十三條ノ規定ニ依リ說明ノ義務アル者故ナク說明ヲ爲サス又ハ虛僞ノ說明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則

第三百八十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

第三百八十四條　明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第百一號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス

第三百八十五條　民法施行法第二條第三條及非訟事件手續法第百五十三條第百五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削ル

第三百八十六條　他ノ法令中身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完濟セサル者ニ關スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完濟セサル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ

7　本法中和議開始ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ斯ル裁判ニ對シテハ其理由ヲ問ハス抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノト謂ハサルヲ得ス（大一四・大審「法新二四二四號一七頁」）

和議法

（大正十一年四月二十五日法律第七十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル和議法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

和議法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニスル強制和議ヲ謂フ

第二條　和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第三條　破産法第百五條及第百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス

第四條　破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　破産法第九十八條乃至第百四條ノ規定ハ和議債權者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス

第六條　前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第七條　和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

第八條　破産法第百十九條、第百二十條、第百二十二條及第百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登錄ノ囑託ハ破産ノ登記又ハ登錄ノ囑託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十條　前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第十一條　破産法第二條、第三條、第百九條乃至第百十一條、第百十三條乃至第百十八條及第百二十五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民

387　本條第一項ニ本法施行前家資分散ノ宣告アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ルトアルハ家資分散ノ宣告ハ即時ニ其效力ヲ生スルモノナルヲ以テ同法施行前ニ爲シタル家資分散ノ宣告ハ之ニ對スル抗告アリタルカ爲ニ未確定ナルカ如キトキト雖仍舊法ニ依ルヘキコトヲ定メタルモノト解スヘシ（大一二・大審「大判民一六九頁」）

之ヲ破産者ト看做ス

第三百八十七條　本法施行前破産者ハ復權ノ申立、破産者ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂猶豫ノ許可者ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

本法施行前ニ爲シタル家資分散又ハ支拂猶豫ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百八十八條　舊法ニ依リテ破産者ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リテ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ申立ハ其ノ事件ノ第一審裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百八十九條　他ノ法律ニ依リ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者カ其ノ法人ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ於テモ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百九十條　商法第四百五條ヲ左ノ如ク改ム

保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破産宣告ノ後三ケ月ヲ經過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第三百九十一條　商法施行法中第百三十八條乃至第百四十五條及第百四十七條ヲ削リ「第百四十六條」ヲ「第百三十八條」ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加フ

第百三十九條　商法施行條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

附　則（大正十五年法律第七十號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ改ム

12　解散シタル法人ノ清算人ハ和議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス蓋シ本條理事ニ準スヘキ者ニ準ス↑法曹五卷五號一四一頁」（昭二・法決）

事訴訟法ヲ準用ス

第二章　和議ノ開始

第十二條　破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

相續財産ニ付テハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

和議申立人ハ申立ト同時ニ財産ノ狀況ヲ示スヘキ明細書並債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滯ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條　和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條　和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス

第十八條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

一　破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ
二　和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ
三　詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ
四　和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ
五　和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

一　和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ
二　債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ
三　和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
四　和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
五　和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二十條　裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ債務者ノ財産ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財産、帳簿及和議ノ條件ニ付必要ナル

調査ヲ爲サシメ且和議ヲ開始スヘキカ否ニ付意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

整理委員ハ自己ノ責任ヲ以テ鑑定人ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條　和議申立人ハ前條第一項ニ依ル調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　破産法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ審訊スルコトヲ要ス

第二十五條　破産法第百五十九條乃至第百六十一條、第百六十四條乃至第百六十六條、第百六十九條及第百七十二條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第二十六條　和議開始決定書ニハ決定ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條　裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一　債權屆出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナルコトヲ要ス
二　債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權屆出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一　和議開始決定ノ主文
二　管財人ノ氏名及住所
三　債權屆出ノ期間及債權者集會ノ期日

知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ掲クル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一項第二號及第三號ニ掲クル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス」

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　和議開始ノ申立ニ關スル書類並第二十一條ノ規定ニ依ル整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條　和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　和議ノ開始ハ債務者カ其ノ財産ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ホサス但シ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ハ管財人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

通常ノ行爲ト雖管財人ノ異議アルトキハ債務者ハ

40　本條第一項ノ規定ハ債務者ノ財產ノ散逸ヲ防止シ和議ノ決議ヲ容易ナラシムル爲メ之カ成立並實行ヲ期セシムル爲詐ケシ强制規定ナルニ依リ之ニ反シテ爲サレシ强制執行ハ實質上其效力ナシ（昭四・長控「評論七號二三五頁」）

42　抵當權若ハ質權アル債權ハ本條ニ所謂一般ノ優先權アル債權ニシテ是等ノ債權ハ同條ノ規定ニ依リ之ヲ和議債權トセス而テ和議ハ和議債權者ノ全員ノ爲メ只其全員ニ對シテ效力ヲ有スルノ之ヲ爲スコトヲ得ス

重要ナル行爲ニ付管財人カ第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲スニハ整理委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三十三條　第三十一條又ハ前條第一項第二項ノ規定ニ反スル行爲ハ和議債權者ニ於テ之ヲ否認スルコトヲ得但シ相手方カ行爲ノ當時其ノ事實ヲ知リタルトキニ限ル

第三十四條　管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ請求スルコトヲ得

第三十五條　管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ債務者及之ニ扶養セラルル者ニ給スヘキ扶助料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條　管財人ハ何時ニテモ債務者ニ對シテ其ノ財產ニ關スル報告ヲ求メ又ハ債務者ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

整理委員ハ何時ニテモ管財人ニ對シテ債務者ノ財產ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條　破產法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ管財人又ハ債權者集會ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　管財人ノ任期終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滯ナク裁判所ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條　第二十四條及破產法第百五十八條乃至第百六十一條第百六十三條乃至第百六十六條第百六十九條ノ規定ハ管財人ニ之ヲ準用ス

第四十條　和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對シ强制執行、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ス

和議開始前和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對シ爲シタル强制執行、假差押及假處分ハ和議手續中之ヲ中止ス

第三章　和議債權及其ノ屆出

第四十一條　債務者ニ對シ和議開始前ノ原因ニ基キテ生シタル財產上ノ請求權ハ之ヲ和議債權トス

第四十二條　一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ハ之ヲ和議債權トセス

第四十三條　破產ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付和議債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第四十四條　左ニ掲クル請求權ハ之ヲ和議債權トセス

一　和議開始後ノ利息

二　和議開始後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三　和議手續參加ノ費用

四　罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

前項ノ請求權ハ和議債權ニ後ル

第四十五條　破產法第十七條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十七條及第二百二十八條乃至第二百三十條ノ規定ハ和議債權ニ付之ヲ準用ス此ノ場合

ミニシテ敢テ一般ノ優先權アル債權者ニ及ハス蓋一般ノ優先權者ハ和議條件ノ如何ニ拘ラス何等權利ノ消長ヲ招來スルコトナケレハ斯ル債權者ハ和議ノ認可ニ付利害關係ナキヲ以テナリ（昭二・東地「新報一二〇號二〇頁」）

51　本條ノ規定ハ和議不認可ノ決定ヲ爲スト否トヲ裁判所ノ自由裁量ニ一任シタル趣旨ニ非ス同條列擧ノ一ニ該當スルトキハ裁判所ハ必スヤ不認可ノ決定ヲ爲スヘキヲ要ス（昭六・大審「評論ニ於テハ和議ノ開始ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做ス

第四章　債權者集會

第四十六條　債權者集會ノ期日ニハ屆出ヲ爲シタル和議債權者、和議申立人及和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他債務者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ和議債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

但シ第二十八條第二項第三項ノ規定ニ依リ既ニ送達ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　管財人及整理委員ハ屆出アリタル各債權ニ付債權者集會ニ於テ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ調査スルコトヲ要ス

第四十八條　管財人及整理委員ハ債權者集會ニ於テ和議ノ開始ニ至リタル事情、債務者及其ノ財產ニ關スル經過及現狀並前條ノ規定ニ依ル調査ノ結果ニ付報告ヲ爲シ且和議ノ條件ノ適否ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ要ス

破產法第百八十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ屆出アリタル債權ニ付第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人又ハ整理委員ノ異議アル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　破產法第百七十八條、第百八十一條、第二百三十八條但書、第三百一條、第三百二條、第三百六條及第三百七條ノ規定ハ債權者集會ニ付之ヲ準用ス

破產法及第三百四條及第三百五條ノ規定ハ和議ニ付之ヲ準用ス

第五章　和議ノ認否

第五十條　債權者集會ニ於テ和議ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人及整理委員ハ和議ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得

破產法第二百三十八條但書ノ規定ハ和議認否ノ期日ヲ定ムル決定ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　裁判所ハ左ノ場合ニ限リ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一　和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ

二　第十八條第二號又ハ第三號ニ規定スル事由アルトキ

三　和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ

四　和議ノ決議カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第五十二條　和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主

文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五十三條　和議認否ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

破産法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ之ヲ準用ス

第五十四條　和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第五十六條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ債務者ハ和議ノ爲ニ生シタル債權、和議手續ノ費用及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ規定スル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第五十七條　破産法第三百二十五條乃至第三百二十七條及第三百四十二條ノ規定ハ和議ノ效力ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ第十七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタル破産ノ申立竝第四十條第二項ノ規定ニ依リ中止シタル强制執行、假差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六章　和議ノ廢止

第五十九條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

一　和議ノ可決前ニ和議ノ提供者カ其ノ提供ヲ撤回シタルトキ

二　債權者集會ノ第一期日ヨリ二月內ニ和議ヲ可決セサルトキ

第六十條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人若ハ整理委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス

一　第二十條第一項第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

二　債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三　債務者カ第三十四條ノ規定ニ依ル請求アリタルニ拘ラス自ラ金錢ノ收支ヲ爲シタルトキ

第六十一條　裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第七章　讓歩及和議ノ取消

第六十二條　破産法第三百二十九條乃至第三百三十一條ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓歩ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十三條　債務者ニ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六十四條　破産法第三百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

和議取消ノ申立ニ必要ナル債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第四十八條ノ規定ニ依リテ定リタル債權額ニ依ル

第六十五條　和議ノ取消ハ和議債權者カ和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ホサス

第六十六條　裁判所カ和議取消申立棄却又ハ和議取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　破産法第三百三十八條、第三百四十條及第三百四十一條ノ規定ハ第九條ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　罰則

第六十八條　整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス和議債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十九條　整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十條　第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ說明ノ義務アル者故ナク說明ヲ爲サス又ハ虛僞ノ說明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス和議申立人又ハ債務者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依ル調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者和議裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行ス）

和議手續參加ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

5　調停申立カ受理セラレタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄其訴訟手續ヲ中止ストハ係爭ノ權利關係ノ調停ヲ目的トスル調停ノ申立ニ因リ中止ストノ趣旨ナルコト明ナリ（昭三・大控「法新二八二二號一四頁」）

借地借家調停法

（大正十一年四月十二日）
（法律第四十一號）

（改正、大正一三—法律一七）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル借地借家調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

借地借家調停法

第一條　土地又ハ建物ノ貸借、地代、家賃其ノ他借地借家關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一項ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條　調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　當事者義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條　爭議ノ目的タル土地又ハ建物カ數個ノ裁判所ノ管轄區域內ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四條ノ二　借地借家關係ノ爭議ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得（大正十三年法律第十七號ヲ以テ本條ヲ追加）

第五條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ事件カ調停ニ付セラレタルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス（同上本條ヲ改正）

第六條　裁判所ハ期日ヲ定メ調停中立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第七條　當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第八條　調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第九條　費用ヲ要スル行爲ニ付テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十條　中立其ノ他ノ中述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

12　元來調停事項ニ於ケル調停ハ裁判上ノ和解ト同シク一面民法上ノ和解契約ナルト共ニ一面訴訟法上ノ和解ニシテ結局判決ト同シク形式的效ニ實質的ノ確定力ヲ有スルモノナリ（大一三・東地「新報一〇一號二三頁」）

口頭ヲ以テ中述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十一條　調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條　調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條　裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第十四條　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ得

當事者雙方ノ申立アルトキハ裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十五條　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第十六條　調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ特別ノ知識經驗アル者ニ付キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第十七條　調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條　調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第十九條　調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第二十條　調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第二十一條　調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第二十二條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條、第七條第一項但書第二項、第八條但書及第十三條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第二十三條　調停委員會ハ當事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十四條　期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ爭議ノ目的タル事項及手續ノ費用ニ付適當ト認ムル調停條項ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ當事者ニ送付スルコトヲ要ス

當事者カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月內ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シタルモノト看做ス

調停委員會ハ中立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

當事者カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

26　本條ノ調停ノ認否ノ決定ハ調停主任以外ノ判事ニ於テ爲スヘキモノトス（昭二・法決「法曹五卷一二號一一六頁」）

30　本條ノ利害關係人トハ苟モ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル以上ハ調停ノ手續ニ參加シタルト否トハ問ハサルモノトス尤モ利害關係ヲ有スル事實ハ疏明ヲ要スルハ勿論ナリ（昭二・法決「法曹五卷一二號一一六頁」）

第二十五條　調停委員會第三條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第二十六條　調停成リタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ當事者カ調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條　調停ノ申立ヲ爲スニハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

第三十條　當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閲覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條　第十八條ノ旅費、日當及止宿料竝前二條ノ手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

（大正十三年法律第十七號ヲ以テ本條ヲ追加）

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（大正十三年法律第十七號附則）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十三年法律第十七號ヲ以テ同年七月二十二日ヨリ施行）

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

（大正十一年七月十二日勅令第三百三十八號）

朕借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地區ニハ大正十一年一月一日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

東京府
京都府
大阪府
神奈川縣
兵庫縣

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

（大正十四年四月十一日勅令第百二十六號）

朕借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

愛知縣

小作調停法

（大正十三年七月二十二日法律第十八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル小作調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小作調停法

第一條　小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條　當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第三條　調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リテハ町村長ニ申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

爭議ノ目的タル土地カ數郡市町村ニ亘ル場合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク關係市町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第七條　調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第八條　爭議ノ目的タル土地カ數箇ノ裁判所ノ管轄區域內ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ

中立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滯ナク爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第十條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得

當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十一條 裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十三條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ屆出ツルニ非サレハ其ノ效ナシ

第十四條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ補佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條 爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

25 本條ニ所謂調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置トシテ例ヘハ小作米請求事件ニ付キ相互ニ爭ナキ部分ノ小作米數量又ハ調停ノ結果支拂義務ヲ免レスト豫見シ得ヘキ範圍ノ小作米數量ニ關シ調停終了ニ至ル迄之ヲ別ニ藏置スルコトヲ命スルハ敢テ差支ナカルヘシトスルモ其方法トシテ供託ヲ命シ若シ之ニ應セサル場合ニ於テ執達吏ヲシテ强行セシムルハ穩當ナラス（昭二・民事局長回答）

第二十二條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條 裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定ヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條 調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十二條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十三條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第三十四條 第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條 調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十六條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代ア

ルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條 調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲サルコトヲ得

第三十八條 調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總代ハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 裁判所ハ調停カ著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十一條 裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ掲示場ニ掲示スルコトヲ要ス

第四十二條 調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條 當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閲覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條 調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勸解ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條 第四十四條ノ手數料竝前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島

司トス

本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條 第三十四條ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顚末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ勅令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行ス

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件

（大正十三年九月二十六日 勅令第二百二十八號）

改正、大正一五—勅令六五
昭和四—勅令一四一

朕小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小作調停法ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

小作調停法附則第二項ノ規定ニ依リ同法ヲ施行セサル地區ヲ指定スルコト左ノ如シ（大正十五年勅令第六十五號、昭和四年勅令第百四十一號ヲ以テ本項ヲ改正）

沖繩縣

附則（大正十五年勅令第六十五號附則）

本令ハ大正十五年六月一日ヨリ施行ス

附則（昭和四年勅令第百四十一號附則）

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

刑法目次

刑法（明四〇—法四五）……一

第一編　總則……一

第一章　法例……一
第二章　刑……三
第三章　期間計算……五
第四章　刑ノ執行猶豫……六
第五章　假出獄……七
第六章　時效……七
第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免……八
第八章　未遂罪……一一
第九章　併合罪……一二
第十章　累犯……一三
第十一章　共犯……一四
第十二章　酌量減輕……一五
第十三章　加減例……一六

第二編　罪……一六

第一章　皇室ニ對スル罪……一六
第二章　內亂ニ關スル罪……一七
第三章　外患ニ關スル罪……一八
第四章　國交ニ關スル罪……一八
第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪……一九
第六章　逃走ノ罪……二〇
第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪……二〇
第八章　騷擾ノ罪……二一
第九章　放火及ヒ失火ノ罪……二二
第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪……二二
第十一章　往來ヲ妨害スル罪……二二
第十二章　住居ヲ侵スル罪……二三
第十三章　秘密ヲ侵スル罪……二六
第十四章　阿片煙ニ關スル罪……二六
第十五章　飲料水ニ關スル罪……二七
第十六章　通貨偽造ノ罪……二七
第十七章　文書偽造ノ罪……二八
第十八章　有價證券偽造ノ罪……二八
第十九章　印章偽造ノ罪……二八
第二十章　偽證ノ罪……二九
第二十一章　誣告ノ罪……二九
第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪……二九
第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……二九
第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……二九
第二十五章　瀆職ノ罪……三〇
第二十六章　殺人ノ罪……三〇
第二十七章　傷害ノ罪……三〇
第二十八章　過失傷害ノ罪……三〇
第二十九章　墮胎ノ罪……三〇
第三十章　遺棄ノ罪……三〇
第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪……三〇
第三十二章　脅迫ノ罪……四〇
第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪……四〇
第三十四章　名譽ニ對スル罪……四一
第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪……四三
第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪……四三
第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪……四四
第三十八章　橫領ノ罪……四五
第三十九章　贓物ニ關スル罪……四六
第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪……四七

刑法施行法（明四一—法二九）……四八

附則……五三

警察犯處罰令（明四一—內一六）……五四

附則……五六

治安警察法（明三三—法三六）……五七

附則……五九

治安維持法（大一四—法四六）……六〇

附則……六〇

行政執行法（明三三—法八四）……六一

暴力行爲等處罰ニ關スル法

律（大一五—法六〇）……六三
附則……六三
盗犯等ノ防止及處分ニ關スル法律（昭五—法九）……六三

1　機船底曳網漁業ヲ爲ス帝國船舶ノ船長代理カ同漁業禁止區域内ノ一部ニ於テ操業シタルトキハ縱令其部分カ公海ニ屬スルモ同漁業取締規則第一九條第一項第一號ノ犯罪ヲ構成ス（昭四・大審「大判三五七頁」）

刑法

（明治四十年四月二十四日法律第四十五號）

改正、大正一〇—法律七七

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑法別勅ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十一年勅令第百六十三號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス）

明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

刑法

第一篇　總則

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

◇憲法三＝天皇ノ大權五・二＝議員ノ發言表決ノ自由。攝政令四。共通法。

【問題】

▽刑法ノ所感（大一二・京・宮本）
▽刑法ノ目的、舊刑法ノ三大特色（大二・中・大場）
▽刑法ノ補充的性質（大一四・京・瀧川）
▽刑法ハ犯人ノ「マグナカルタ」ナリトノ側論ノ論評（昭六・京・瀧川）
▽刑法的正義（昭六・東北・久禮田）
▽刑法學派ノ大要（大一四・中・小林。昭四・京・宮本）
▽應報主義ト目的主義（大元・京・勝本）
▽伊太利刑法學派ノ論評（昭三・京・瀧川）
▽新舊兩派ノ比較論評（昭五・京・宮本）
▽刑法解釋ノ原則（大五・中・谷野。大八・京・宮本）
▼刑法上ノ人ノ意義（昭三・行口）

第一章　總則

一　人ニ關スル刑法ノ效力（昭五・明・岡田）（共通）

二・三・四・五

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第七十三條乃至第七十六條ノ罪
二　第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三　第八十一條乃至第八十九條ノ罪
四　第百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
五　第百五十四條、第百五十五條、第百五十七條及ヒ第百五十八條ノ罪
六　第百六十二條及ヒ第百六十三條ノ罪
七　第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一　第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
二　第百十九條ノ罪
三　第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪
四　第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
五　第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪
六　第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
七　第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
八　第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
九　第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
十　第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
十一　第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
十二　第二百三十條ノ罪
十三　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
十四　第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
十五　第二百五十三條ノ罪
十六　第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一　第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
二　第百五十六條ノ罪
三　第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條　犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

7　法令ニ依リ國家又ハ公共團體ノ機關トシテ公務ニ從事スル者ナル以上ハ任命囑託選擧其他執レノ方法ニ依ルヲ問ハス公務員タルニ妨ケナシト雖之ニ反シ縱令事實上國家又ハ公共團體ノ公務ニ從事スルモ何等法令上ノ根據アラサルニ於テハ其從事員ハ刑法ニ所謂公務員ニ非ス（大一四・大審「新報五九號三〇六頁」）

9　懲役ノ刑ハ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スモ罰金ノ刑ヨリ重キモノトス（昭四・大審「大判四三二頁」）

◇刑施二＝刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑ノ對照及其輕重・三＝刑ノ加重又ハ減輕・六・七・一三。

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

◇九五＝公務員ニ對スル暴行又ハ脅迫ノ罪・九六＝公務ノ執行ヲ妨害スル罪・一五六＝公務員ノ虛僞記載又ハ變造罪・一九三＝瀆職ノ罪・一九七＝賄賂收受又ハ要求約束・一九八・一六六・二五八。

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

◇二＝刑ノ加重減輕・一九—二二。

第二章　刑

第九條　死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

▽不定期刑（昭三・東・牧野。昭五・行）
▽目的刑論ノ趣旨、其立法上及解釋上ノ適用（昭四・東・牧野）
▽刑ノ執行（昭六・東北・久禮田）（共通）刑訴五三五・五六五
▽刑ノ本質（大三・中・大場。大一一・京・瀧川）
▽刑ハ應報ナリトノ說及刑法改正ニ對スル是レカ適用（昭六・東・牧野）
▽罪刑法定主義（昭三・司。昭六・日・宮城）
▽意思ノ自由ト刑罰責任（大九・京・瀧川）
▽罰スヘキハ行爲者也、行爲ニ非ス（昭五・東・牧野）

九　死刑（昭三・行。昭五・外）
▼沒收（大七、大一〇・行日）（共通）一九（關係）刑訴五五三—五五五・五五七・五五八

【問題】

六　時ニ關スル刑法ノ效力（大三・行日。大四・立・勝本。大一三・明・岡田。昭五・早・岡田）（關係）刑施一・三

第十條　主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ムル

◇六＝犯罪後ノ法律ニ依ル刑ノ變更・四七＝併合罪加重・四九＝併合罪ノ處斷・五一＝併合罪ト刑ノ執行・五四・五五。

第十一條　死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス」死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第十二條　懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

◇一四＝刑ノ加減例。少年法七—九。

第十三條　禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第十四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

◇一二＝懲役ノ種類範圍・一三＝禁錮ノ種類範圍・四七＝併合罪加重・五七＝再犯ノ刑・三六—四〇・四二・四三・六三・六六・一七〇—一七一・一七三・一九八。

第十五條　罰金ハ二十圓以上トス但シ之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

◇一八＝罰金ノ換刑處分・三六—四〇＝犯罪ノ不成立・四二＝發覺前ノ自首・四三＝未遂罪・六三＝正犯・六六＝酌量減輕・一七〇・一七三・一九八。刑訴五五三—五五五。

第十六條　拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

第十七條　科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

◇一八＝罰金ノ換刑處分。刑訴五五三—五五五。

一〇　刑ノ免除事由（大五・中・谷野）（共通）三七・三六・四三

19　殺人罪ノ用ニ供シタル匕首ノ鞘及袋ハ匕首ノ附屬物ナレハ主物タル匕首ト共ニ法ニ非ス（中略）沒收スルモ違法ニ非ス（中略）沒收ノ刑ハ犯罪カ數人共犯ニ係ルトキハ其共同正犯ナルト教唆從犯ナルトヲ問ハス共犯者タル被告ノ各自ニ對シテ之ヲ言渡スヘキモノトス（大一三・大審「新報一四號一七四頁」）

21　被告人ノ上訴ニシテ其理由アルトキハ上訴申立後ノ未決勾留日數ノ通算ニ付テハ刑事訴訟法第五五六條ノ規定ニ依ルヘキモ

第十八條　罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス」

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

◇少年法一三＝勞役場留置ノ言渡。

第十九條　左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一　犯罪行爲ヲ組成シタル物

二　犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三　犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

◇二〇＝沒收ト拘留科料ノ罪・一九七2項＝收受シタル賄賂沒收又ハ其價格ノ追徵。刑訴五五七—五五九。衆議院議員選擧法一一四・一二三等

第二十條　拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條　未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

◇刑訴五五六＝上訴申立後ノ未決拘留日數ノ通算

第三章　期間計算

第二十二條　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

◇民一四三＝期間ノ計算法。

第二十三條　刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

◇二九＝假出獄ノ處分取消ノ原因。刑訴三九五＝控訴ノ提起期間・四一八＝上告ノ提起期間・五三三＝略式命令ノ確定。違警罪卽決例七。

第三章　期間計算

▽犯罪ノ時（大元・大二・外口。大四・京・勝本）

判大「審大・三昭）ス非ニノモキヘスス用適ヲ定規ノ條本テシニノ
（頁六九一）

第二十四條　受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ
故免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ
◇二二＝時效ノ完成。

第四章　刑ノ執行猶豫

第二十五條　左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得
一　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
二　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
◇二二＝期間ノ計算法。刑訴三九五＝控訴ノ提起期間・四一八＝上告ノ提起期間・三五八2項＝刑ノ執行猶豫ノ言渡。少年法六・八。

第二十六條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ
一　猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二　猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三　前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ
◇二五＝刑ノ執行猶豫。刑訴三七四＝決定ニ對スル即時抗告。少年法一四。

第二十七條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ
◇二五＝刑ノ執行猶豫。少年法一四。

第四章　刑ノ執行猶豫

二五　刑ノ執行猶豫（大三・法・牧野。大一一・中・泉二。昭四・行）
▽刑ノ執行猶豫ヲ認ムル理由、罰金刑ニ執行猶豫ヲ認メサル理由（大五・東・牧野。昭三・京・瀧川）
▽執行猶豫ノ條件（大七・明・岡田。大八・日・山岡）
▼執行猶豫。併合罪。大赦（昭四・司日）
二七　執行猶豫期間完濟ノ效果（大五・東・牧野。昭三・京・瀧川）

第五章　假出獄

第二十八條　懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得
◇二二＝期間ノ計算法・二三＝刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算。少年法一〇―一一。

第二十九條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得
一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ
四　假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條　拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ
◇一八＝罰金ノ換刑處分。

第六章　時效

第三十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得
◇刑訴三五八＝刑ノ言渡ヲ爲スヘキ場合・五二三＝略式手續ニ依ル罰金又ハ科料。

第三十二條　時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス
一　死刑ハ三十年
二　無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
三　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年
四　罰金ハ三年
五　拘留、科料及ヒ沒收ハ一年
◇二二＝期間ノ計算法・二四＝期間計算。刑訴三九五＝控訴ノ提起期間・四一八＝上告ノ提起期間・五三三＝略式命令ノ確定。違警罪即決例七。

第三十三條　時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス
◇二五＝刑ノ執行猶豫。刑訴四九六＝再審請求ノ效力・五〇六＝再審開始ノ決定・五三七・五四三・五四四・五四六。

第三十四條　時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス
罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

36　所有權ノ行使ニ對スル不法侵害ノ排除ヲ目的トシテ國家ノ家ニテノモシキ招ラ自リ因ニ爲行責有ノ者爲行カ難危ハ條本

ナリ所ノ認容セサル法ハ自ラ救濟ニ訴フルコトヲ藉ルカ力ヲ制強

（大一五・大審「新報七二號四八七頁」）— 相手方ニ暴行ヲ加ヘ之

カ爲メ中途ニテ自己ノ危險ニ瀕スルモ其危險ハ急迫不正ノ侵害ナリト認ムルヲ得ス解ト術防衛正當ハ行暴スル對ニ之ニテ從ス得ヲルヲ得ス

（昭五・大審「評論二〇卷一號一三八頁」）

37　本條ハ危難カ行爲者ノ有責行爲ニ因リ自ラ招キシモノニ

◇刑訴五四七以下・五五三以下。

第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

◇刑訴三六〇2項ニ有罪判決ニ示スヘキ判斷・一二五ニ現行犯人ノ逮捕。民八八二ニ緊急避難。

第三十六條　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サル出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

◇六八ニ刑ノ加減例・六九ニ刑ノ減輕スヘキ場合・七〇以下。刑訴三五九・三六〇2項。民七二〇。

第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

◇刑訴三五九ニ免刑判決・三六〇2項ニ有罪判決ニ示スヘキ判斷。刑六八以下。民七二〇。

▽犯罪トハ何ソヤ（大二・日・山岡。大四・中・大場）

▽法人ノ犯罪能力（大五・日・泉二）

▽處罰條件ト犯罪成立トノ關係（大二・日・三浦）

▽犯罪ノ場所（大四・京・勝本）（共通）刑訴一

▽犯意ナキ行爲ヲ罰セスノ意味（昭三・東・小野）

三五　行爲ノ違法性（大一四、昭五・日・島田）

▽違法性阻却（昭六・東北・久禮田）（共通）三六・三七

▽被害者承諾ト犯罪違法性（大二、昭三・明・岡田）

▽正當ノ業務ニ因リテ爲シタル行爲ノ說明（昭六・京・宮本）

▼法令又ハ正當ノ業務ニヨル行爲（昭六・司口）

三六　正當防衛（大二・東・泉二。大三、大四・行口。大九・中・泉二。大一一・早・草野。昭四・行口。昭六・京・瀨川）

▼自救行爲（昭四・行口。昭四・外口）（共通）三七

▽緊急行爲（大五・外）（共通）三七

三七　正當防衛ト緊急避難トノ差異（大三・法。大四・中・泉二。昭三・中・平井。大一三、昭二、昭五・明・岡田）（共通）三六

社會通念上已ムヲ得サルモノト認シ難キ場合ニ適用スルヲ得ス（大一三・大審「新報二七號三四四頁」）

38　犯意トハ法定ノ範圍ニ於ケル罪トナルヘキ事實ノ認識ヲ謂フ（昭六・大審「評論二〇卷七號一八八頁」）

第三十八條　罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

◇六八以下・一一六・一一七2項。印紙稅法一四。所得稅七七。刑訴三六〇2項。

【問題】

三八　相當因果關係（大五・法。大一四・東・牧野）

▽因果關係（大三・京・勝本。昭四・外。昭六・京・宮本）

▽因果關係ノ範圍（大一五・日・島田）

▽因果關係ノ中斷（大元・京・勝本）

▽甲、乙ト格鬪シ乙ヲ倒シ逃亡セル後數時間後乙死亡セリ甲ハ當初直ニ醫師ヲ招來シタランニハ乙ノ生命ハ取止メ得シナラント云フ甲ノ刑責如何（昭六・東北・久禮田）

▽不作爲ノ因果關係（大四・立・勝本。大五・日・泉二）

▽不作爲犯（大四・昭二・外口。昭五・行。昭五・東・小野）

▼不作爲犯ノ未遂罪ト着手（大五・司口。昭五・行口）

▽遺棄行爲ノ性質及罪トナルヘキ要件（昭三・昭五・明・岡田）

▽故意（大三・中・大場。昭三・外。昭五・日・小林）

▼犯意（大一一、昭二・行口）

▽不確定故意（大一三、大一四・中・小林）

▽違法性阻却ノ原因タル事實ノ存在ヲ誤認セルトキ並ニ行爲ノ違法性ニ付錯誤アリシ場合ニ犯意アリヤ（大二・中・泉二）

▽犯罪構成要件ト違法性トノ關係（昭六・日・宮城）

▽故意ト過失ノ區別（昭三、昭六・日・島田。昭六・司）

▽未必ノ故意、偶然ト過失トノ區別（大二・立・勝本。大三・京・勝本）

▽三八條第一項ノ解（昭二、昭四・司、昭三・東・小野）

▽迷信犯（昭六・京・瀨川）

▽過失（昭四・明・岡田。昭六・中・林）

▽過失犯（昭二・緯）

▽過失ノ標準（大一〇・中・林）

▽過失ノ標準（昭五・明・岡田）

▽法律ノ錯誤（大一三・中・小林。昭六・外）

▼法律ノ錯誤ト事實ノ錯誤（昭三、昭五・司口）

▽第三八條第三項ノ說明（大五、昭五・京・宮本。昭二・京・瀨川。昭四・司）

▽第三八條第三項ノ論評（昭二・行。昭五・京・宮本）

▽法ノ不知（大八・京・宮本）

第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス
▽心神喪失者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス
◇六八以下。印紙稅法一四。刑訴三六〇2項。
第四十條　精神者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス
第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス
第四十二條　罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル間自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得
▽告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ自首シタル者亦同シ
◇八〇＝自首。九三＝自首者ノ刑ノ免除。一九八＝公務員ノ渡職罪。六八以下。一七〇。一七三。一三五。一八〇。一八三。二〇八。二〇九。二三二。二四四。二五一。二五五。二六四。

【問題】

▽否定的見解ニ對スル刑法ノ效力（昭三・明・岡田）
▽方法ノ錯誤（大六・東・牧野）
▽不能犯（昭三・東・牧野。昭四・關・宮本。昭五・司・西口）
▽左ノ場合犯罪成立スルヤ（イ）姓名ト誤信シテ他人ヲ行フ行爲（ロ）愛人ノ目的ニテ水銀錠ヲ行フ行爲（ハ）殺人ノ目的ニテ空ノ藥罐ニ手ヲ入レシ行爲（昭三・京・瀧川）
▽仇敵甲ト信シテ殺シタルモ乙ナリシ場合ノ刑（大一四・中・吉田）
▽刑法改正豫備草案第一〇條、第一一條（條文略ス）ノ論評（昭五・明・草野）
三九　責任能力（大九・京・瀧川。大一三・明・岡田）
▽責任無能力者（昭五・明・岡田）（共通）四〇・四一
▽心神喪失者ヲ罰セサル理由（大一五・東・小野）
▽飲酒シテ心神喪失ニ陷リ殺人ヲ爲セル者ノ處分、飲酒ノトキ殺人ノ意思ナカリシトキノ處分（大一一・行口）
四二　誤告罪（昭三・明・岡田）

43　未遂罪ノ成立ハ犯人ノ意思活動ニ因リ一定ノ犯罪構成要素ノ全部ヲ充實シ得ヘキ場合ニ限リ認ムヘシ（昭五・朝高「評論二〇卷一號一四四頁」）— 既遂罪ノ成否ハ犯罪行爲ノ着手當初ヲ標準トシ各場合ノ目的物手段其ノ相互ヲ深ク考察シ一般社會觀念ニ從テ判斷スヘキナリ（同上）— 本條但書ノ場合ニハ犯人自ラ犯罪ノ完成ヲ現實ニ妨害シタル事實存スルヲ要ス（昭四・大審「評論一九卷一號一九八頁」）

第八章　未遂罪

第四十六條　犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス
◇六八以下。刑訴三五九。三六〇2項。
第四十七條　未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム
◇七七2項＝謀議參與者。八七＝外患ニ關スル罪ノ未遂罪。一〇二＝逃走ノ罪ノ未遂罪。一一二。一二八。一三五。一四一。一五一。一五七3項。一五八2項。一六一2項。一六三2項。一六八。一七四。一七五。一八〇。一八二。一八三。一八八2項。一八九。一九二。二〇三。二一一。二一五2項。二一三3項。二二八。二四三。二五〇。

【問題】

第四十六條　未遂罪
第三　未遂犯ノ意義（大一一・東・牧野。大一四・東・小野）
▼犯意及ビ未遂（大四、大六、昭四・行口）
▽中止犯ニ特例ヲ設ケ未遂ヲ罰シ、減刑シ、未遂ノ減刑ヲ規定スル理由（大四・東・牧野。大四・法）
▽未遂罪ニ關スル規定ノ論評（昭二・東・牧野）
▼故意ト未遂（大三・行口）
▽着手ノ觀念（昭四・行。昭五・日・小林）
▼未遂犯ノ着手（大五・行口）
▽不作爲犯ニ未遂アリヤ（大八・中・泉二）
▽過失犯ノ未遂（大一三・中・宮本）
▽普通未遂ト中止未遂（大一三・中・泉二。大一三・明・岡田）
▽強盜罪ト未遂罪（昭四・東・小野）（共通）七八
▽中止犯（大一〇・中・林。大一一・關・橋本。昭五・鍋。昭五・明・岡田。昭六・行。昭六・京・宮本）
▽不能犯（大三・京・勝本。大一三・中・吉田。昭三・東・牧野。昭四・關・宮本）
四四　未遂ノ處分（大一〇・中・林。昭二・外。昭五・明・岡田）

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

◇五六＝懲役ト累犯。刑訴三九五＝控訴ノ提起期間・四二八＝上告ノ提起期間・五三三＝正式裁判ノ請求ノ取下。違警罪即決例七。印紙稅法一四

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

◇一〇＝刑ノ輕重・一四＝刑ノ加減例・七二＝刑ノ加減順序。

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

◇刑訴五三七＝刑ノ執行順序。

第九章 併合罪

四五 ▼一罪ト數罪トノ區別(大二・關・山田) ▽數罪ノ關係(大八・司口。大一一・行口) ▽數罪算定標準(昭三、昭五・日・島田) ▽併合罪ト累犯トノ異同(大四・中・泉二) (共通) 五六 ▽併合罪ト連續犯トノ差異(昭三・鵜) (共通) 五五

54 領得手段トシテ欺罔及恐喝ヲ併施シタル場合ハ本號第一項前段ヲ適用シ一ノ重シト認ムル刑ヲ以テ處罰スヘシ（昭五・大審「評論一九卷八號二三〇頁」）— 住居侵入ハ強盜若ハ放火ニ對シ通常用ヒラルヘキ手段ナルヲ以テ住居ニ侵入シ強盜若ハ放火ヲ爲シタル場合ハ右住居侵入ハ強盜若ハ放火ニ對シ所謂手段結果ノ關係ニアリ（昭五・大審「評論二〇卷三號一四六頁」）

55 初發ノ犯意ノ一部ノミ實行セラレテ尚繼續中之ニ添加セラ

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

◇刑訴三七五＝代理人ノ意見ヲ聽クヘキ場合。恩赦令二・三。

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

◇一〇＝刑ノ輕重。

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

◇五＝減輕免除・三二＝時效ニ因ル刑ノ執行免除・五九＝三犯・二二以下・四五＝併合罪。恩赦令五。

五四 ▼想像上ノ併合罪(昭五・明・岡田。昭六・九・宮本) ▼想像上數罪ノ倶發(大二・行口) ▽第五四條ノ説明(大二・京・勝本) ▽牽連犯ノ要件。牽連犯ハ一罪ナリヤ數罪ナリヤ(大三・東・牧野) ▼牽連犯及ヒ併合罪(昭五・司口)

五五 ▽繼續犯(大二・法) 數個ノ行爲ニヨリテ一罪ノ成立スル場合(昭五・早・岡田) ▽連續犯(大二・東・牧野。昭五、昭六・明・岡田) ▼連續犯ニ過失犯アリヤ(大五、昭五・行口) ▽連續犯ト併合罪ノ區別(昭三・明・岡田) (共通) 四五 ▼連續犯ト繼續犯ノ區別(大一一、昭四・司口)

第一〇章 累犯

五六 累犯(大二・日・山岡。昭二、昭四・明・岡田。昭

犯ノ初當ハ部全ノ爲行セル因起ニ意犯レレナ係關ノ分可不テ
罪行爲ト共ニ連續一罪ヲ組成ス（昭六・大審「評論二〇卷八號一四八頁」）

60 數人共同シテ犯罪ノ實行ヲ謀リ共謀者中ノ或者ヲシテ實行ヲ任ニ當ラシメ之ヲシテ他者ニ代リ犯罪ノ意思ヲ遂行セシメタル者モ亦共同正犯トシテ罪責ヲ負擔スヘキモノトス（昭三・大審「評論一八卷四號二〇八頁」）

共犯ノ際ハ數人共謀シ罪ヲ犯セル

第五十七條　再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條　裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

◇刑訴三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上告ノ提起期間・二七五ニ代理人ノ意見ヲ聽クヘキ場合。刑五ニ減輕免除三一ニ時效ノ效果・恩赦令五

第五十九條　三犯以上ノ者ト雖モ仍本再犯ノ例ニ同シ

◇五六ニ懲役ト累犯・五七ニ再犯・五八。

第十一章　共犯

第六十條　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

◇六四ニ身分犯ノ共犯。刑訴八ニ教唆ノ事件・二八八ニ證言ノ拒絕・二〇一・二三八・二六八・二八四・二八五・二九七。

第六十一條　人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ重犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

◇六四ニ拘留又ハ科料ノミニ該ル罪・六五ニ身分犯ノ共犯。刑訴八ニ教唆ノ事件・一八八・二〇一・五十三條・二六八・二八四・二八五・二九七。

四・外）

第一一章　共犯

六〇　共犯ノ從屬性（大八・東・牧野。大一一・京・瀧川。大一四・日・島田。昭三・行）

▽必要的共犯ト任意的共犯（昭三・中・平井）

▽共同正犯（大一二・京・宮本）

▽共犯ノ種類（大一四・日・島田）

▽共同正犯ト幇助犯トノ區別（昭六・緯）

▽正犯ト從犯トノ區別（昭六・日・島田）（共通）六二

▽間接正犯（大三・日。大三・大四・京・勝本。大一四・中・吉田。昭三・中・平井。昭六・中・林）

六一　教唆犯（昭三・明・岡田。昭三・早・岡田。昭四・緯）

▽教唆犯ノ獨立性（昭四・岡・宮本）

▽主觀主義ト客觀主義トノ差ニヨル教唆犯ノ觀念ノ差異（昭六・明・岡田）

▽教唆ト精神幇助トノ區別（大八・日・山岡）

▽教唆及ヒ間接正犯ノ意義、區別及區別ノ必要ノ有無（昭四・京・瀧川）

▼教唆犯ト共犯（大五・行口）

▽刑法改正豫備草案第二七條（條文略ス）ノ規定ノ論評（昭五・明・草野）

一體ノ關係ニ於テ相互ニ手足ト爲リ共同目的ヲ遂行スルモノナレハ從犯者全員ノ共犯ハ法律上ニ於テ主トシテ爲セル甲ハ教唆者ト見ルヘキナリ（昭五・大審「評論一九卷八號二三七頁」）

61　教唆者カ教唆行爲ヲセル後自ラ被教唆者ト其實行ヲ共ニスルニ至リシ際ハ前ノ教唆行爲ハ後ノ正犯行爲ニ吸收合一セラレシ（昭四・大審「評論一八卷七號一四六頁」）

62　犯罪ノ幫助ハ犯罪ノ直接間接ニ人ノ犯罪アルヲ知リテ犯罪ノ遂行ヲ補助シタル者ハ從犯トス

第六十二條　正犯ヲ幇助シタル者ハ從犯ニ準ス

◇六三ニ從犯ノ刑・六四ニ教唆・六五ニ身分犯ノ共犯。刑訴八・一八八・二〇一・二三八・二六八・二八四・二八五・二九七。

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

◇六二ニ從犯ノ刑。刑訴三六〇2項ニ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張。所得稅法七七。

第六十四條　拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

◇六一ニ教唆・六二ニ從犯ノ刑。警四。

第六十五條　犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

◇九七ニ未決囚人・一二四ニ秘密漏泄罪・一五六ニ公務員ノ印章等名・二六〇ニ醫師ノ虛僞記載罪・一八五・一八四・一九七・二四七・二五三等・一〇一・二三八・一八六1項・一九四・二〇〇・二〇五2項・二一四・二一八・二二〇2項等

第十二章　酌量減輕

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

◇七一ニ酌量減輕ノ標準・法方法七二ニ酌量減輕ノ適用順序。所得稅法七七。印紙稅法一四等。

第六十七條　法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

◇四七ニ併合罪ノ加重・五七ニ再犯・三六ニ過剩防衛・二七・四〇・四二・四三・六三・一七〇・一七一・一七三・一九八。

六二　從犯（昭三・昭五・外）

六五　犯罪ト身分トノ關係（大三・外口）

六六　法益所有者ノ承諾カ犯罪及刑罰ニ及ホス影響（昭三・明・岡田）

不要必ニ行遂其遂リ足ヲ以テ之ヲ容易ナラシメタルノミヲ以テ便宜ヲ與ヘ可欠爲行ヲ爲アルヲ要セス（昭四・大審「評論一八卷五號一五八頁」）

第十三章　加減例

第六十八條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原因アルトキハ左ノ例ニ依ル

一　死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四　罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五　拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ヲ二分ノ一ヲ減ス

六　科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

◇四二＝自首首服・四〇＝瘖啞者ノ行爲・四三＝中止犯・六三・一七〇・一七一・一七三・一九八・六九—七一・二七—二九。

第六十九條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

◇三六—四〇＝犯罪ノ不成立・四二＝自首首服・四三＝未遂罪・六三・一七〇・一七一・一七三・一九八。

第七十條　懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

◇六八＝罰金ノ輕減・七一＝酌量減輕ノ原因。

第七十一條　酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

◇六六＝刑ノ酌量減輕。

第七十二條　同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一　再犯加重

二　法律上ノ減輕

三　併合罪ノ加重

四　酌量減輕

◇五七＝再犯・五九＝三犯・三六—四〇＝犯罪ノ不成立・四二・四三・四七・六三・六六・一七〇・一七一・一七三・一九八。

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第七十三條　天皇、太皇太后、皇太后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

◇二＝國外犯・七八＝內亂陰謀・七九＝內亂幇助・八〇＝內亂ニ關スル罪。裁構五〇2。陪四。刑訴二八一1項。

第七十四條　天皇、太皇太后、皇太后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

◇二＝國外犯。刑訴二八一4項＝懲役ニ該ル罪ノ時效。陪審法四。請願令一六。

第七十五條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

◇二＝國外犯・七三＝皇室ニ對スル罪。典範三〇。裁構五〇2。陪四。刑訴二八一1、2。少年法七2項。

第七十六條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

◇二＝國外犯・七四＝皇室ニ對スル罪。典範三〇。陪四。刑訴二八一5。

第二章　內亂ニ關スル罪

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

◇二＝國外犯・七八＝內亂陰謀・七九＝內亂幇助・一〇六＝騷擾ノ罪。裁構五〇2。陪四。刑訴二八1—5。少年法七1項。

第七十八條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

◇二＝國外犯・七七＝內亂・七九＝內亂幇助・八〇＝內亂ニ關スル罪。裁構五〇2。陪四。刑訴二八一3。治安維持法一—四。

第七十九條　兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

◇二＝國外犯・七七＝謀議參與者・七八＝內亂陰謀・八〇＝內亂ニ關スル罪。裁構五〇2。陪四。刑訴二八一4。治安維持法五。

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

七四　不敬罪（大二・京・勝本）（共通）七六

第二章　內亂ニ關スル罪

七七　暴動ト暴行ノ差別（大四・立・富田）（共通）九〇

▽內亂罪ノ故意（大一四・中・草野）

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

◇四二ニ自首。刑訴三五九ニ免刑判決・三六〇2項ニ刑ノ加重減免ノ原因タル事實上ノ主張。

第三章　外患ニ關スル罪

第八十一條　外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

◇二ニ國外犯・八七ニ未遂罪ヲ罪スル場合・八八ニ外患陸海・八九ニ戰時同盟國。陪四。刑訴二八一1。少年法七1項。

第八十二條　要塞、陣營、軍艦、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

◇二ニ國外犯・八七—八九。刑訴二八一1ニ死刑ニ該ル罪ノ時效。少年法七1項。

第八十三條　敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、艦道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若シクハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

◇二・八七—八九。刑訴二八一1。少年法七1項。

第八十四條　帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

◇二ニ國外犯・八七—八九。刑訴二八一3ニ懲役ニ該ル罪ノ時效。陪四。

第八十五條　敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

◇二・八七—八九。陪四。刑訴二八一3。

第八十六條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

◇二・八七—八九。陪四。刑訴二八一3。

第八十七條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇二・四三ニ未遂罪。陪四。

第八十八條　第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

◇陪四。刑訴二八一3。

第八十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

◇二ニ國外犯。陪四。

第四章　國交ニ關スル罪

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

◇二三〇ニ名譽毀損罪・二三一ニ名譽ニ對スル罪。陪四。刑訴二八一4・5。

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

◇二三〇・二三一ニ名譽ニ對スル罪。陪四。刑訴二八一5。

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

◇刑訴二八一5ニ懲役ニ該ル罪ノ時效。陪四。

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

◇四二ニ自首減。刑訴二八一4・三五九ニ免刑判決・三六〇2項ニ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張。陪四。

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◇陪四。刑訴八二一5。

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

◇七ニ公務員ノ意義。刑訴二八一5。請願令一五

第九十六條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇七ニ公務員ノ意義。民訴五六六・刑訴二八一5。

95　自ラ主動者ト爲リ多數ヲ聚合シ村會議場ニ於テ議員ノ職務執行ヲ妨害セルトキハ暴行脅迫ヲ爲サシメ議員ヲシテ至ラシメ公務執行妨害ノ教唆者ヲ以テ論スヘシ（昭二・大審大判二五〇頁）

九五　職權亂用ニ出テタル公務執行ヲ妨害スル者ノ責任（大二・一・日・泉二）

▽公務執行妨害（大二・立。大一一・中・草野）

第六章　逃走ノ罪

第九十七條　既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

◇九八＝加重逃走罪・一〇二＝未遂罪ヲ罪スル場合・二六＝拘留ノ範圍・一八＝罰金ノ換刑處分・一一—一三。刑訴九〇＝拘留ノ原由・九一・九三・二二九・五三四・二八一5。監二二。

第九十八條　既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇一〇二＝未遂罪ヲ罪スル場合・一一—一三・一六・二八。刑訴九〇＝拘留ノ原由・八六—八九・九一・九三—九五・二二三・一二五・五三四・二八一4。監一。監施四八。階三。

第九十九條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇一〇二＝未遂罪ヲ罪スル場合。階三。刑訴二八一4。

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムル可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇一〇二。刑訴二八一4、5。階三。

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

◇四＝國外犯・一〇二＝未遂罪ヲ罪スル場合。刑訴二八一3。階二。

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三＝未遂罪。

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

104 本條被告事件ニハ裁判所ニ繫屬スルモノト檢事捜査中ニ屬スルモノトヲ包含ス（昭三・大審「大判五九一頁」）

106 小作料輕減ヲ地主ニ請求シ其目的遂行ノ爲多衆集合シ暴行脅迫セル場合ノ行爲ハ騷擾罪ト恐喝罪トノ二罪名ニ關スルモノトス（昭二・大審「大判六七頁」）

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇一〇五＝逃走者ノ親族。刑訴二八一5・八・二〇一。證發物取締規則。

第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

◇民七二五＝親族。

第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多衆集合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

◇七七＝內亂ノ罪。階四。刑訴二八一3—5。衆議院議員選擧法。

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲スノ多衆集合シタル場合ニ於テ常該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及ヒ尚ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

◇階四。刑訴二八一5。衆議院議員選擧法八・一二・二三・二六。治安警察法八・一二・二三・二六。

一〇四　逮捕、行使、交付ノ意義（大一四・中・草野）

一〇五　親族關係カ犯罪及刑罰ニ及ス影響（昭三・明・黃田）（共通）二〇〇・一八三・一八四・二一八・二四四・二五五・二五七

第八章　騷擾ノ罪

一〇六　騷擾罪ノ意義並ニソノ構成要件（大二・刑・中西、大二・日・泉二）

▽暴行脅迫ノ說明（昭三・昭五・京・宮本）（共通）一七六・一七七・一二三・二三六

▽騷擾（大一・大四・大六・二日）

▽騷擾罪（大二・大四・大六・二日）

一〇八　第一〇八條ノ罪（第六・日・黃田）

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

108 放火ノ行爲カ一定ノ目的物上ニ行ハレ導火材料ヲ離レ獨立シテ燃燒作用ヲ營ミ得ヘキ狀態ニ達シタルトキハ放火犯既遂ヲ以テ論スヘシ（昭六・大審「評論二〇卷三號一五二頁」）一本條ニ於テ人トハ犯人以外ノ者ヲ指稱ス（昭四・大審「評論一八卷一一號二六七頁」）一一棟ノ家屋ハ縱令數戶ニ區劃セラルルモ一個ノ家屋ニ外ナラサレハ其內一戶カ現ニ人ノ住居ニ使用セラルルトキハ他ハ空家ナルモ右家屋ハ現ニ人ノ住居ニ使用スル建物ナリト謂

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

第百八條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・一一二—一一三＝未遂罪。附二。刑訴二八一1項。少七1項。

第百九條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

◇三＝國外犯・一一二—一一三＝放火犯ノ未遂罪。一一五＝放火犯。附三。刑訴二八一3・4。

第百十條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇一一一＝延燒・一一五・放火犯。附三。刑訴二八一3・二八一5。

第百十一條　第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

◇附三＝正式裁判ノ請求。刑訴二八一3・二八一5。

一〇八　第一〇八條ノ說明（昭六・日・島田）

▼放火罪（大二、大四、大九・行口）

▽燒燬ノ意義（昭五・日・宮城）

▽不作爲ニヨル放火罪ノ成立（大一〇・中・草野）

一〇九　現住家屋ヲ燒カンカタメ隣ノ空屋ニ放火シテ空屋ノミヲ燒キタルモノノ責任（大五・法・草野）

▽火ヲ放テテ住家ト空家ヲ燒キタルモノニ對シテ刑法第五四條ノ適用アリヤ（大四・東・牧野）

▽自己ノ住家ニ放火シテ隣家ノ物置ヲ燒キタルモノヲ處分（大六・日・泉一六・昭四・明・猪股）

▽甲ハ保險金詐取ト乙殺害ノ目的トヲ以テ乙ノ住ム自己賃家ヲ燒燬セルニ乙夜逃ケノ後ニテ偶其家ニ居タル旅客人丙ヲ燒死セシメタリ甲ノ刑責如何（昭六・東・北・久保田）（共通）一九九・二四六

（頁四四一號〇一卷七一論評「審大・三昭）ヘシ

第百十二條　第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三＝未遂罪ト刑ノ成立。

第百十三條　第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

◇刑訴＝三五九＝免刑判決・二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第百十四條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

◇附三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一5。

第百十五條　第百九條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

◇三＝國外犯・一〇九1項＝放火罪・一一〇1項＝放火罪・一一二—一一三。附三＝正式ノ裁判ノ請求。

第百十六條　火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效ノ完成。

第百十七條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

◇三＝國外犯・一〇八—一一〇＝放火罪・一一五—一一六＝燒燬。附二・三。爆發物取締罰則一・三。銃砲火藥類取締法。

一一五　自己所有物ヲ燒燬シ他人所有物ノ燒燬ト同一責任ヲ負フ場合（昭四・明・岡田）（共通）一〇九・一一〇

123 公共ノ水路ヨリ一私人ノ所有地ヲ通過シテ流下スル水ヲ下流ニ於テ慣習上使用スル權利ヲ有スル者アル場合ニ上流地所有者カ故意ニ水路ヲ塞塞シテ流水使用ノ途ヲ杜絶シタルトキハ水利妨害罪ヲ構成ス（昭四・大審「大判三〇二頁」）

第百十八條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇二〇四以下ニ傷害罪。刑訴二八一2・5ニ無期長期ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ時效完成。階二・三。

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

◇二ニ國外犯。刑訴二八一1ニ死刑ニ該ル罪ニ付テハ十年十五年ニ時效完成。階二〇。少七1項。

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル

◇階三ニ正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3ニ長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年ニ時效完成。

第百二十一條　水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

◇刑訴二八一3。階三ニ正式ノ裁判ノ請求。

第百二十二條　過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5ニ長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ二年ニ時效完成。

第百二十三條　堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5。警二23・三16。

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條　陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ塞塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇一二八ニ未遂罪ヲ罰スル場合・二〇四以下ニ傷害罪。刑訴二八一2—5。警二11—13。階二・三。

第百二十五條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ

130 借家人カ賃貸借解除ニ因ル家屋明渡義務ヲ履行セサレタル場合ハ其住宅ニ對スル占有カ適法ニ家主ニ回復セラレサル限リハ之ノ家主ノ侵入ノ罪ヲ構成スルモノトス（昭三・大審「評論一七卷一〇號一四一頁」）— 本條ノ退去ヲ要求シ得ヘキ者ハ看守者若クハ住居者タル人ニ限ラス家族其他ノ者ト雖本人ノ爲ニ計リテ住居權ヲ行使スルコトヲ認容セラレタリト推測スヘキ場合ニ於テハ退去ヲ要求シ得ヘキ者ハ住居權利者ニ限ル（大）

方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

◇一二八ニ未遂罪ヲ罰スル場合。階三ニ正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3。

第百二十六條　人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顚覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

◇一二八ニ未遂罪ヲ罰スル場合。階二。少七1項。刑訴二八一12。

第百二十七條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

◇階二。

第百二十八條　第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三ニ未遂罪ノ處罰。

第百二十九條　過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5ニ長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

◇一三二ニ未遂罪ヲ罰スル場合。刑訴二八一5。警一1。

第一二章　住居ヲ侵ス罪

一三〇　住居ヲ侵ス罪ノ概念（大九・中・草野）

▽邸宅ノ意義（昭五・日・宮城）

▽家主カ貸借期間ヲ過キタル自己所有ノ借家中ニ入リ賃借人ノ要求ニ應セスシテ立チ去ラサルハ家宅侵入ノ罪ナリヤ（大四・立・富田）

汚ヲ居家セル家屋ヲ住居スル人ノ意思ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

◇一三二ニ＝未遂罪ヲ罰スル場合。刑訴二八一4。刑訴二八一5。警二22。

第百三十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三五＝未遂罪ノ處罰。

第十三章　祕密ヲ侵ス罪

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇三三五＝親告罪。二一五九＝公務所ノ用ニ供スル文書毀棄罪。二一五八＝權利義務ニ關スル文書毀棄罪。二一八三＝信書開披罪。刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禮記ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキ亦同シ

◇一三五＝親告罪。刑訴二八一5。公證人法四。

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

◇刑訴二五八・二六〇・二六三＝告訴權者・二六五＝告訴權行使ニ關スル制限。

第十四章　阿片煙ニ關スル罪

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

◇一四一＝未遂罪ヲ罰スル場合。階三＝正式裁判ノ請求。刑訴二八一4＝長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇一四一＝未遂罪ヲ罰スル場合。階三。刑訴二八一4。

第百三十八條　稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス。

◇一四一＝未遂罪ヲ罰スル場合。階三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3＝長期十年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年ニ時效完成。

第百三十九條　阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

148 偽造ノ行使ヲ爲シテ詐欺ヲ行ヘル者ハ偽造ノ有價證券ヲ行使シテ詐欺ヲ行ヘル者ニ非ス（昭二・一地盛）「新報一二五號二五頁」

中ニ包含セラレ別罪ヲ構成スルモノニ非ス（昭二・一地盛）「新報一二五號二五頁」

◇一四一＝未遂罪ヲ罰スル場合。刑訴二八一4。

第百四十條　阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

◇一四一。刑訴二八一5。

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三＝未遂罪ノ處罰。

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5。警二22。

第百四十三條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

◇階三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4。

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル浮水ノ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇二〇四以下＝傷害罪。階二・三。

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

◇階二三。刑訴二八一1・3＝死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年ノ長期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年ニ時效完成。少七1項。

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ閉塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

◇階三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3。

第十六章　通貨偽造ノ罪

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

◇二＝國外犯。一五一＝未遂罪ヲ罰スル場合。一五三。階二。刑訴二八一2。少七1項。通貨及證券模造取締法。紙幣類似證券取締法。

154 文書偽造罪ノ成立ニハ法律カ保護スル文書ノ眞正ヲ許ササルニ因リ之ニ對スル公ノ信憑力ヲ害スル危險アルコトヲ以テ足ル（昭五・大審「評論二〇卷一號一三二頁」）

第百四十九條　行使ノ目的ヲ以テ內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

◇一五一〜未遂罪ヲ罰スル場合・一五三〜通貨偽造ノ罪。附三〜正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3

第百五十條　行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

◇一五一。刑訴二八一5。

第百五十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇二〜國外犯・四三〜未遂罪。

第百五十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

◇刑訴二八一5〜長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第百五十三條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇附三〜正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4〜長期十年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年ニ時效完成。

第十七章　文書偽造ノ罪

第百五十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

◇二〜國外犯。附三。刑訴二八一2〜無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年ニ時效完成。少七1項。公式令一。

▽差異（昭二・明・岡田）（共通）一六四

▽通貨偽造罪ノ說明（昭二・緣。昭六・東北・久禮田）

▽偽造通貨ヲ以テ物品ヲ買求メタル者ノ責任（昭六・緣）（共通）一五二・二四大

一五三　偽造通貨ノ行使、交付（大三・日。昭六・緣）

第十七章　文書偽造ノ罪

一五四　刑法上ノ文書（大四・刑・宮本）（共通）一五九

▽有形偽造ト無形偽造トノ區別（大七・日・泉二。大二・大一五・中・平井。昭三・中・飯塚）（共通）一五七

▼文書偽造（大元、大三、大五・行口）

▼公文書ノ偽造（昭三・司口）（共通）一五五

155 公文書偽造行爲ト私文書偽造行爲トハ文書ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ連續犯ヲ構成セサルモノトス（昭四・大審「評論一八卷一一號二五七頁」）

156 村會會議錄ニ會議顚末ノ一部ヲ記載セサルコトニヨリ會議ノ顚末ヲ偽リタル場合ニ於テハ會議錄ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルモノニ該當ス（昭二・大審「大判二九五頁」）

第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇二〜國外犯。七〜公務員、公務所ノ意義。刑訴二八一3・5。附二。

第百五十六條　公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

◇四〜公務員ノ國外犯・七〜公務所ノ意義・一五四〜大權文書偽造罪・一五五〜公文書ノ變造又ハ偽造罪。附二・三。刑訴二八一1・2・3・5。少七1項。

第百五十七條　公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇二〜國外犯・七〜公務員、公務所ノ意義・四三〜未遂罪。刑訴二八一5。

第百五十八條　前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ眞偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇二〜國外犯・一五四〜一五七〜文書偽造ノ罪・四三〜未遂罪。附二・三。

一五六　第一五六條ノ說明（昭四・緣）

一五七　第一五七條第一項ノ說明（昭三・緣）

▽無形偽造罪（昭三・中・飯塚）（共通）一五七・一六〇

▽行使ノ目的ヲ以テ受理信書ニ對シ日付印中ノ時刻ヲ變更シ消印セル郵便局員ノ責任（昭四・中・飯塚）

159 印章ノ押捺ノミアリテ金額ノ記載ナキ保險契約申込書ヲ受取リ承諾以外ノ金額ヲ記入シ申込書ヲ作成スルハ文書變造ニ非スシテ其偽造ナリ（昭六・大審「評論二〇巻三號一五六頁」）

162 他人ノ印章若ハ署名ヲ偽造使用シ有價證券ニ虚偽ノ記入セル偽造使用ハ虚偽記入罪ニ包含セラルヘク別ニ第一六七條ヲ適用セス（昭四・大審「評論一九巻一號二〇三頁」）

第百五十九條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇三＝國外犯。刑訴二八一4・5＝長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。民八四2＝法人ノ財產目錄及ヒ社員名簿ノ作製。商二六二ノ二6・8・9。破二七四3・4・二七五4・5c 附三。

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇三＝國外犯。刑訴二八一5。

第百六十一條　前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇三＝國外犯・一五九＝私文書變造罪・一六〇＝醫師ノ虚偽記入罪・四三＝未遂罪。附三。

第十八章　有價證券偽造ノ罪

第百六十二條　行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官廳ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

◇三＝國外犯。附三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3。

一五九　名義人不明ノ文書又ハ虚偽ノ人名義ヲ以テスル文書ノ偽造ノ處置（大四・法。大五・中・牧野。大五・法・草野。大一〇・京・瀧川）

▽文書變造ノ概念並ニ證案トノ別（昭二・早・新保）

▽代理名義ヲ冒稱シテ作ス文書偽造ノ處置（昭三・中・吉田。昭四・東・牧野）

▽偽造・變造・證案ノ區別（大九・明・岡田。大一四・明・岡田。大一四・司・口。昭二・早・新保。昭五・中・飯塚）（判例）二五八・二五九

▽第一五九條ト第一六〇條トノ關係（昭四・東・小野）（判例）一六〇

167 印章其ニ紙白ヲ以テ的ヲ以テ使行偽造ヲ書收領員金ノ人他ノ印章ヲ盜捺スルモノトスルモノニ過ギサルモ偽行備豫ノ罪用使用不正不印章ニスル捺盜ヲ（昭四・大審「大判五五七頁」）

第百六十三條　偽造、變造ノ有價證券又ハ虚偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇二＝國外犯・四三＝未遂罪ノ處罰。附三。

第十九章　印章偽造ノ罪

第百六十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

◇二＝國外犯・一六八＝未遂罪ヲ罰ス。刑訴二八一3。

第百六十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

◇二＝國外犯・七＝公務員、公務所ノ意義・一六八＝未遂罪ヲ罰スル場合。刑訴二八一4。附三。

第百六十六條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

◇二＝國外犯。七・一六八＝未遂罪ヲ罰ス場合。附三。刑訴二八一4＝長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年ニ時效完成。

第百六十七條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

◇三＝國外犯。一六八＝未遂罪ヲ罰スル場合。刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該スル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第百六十八條　第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三＝未遂罪ノ處罰。

第二十九章　印章偽造ノ罪

第一六四—文書偽造ト印章偽造トノ關係（大三・日）

（判例）一五四・一五九・一六七

▽印章（昭六・明・岡田）

タル以上虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪成立ス（昭四・大審「評論」一八卷一一號二八六頁）

69 證人タル資格ナキ者ト雖モ證人トシテ適法ノ宣誓ヲ爲シタル者ハ其虚偽ノ陳述ヲ爲シ

172 誣告罪ニ於ケル虚偽ノ申告ハ刑事又ハ懲戒ノ處分ノ關シ當該官廳ノ職權ノ發動ヲ促スニ足ルヘキ虞アル程度ニ在ル事實ヲ示スヲ以テ足リ必スシモ申告スヘキ事實ヲ具體的ニ詳記スルヲ要セス（昭二・大審「大判一〇三頁」）

第二十章　偽證ノ罪

第百六十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

◇陪三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴八＝數個ノ事件・二〇一＝證人ノ宣誓・二八一3・一九六以下。民訴二八五以下。

第百七十條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

◇六八以下＝刑ノ加減例。刑訴三五九＝免刑判決

第百七十一條　法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

◇陪三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴八＝數個ノ事件。二〇一＝證人ノ宣誓。二二〇＝鑑定人ノ宣誓。二三五・二八一3。民訴三〇一・二八五。陪三。

第二十一章　誣告ノ罪

第百七十二條　人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

◇陪三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3。

第百七十三條　前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

◇六八以下＝刑ノ加減例。刑訴三五九＝免刑判決

第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

◇刑訴二八一7＝拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月ニ時效完成。

第二〇章　偽證ノ罪

一六九　偽證罪（大三・大五・行口。大一四・日・山岡。昭五・司口）

▽偽證罪ノ構成要件（昭三・明・岡田）

▽偽證罪ノ目的物（大一三・日・泉二）

▽偽證ノ教唆ノ成立ニハ教唆者ニ於テ證人ノ供述カ其ノ記憶ニ反スル事實ヲ知ルテ以テ足リ供述ノ眞實ナルコトヲ確信スルト否トヲ問ハサルカ（大三・東・牧野）

第二一章　誣告ノ罪

一七二　誣告（昭四・早・岡田）

第二二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

一七四　猥褻ノ意義（大二・立・勝本）

第百七十五條　猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第百七十六條　十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歲ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

◇三＝國外犯一七九＝未遂罪ヲ罰スル場合・一八〇＝親告罪。陪三。刑訴二八一4。

第百七十七條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歲以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ强姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歲ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

◇三＝國外犯・一七九・一八〇。陪三。刑訴二八一3＝長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年ニ時效完成。

第百七十八條　人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

◇三＝國外犯・一七九・一八〇。陪三。刑訴二八一

第百七十九條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

3・4。

◇四三＝未遂罪ノ處罰・一八〇＝親告罪。

第百八十條　前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

◇刑訴二六三＝告訴權者・二六五＝告訴權行使ニ關スル制限・二五八・二六〇・二六一。

第百八十一條　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯。陪二。刑訴二八一2、少七1項。

第百八十二條　營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。警2

第百八十三條　有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

◇刑訴二五八＝告訴權者・二六四＝告訴ノ取消・二六五＝告訴權行使ニ關スル制限・二六八3項＝告訴不可分ノ原則二八一5。民八一四。

一八三　姦通罪（昭二・京・瀧川）

▽姦通罪ノ規定ノ論評（昭二・司）

185 財物ヲ賭スルトハ一定ノ財物ヲ勝者ニ交付スルコトヲ豫メ約束スルノ謂ニシテ現實ノ提供ヲ必要トセス（昭五・五・大審「評論二〇卷一號二〇〇頁」）— 金錢ヲ賭セル麻雀戲ハ偶然ノ輸贏ヲ爭フモノナリ（昭六・大審「評論二〇卷五號一六二頁」）— 偶然ノ輸贏ニ關シ金錢ヲ得喪ノ目的物トセル場合ニハ其賭セル金錢ノ多寡ニ拘ラス其物カ金錢タル性質上之ヲ以テ娯樂ニ供スル物ヲ賭シタリト云フヲ得ス（昭三・大判「評論一八卷三號二二三頁」）

第百八十四條　配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

◇三二國外犯。刑訴二八一5。民七六六＝重婚禁止・七七六＝婚姻ノ屆出ノ受理・七八〇＝婚姻ノ取消・八一三1。

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條　偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娯樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

◇刑訴二八一6＝時效完成期間六月。

第百八十六條　常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ二箇以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇略三＝並式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4・5。

第百八十七條　富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年時效完成。

一八四　妻乙ト友人丙ノ結婚ヲ希望セル甲カ離婚手續ノ不快ヲ免ルルタメ妻ニ自殺ノ旨ノ遺言ヲ殘シ家出セルニ偶然滿死者アリ乙之ヲ甲ト誤信シ甲ハ死亡者トシテ登記サレシ後乙丙結婚セリ甲乙丙ハ刑事上責任ヲ負フヤ（昭四・京・瀧川）

第二三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

▽本章ノ罪（昭四・行口）

一八五　賭博罪ノ構成要素（昭四・明・岡田）

▽博戲賭事ノ意義（昭六・中・草野）

第二四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條　神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5。警二933。

▽冒瀆罪（昭六・九・宮本）

195 本條ニ陵虐ノ行爲トハ被害者ヲ陵虐苛虐スル一切ノ行爲ヲ謂フ（大一四・四・大審「大判三八六頁」）

199 陵虐ノ結果ヲ生シタルトキハ被害者ノ意思ニ反スルト否ヤトハ之ニ關係ナキモノトス（大一四・三・大審「大判三八六頁」）

被害者カ陵虐ノ原因ヲ自己ノ行爲ニ因リテ惹起シタルトキハ陵虐ノ成立ヲ阻却スルモノトス（大一四・一一・大審「新報四六號一一八頁」）

第百八十九條　墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

◇刑訴二八一5。警二33。

第百九十條　死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

◇刑訴二八一5。警三1。

第百九十一條　第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇附三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4＝長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年ニ時效完成。

第百九十二條　檢屍ヲ妨ケシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

◇刑訴一八二＝變死者・二八一5。

第二十五章　瀆職ノ罪

第百九十三條　公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

◇四＝國外犯・七＝公務員、公務所ノ意義。刑訴二八一5。

第百九十四條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ輔助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

◇二二〇＝尊屬逮捕監禁罪。附三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4・三一七・四八五—四八八。

第百九十五條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

◇刑＝國外犯。刑訴三一七＝再審ノ公訴提起・四八五—四八八＝再審ノ原由・二八一5。

第百九十六條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇四＝國外犯・二〇四以下＝傷害罪。附二・三。刑訴二一七・四八五—四八八。

第二五章　瀆職ノ罪

一九七　收賄罪（大三・京・勝本。大二、大三、昭二、昭四・司口。昭五・明・岡田）

▽賄賂ノ意義（昭五・明・岡田）

197 公務員カ賄賂ト然ラサル謝禮ヲ兼ネ之ヲ分別シ得サル金錢ヲ受領セルトキハ其額面全部ヲ没收若ハ追徵スヘキモノトス（昭三・大審「大判三八九頁」）

199 偶々殺人ノ被害者ノ羸弱カ死亡ノ結果ヲ容易ナラシメタルノ所以ヲ以テ因果關係ノ成立ヲ阻却スルモノニアラス（大一四・大審「新報四六號一一八頁」）

第百九十七條　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ没收ス若シ其全部又ハ一部ヲ没收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

◇四＝國外犯・七＝公務員＝公務所ノ意義。民訴七八＝仲裁契約ノ成立要件。刑訴二八一35。三一七・四八五—四八八＝再審ノ原由・五五三—五五五。附三。

第百九十八條　公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

◇七＝公務員、公務所ノ意義・六八以下＝刑ノ加減例。民訴七八六。刑訴二八一5・三五九。

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯。二〇二＝未遂罪ヲ罰スル場合・七三・七五＝危害罪。刑訴二八一1＝死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年ニ時效完成。少七1項。附二。

第二百條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・二〇一＝刑ノ免除・二〇三＝未遂罪ヲ罰スル場合。民七三六。附二、刑訴二八一1。少七2項。

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。三五九＝免刑判決。

一九九　殺人罪ニ關スル規定ノ論評（昭二・東・敬野。昭四・京・瀧川）

▽甲、乙ヲ毒殺セントシタルニ丙誤ツテ其毒物ヲ食シ苦悶ノ餘リ甲ニ依賴シテ自己ヲ絞殺セシメタリ甲ノ責任如何（大一三・京・宮本）

▼自殺ト自傷（昭四・司口）

204 暴行ヲ加フル意思アリテ暴行ヲ加ヘ傷害又ハ致死ノ結果ヲ生シタル以上被害者ノ意思ナキ場合ト雖傷害罪又ハ傷害致死罪成立ス（昭四・大審「大判四一頁」）

第二百二條　人ヲ教唆若クハ幇助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

◇附三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4。

第二百三條　第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三＝未遂罪ノ處罰。

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

◇三＝國外犯・七三・七五＝危害罪・九〇・九一＝國交ニ關スル罪。附三。刑訴二八一3。

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯。刑訴二八一3＝長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年ニ時效完成。

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

二〇二　乙ノ依賴ニヨリテ甲乙ヲ殺セリ甲ノ責任如何（大二・東北・谷野）

▼承諾ニ因ル殺人罪（大五・昭二・行口。昭五・司口）

▼心中未遂（昭五・司口）

第二十七章　傷害ノ罪

二〇四　傷害罪ノ說明（昭二・關。昭五・日・泉二）

▽傷害罪成立ノ要件（昭三・明・岡田）

▽傷害罪ニ於ケル犯意（大三・法。大一二・京・宮本。昭三・早・新保）

▽傷害罪ト過失傷害罪ノ比較（昭四・關・宮本）（判例）

二〇九

▼傷害罪ト結果的責任（昭五・司口）

二〇五　殺人罪傷害致死罪ト過失致死罪（大元・東・泉二）（判例）一九九・二一〇

二〇六　甲、乙、丙三人共ニ丁ニ一箇ノ傷害ヲ負セタリ甲、乙、丙ノ責任ヲ問フ（大四・中・谷野）

210 授乳ノ催眠ヲ惹シ窒息死ニ至ラシムルトキハ授乳者ハ嬰兒ノ死亡ニ付過失致死ノ罪責ヲ免レス（昭三・大審「大判四一三頁」）

212 堕胎罪ハ不法ニ自然ノ分娩期ニ先チ人力ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ排出セシムルニヨリテ成立シ胎兒ノ發育程度ヲ問ハサルモノトス（昭二・大審「新報一一七號一九頁」）

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

◇六〇＝共同正犯。附二・三。

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

◇七三・七五＝危害罪。九〇・九一＝國交ニ關スル罪。刑訴二八一5・二五八・二六〇・二六一・二六三＝告訴權者・二六五＝親告罪ノ告訴期間。

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成・二五八・二六〇・二六一・二六三・二六五。

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ忘リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5。

第二百十二條　堕胎ノ嬰兒シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

法ヲ以テ堕胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

◇刑訴二八一5。

二〇七　暴行ノ意思ナカリシモ重傷ヲ負ハシメタル者ノ責任（大八・日・泉二）

▽暴行ノ意義（大二・東・谷野）

▽暴行ト傷害トノ異同・關係（大二・明・菱谷）

二〇八　殺人・傷害・過失傷害ヲ問フ（昭二・日・泉二。昭四・關・宮本）（判例）一九九・二〇四

二一一　業務上ノ過失傷害罪（昭六・中・草野）

▽運力過度ノ危險ヲ知リ乍ラ上司ノ命令ノ爲鑑首ヲ殺シ其運力ヲ出シ因テ列車ヲ脱線乘客ヲ死傷セシメタル機關手ノ責任（昭六・京・瀧川）（關係）三五

第二十九章　堕胎ノ罪

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ堕胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇二一四＝堕胎罪及致死傷。附三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4＝長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年ニ時效完成。

第二百十四條　醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ堕胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯。附三。刑訴二八一4。

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ堕胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇三＝國外犯・四三＝未遂罪。附三。刑訴二八一4。

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇三＝國外犯・二〇四以下＝身體ノ傷害罪。附二・三。

第三十章　遺棄ノ罪

第二百十七條　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

◇二一八＝保護責任アル者ノ遺棄罪。刑訴二八一5。警二10。

第二百十八條　老幼、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サザルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯。附三＝正式ノ裁判ノ請求。民七二六＝親族間ノ扶養。刑訴二八一4

第二百十九條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇三＝國外犯・二〇四以下＝身體ノ傷害罪。附二・三。

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條　不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・一九四＝逮捕監禁。民七二六＝親族間ノ扶養。附三。刑訴二八一4。

第二百二十一條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇三・二〇四以下＝身體ノ傷害罪・一九六＝致死

222 財物ヲ交付セシムル手段トシテ他人ヲ脅迫シタルモノカ交付セシムル正當ノ權利アリト雖モ脅迫罪ノ成立ヲ妨ケス（昭五・大審「評論二〇卷一號一三五頁」）

223 民事訴訟ニ於テ當事者本人訊問ノ爲呼出サレタル者ヲ暴行ヲ用ヒ之ヲ强制シテ裁判所構外ニ拉致シタル行爲ハ强要罪ニ非スシテ不法逮捕罪ヲ構成ス（昭四・大審）

225 營利ノ目的ヲ以テ婦女ヲ誘拐シ實力支配內ニ置キタル後其

他。陪二・三。

第三十二章　脅迫ノ罪

第二百二十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

◇九〇・九一＝國交ニ關スル罪。刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。民七二五＝親族ノ範圍。

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇九五＝公務員ニ對スル暴行罪、脅迫罪。四三＝未遂罪。民七二五＝親族ノ範圍。刑訴二八一5。

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・四三＝未遂罪。刑訴二八一5。民七二五。

第二百二十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・二二八＝未遂罪ヲ罪スル場合・二二九＝親告罪。刑訴二八一3＝長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年ニ時效完成。陪三。

第二百二十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

◇三＝國外犯・二二八＝未遂罪ヲ罪スル場合。陪三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一3。

處ヲシテ罪一モムモ營ヲ利メシサシ移ヲ居ヲ數次ヲシテ之中被存力配支斷スヘキモノトス（昭四・大審「大判七八八頁」）

230 人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事實ヲ記載シタル文書ヲ多數人ニ郵送セル時ハ配付ヲ受ケシ者カ特定セルモ本條ニ所謂公然タルヲ妨ケス（昭三・大審「大判七八八頁」）

第二百二十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・二二八・二二九。陪三。刑訴二八一4＝長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年ニ時效完成。

第二百二十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス。

◇四三＝未遂罪。

第二百二十九條　第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幇助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

◇刑訴二六二＝告訴權者・二六五＝親告罪期間・二五八・二六〇—二六一。民七七八以下。

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第二百三十條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

◇三＝國外犯・二三二＝侮辱罪・九〇・九一＝國交ニ關スル罪。刑訴二八一5。

第二百三十一條　事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

◇三三二＝親告罪・九〇・九一。刑訴二八一7＝拘留又ハ科料ニ該スル罪ニ付テハ六月ニ時效完成

第二百三十二條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

◇刑訴二五八・二六三＝告訴權者・二六五＝親告罪

第三章　名譽ニ對スル罪

二三〇　名譽ニ對スル罪（大一三・中・草野。昭二・東・小野。昭二・京・瀧川。昭四・明・猪股。昭五・明・岡田）

▼名譽毀損罪（大二、大九・行口）

▽名譽毀損罪ト侮辱罪（昭五・東・小野）（判例）二三一

▽名譽毀損罪ヲ申告罪トスルノ可否（昭二・京・瀧川）

（判例）二三二

第三章　脅迫ノ罪

二三二　脅迫罪（昭六・日・宮城）

▽脅迫罪ノ性質及構成要件（昭五・早・新保）

二三三　脅迫ヲ用ヒテ債務ヲ履行セシメタル者ノ責任（昭五・緯）

第三三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

二三五　營利誘拐罪（昭三・中・井上）

235 窃盗ノ罪ハ不正ニ領得スルノ意思ヲ以テ他人ノ支配内ノ物ヲ自己支配内ニ移スニ必スシモ犯人豫期ノ如ク財物ヲ使用シ又ハ其滅失ニヨリ所有者ニ損害ヲ與ヘシヲ必要トセス（昭二・大審「新報」一三七號一七頁）

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ係テハ三年ニ時效完成。

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

◇刑訴二八一5。勝二4、5。

第三十六章　詐欺及ヒ强盗ノ罪

第二百三十五條　他人ノ財物ヲ騙取シタル者ハ詐欺ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・二四三＝未遂罪ヲ罰スル場合。刑訴二八一3。一二三＝僚事ノ勾引狀。勝三。

問題

第三六章　窃盗及ヒ强盗ノ罪

▽第三六章乃至第四〇章ノ犯罪ニ關シ一題ヲ選擇、論及セヨ（昭三・中・飯塚）（興）第三七章以下

▽財產犯ニ共通ノ事項（大一・三・東・泉二）

▽財產罪ノ直刑ナル理由（大二・法）

▽財產罪ノ分類（大四・中・大場）

二三五　第二三五條ノ說明（昭六・日・島田）

▽窃盗罪（大四・中・大場。昭二・明・岡田）

▽窃盗罪ニ於ケル犯意、窃盗ト領得トノ目的（大一三・中・吉田。昭五・早・新保）

▽財物（昭三・司口。昭六・行）

▽放送ノ無斷聽取ハ窃盗ナルヤ（大一五・東・小野）

▽甲カ乙ノ不在宅ヘ置去レル進物箱ノ名刺ヲ同シク不在中借金ノ目的ニテ訪問セル丙自己ノ名刺ト差更ヘ歸宅セリ丙ニ罪アリヤ若シアラハ何人ニ對シテ如何ナル罪成立スルカ（昭四・中・飯塚）

▽不作爲ニヨル窃盗罪（大一一・京・瀧川）

▽使用窃盗（昭五・東・牧野）

▽自己所有品ニ對スル窃盗罪（昭二・日・泉二。昭四・明・岡田）（興）二四二

▽不動產ニ對スル窃盗及詐欺取罪アリヤ（大二・泉二）（興）二四六

▽窃盗罪ト詐欺罪トノ區別（大三・東・牧野。昭二・明）（興）二四六

▽飼中ニ牧業スル意思ヲ以テ他人ノ所持スル財物ヲ奪ヒテ之ヲ牧業スル前ニ發覺シタル者ノ處分（大八・東・牧野）

第二百三十六條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シタル者ハ强盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三二

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

◇三・二三七＝訴訟費用ノ負擔決定ニ對スル抗告。勝三。刑訴二八一3・一二三。

第二百三十七條　强盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

◇二三六＝强盜罪。刑訴二八一5。

第二百三十八條　窃盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ隱滅スル爲ノ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論ス

◇三・二三五＝窃取・二三六＝强盜罪・二四三。勝三。

第二百三十九條　人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ强盜ヲ以テ論ス

◇三＝國外犯・二三六＝强盜罪・二四三。勝三。

第二百四十條　强盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

◇三＝國外犯・二三六＝强盜罪・二四三。勝三。

二三九＝昏醉强盜罪・二四三。勝二。刑訴二八一2。少年法七1項。

第二百四十一條　强盜婦女ヲ强姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

◇一七七・一七八＝姦淫・三・二三六・二三八・二三九・二四三。勝二。刑訴二八一1、2＝死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年、無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年ニ時效完成。少七1項。

第二百四十二條　自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條　第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三＝未遂罪ノ處罰。

二三六　强盜罪（昭五・日・宮城）

▽暴行脅迫（大四・明。大一五、昭三、昭五・京・宮本）

▽强盜罪ト恐喝罪トノ區別（大五・東・牧野）

二四〇　第二四〇條ノ論評・解釋（昭三・中・井上。昭大・東北・久禮田）

▽人ヲ殺害シ所持金ヲ强奪セル者ノ責任（昭六・司）

二四二　第二四二條ノ說明（大一四・東・泉二）

246 詐欺ノ訴訟行爲ニヨリ裁判官ヲ錯誤ニ陷ラシメ自己ニ有利ニ自己ニ有利ニ財物ヲ領得スルハ詐欺罪ヲ構成ス（昭六・大審「評論二〇卷六號一五八頁」）— 官吏ヲ欺罔シ和稅ヲ逋脫シ不法利益ヲ受クルモ詐欺罪ヲ構成セス（昭六・法決「評論二〇卷七號一六三頁」）

第二百四十四條　直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ保ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

◇六〇以下ニ共同正犯。刑訴二五八・二六〇・二六一・二分二ニ告訴權者・二六五ニ告訴權行使ニ關スル制限・三六〇2項ニ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張。民七二五ニ親族・七三二ニ家族ノ範圍。

第二百四十五條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

◇三ニ國外犯・二五〇ニ未遂罪ヲ罰ス場合・二五一・階三。刑訴二八一3。

【問題】

二四六　第三七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二四六條第一項ト第二項トノ差異（昭六・日・宮城）

▽第二四六條第二項ノ論評（昭二・行）

▼詐欺罪（大三、大五、昭三・行口）

▽詐欺罪ノ成立要件（昭四・早・岡田）

▽不法利得（詐欺利得）（大一五、昭三・京・宮本）

▼不法利得罪（昭三・行口）

▼詐欺罪ト窃盜罪トノ區別　大四、昭三・行口（共通）二三五

▼不作爲ニヨル詐欺罪（大三、大五、昭三・行口）

▽無銭飲食（大一三・中・吉田）

▽裁判所ヲ欺罔シテ爲ス詐欺罪（大五、大一二・行口。大一三・中・吉田）

▽欺罔シテ所有物ヲ抛棄セシメタル者及ヒ欺罔シテ債務者ヲシテ債務ヲ弊濟セシメタル者ノ罪責（大四・東・牧野）

▼恐喝取財（大三・行口）

▽權利實行ノ爲詐僞恐喝ヲナスハ詐僞罪恐喝罪ヲ構成セストノ意義論據及批判（昭六・東・牧野）

249 法律上他人ヨリ財物ヲ受クベキ權利ヲ有スル者カ其權利實行ノ爲恐喝手段ヲ施用スルモ恐喝罪ヲ構成セス（昭四・大審「評論一八卷一一號二四六頁」）

252 横領罪ノ成立ニハ自己占有ノ他ノ物ヲ自己ノ物トシテ領得セントスル意思ヲ外部ニ表現スルヲ以テ足リ費消等ノ處分行爲ヲ要セス（昭五・大審「評論一九卷六號一八三頁」）

第二百四十七條　他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◇三ニ國外犯・二五〇・二五一。階三ニ正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4。商二六一ニ會社ニ關スル罰則。

第二百四十八條　未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

◇三ニ國外犯・二五〇・二五一。階三。刑訴二八一3ニ長期十年以上懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年ニ時效完成。

第二百四十九條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

◇三ニ國外犯・二五〇ニ未遂罪ヲ罰スル場合・二五一。階三。刑訴二八一3。

第二百五十條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

◇四三ニ未遂罪ノ處罰。

第二百五十一條　本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章　横領ノ罪

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

◇二五五ニ刑ノ免除。階三ニ正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4ニ長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年ニ時效完成。

二四七　背任罪（大一三・中・吉田。昭二・早・新保。昭三・東・小野。昭六・東北・久禮田）

▽背任加害罪（昭五・明・岡田）

▽株式會社取締役カ權限ヲ超エテ取引銀行ヨリ會社預金ヲ引出シタル行爲ノ處分（大三・東・牧野）

▽背任ト横領（昭三・司。昭三・明・岡田。昭五・東・小野）（共通）二五一

二四九　恐喝罪（大一四・東・泉二）

▽恐喝ト强盜トノ差別（大一五・中・平井）

第三十八章　横領ノ罪

二五二　領得ノ意思ヲ必要トスル犯罪（大一二・京・宮本）

253 本條ニ所謂業務トハ法令契約又ハ慣習ニ依リ繼續シテ他人ノ事務ヲ處理スルモノヲモ包含スルモノトス（大一三・三・大審「新報三四號四五一頁」）

第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス（大正十年法律第七十七號ヲ以テ改正）

◇二五五＝刑ノ免除。階三。刑訴二八一3。

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百四以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

◇刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◇三＝國外犯・刑訴二八一3、5・八＝數個ノ事件・二〇一＝刑ノ免除。階三。

【問題】

▽横領罪（昭二・司口。昭五・行口。昭六・外）

▽横領罪ノ構成要件（大七・中・草野。昭六・明・岡田。昭五・東・小野）（共同）二四七

▽詐欺ト横領（大一・京・勝本）

▽第二五二條ノ說明（昭五・日・泉二）

▽他人ヨリ預リタル封緘ヲ施セル金圓ヲ費消シタル罪（大一一・關・三田）（同例）二六三

▽二重抵當ノ處分（昭二・外）

▽二重抵當及ヒ二重賣買ノ罪（大一一・中・吉田。大四・東・牧野。昭二・司口）

▽賣渡抵當ノ目的ヲ以テ自己名義トシタル他人ノ不動產ヲ第三者ニ賣却スル行爲（大五・中・佐々）

▽賣買者カ買物ヲ轉賣ト爲ス行爲ハ犯罪ナリヤ（昭三・中・井上）

▽盜品ナルコトヲ知リタルタメ保管中ノ他人ノ委託物ヲ賣リタル行爲（大一三・中・草野）

第三九章　贓物ニ關スル罪

二五六　贓物ノ意義（大元・京・勝本。昭五・日・吉野）

▽贓物故買ノ目的ヲ以テ窃盜ヲ教唆シ被教唆者ノ窃取シ來レル財物ヲ買受ケタル者ニ對スル刑ノ適用（昭三・中・吉田。昭五・司）（共同）五四

▽贓物寄藏罪ト横領罪ノ併合罪、牽連犯（昭三・司口）

260 棟上ヲ終リ未タ屋蓋周壁ヲ有セサル物件ハ本條ニ所謂建造物ニ該當セス（昭四・大審「評論一九卷一號二〇〇頁」）

262 抵當權設定アル山林ニ生立ノ材木ヲ買受ケシ者カ右物權負擔ノ事實ヲ知リ乍ラ自ラ伐採セルハ刑法第二六二條第二六一條ノ罪ヲ構成シ他人ニ伐採セシムル爲賣却スルトキハ其罪ヲ構成セス（昭四・法決「法曹七卷一號一二一頁」）

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

◇六〇以下＝共同正犯。刑訴三五九＝免刑判決・三六〇2項＝刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張。民七二五＝親族・七三二＝家ニ在ル戶主ノ親族及ヒ其配偶者ト家族ノ範圍。

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

◇七＝公務員、公務所ノ意義。階三。刑訴二八一4。

第二百五十九條　權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

◇二六四＝親告罪。階三＝正式ノ裁判ノ請求。刑訴二八一4。

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

◇二〇四以下＝身體ノ傷害罪。階二・三。刑訴二八一2、3、4。

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

◇二六四＝親告罪。刑訴二八一5＝長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年ニ時效完成。

第二百六十二條　自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ前三條ノ例ニ依ル

◇階二・三。

第二百六十三條　他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

◇刑訴二五八・二六〇・二六一・二六三＝告訴權者・二六五＝告訴權行使ニ關スル制限。

第二百六十四條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

◇刑訴二五八—二六三＝告訴權者・二六五＝告訴權行使ニ關スル制限。

刑法施行法（明治四十一年三月二十八日法律第二十九號）

改正、明治四二—法律四、法律三九、明治四三—法律五三、大正五—法律一五、法律一七、大正一〇—法律六八、大正一一—法律七一、法律七五、昭和二—法律四七

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑　舊刑法ノ刑

死刑　死刑

無期懲役　無期徒刑

無期禁錮　無期流刑

有期懲役　有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮、輕禁錮

有期禁錮　有期流刑、重禁獄、輕禁獄

罰金　罰金

拘留　拘留

科料　科料

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキ雖モ之ヲ附加セス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキ雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者ニ該罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ準用シ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキ雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキ雖モ刑法ノ規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ

ニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキ雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條 期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當

刑法施行法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキ雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律

21　刑法施行法ニ於ケル犯罪ニ付酌量減輕ヲ爲スヘキ場合ニハ本條ニ所謂他ノ法律ノ罪ヲ犯シタルトキト雖モ刑法第六條ヲ適用スヘキモノニシテ舊刑法第八九條ヲ適用スヘキモノニ非ス（昭二・大審「大判三九六頁」）

以テ其罰金ヲ納ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及ヒ時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條　刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條　刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前例金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條　刑法施行前ノ日ヨリ之ヲ起算ス

公權、停止公權、監視及附加ノ例金ハ之ヲ還付セス

第十八條　刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ例金ハ之ヲ還付セス

前項ノ例金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條　他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但罰ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ例金ニ關スル可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條　他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條　他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條　他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條　前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

35　懲役ノ罰ハ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スモ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ適用セサルモノトス（明治四・大審「大判四三二頁」）

第二十條　明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ內刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第一編第四章第九節

第二編第五章第三節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス（明治四十二年法律第五十四號、法律第三十九號、同四十三年法律第五十三號、大正十一年法律第七十一號ヲ以テ本條ヲ改正）

第二十六條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一　軍機保護法ニ掲ケタル罪

二　（昭和二年法律第四十七號兵役法附則ヲ以テ本號ヲ削除）

三　明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪

四　冤狀及證券模造取締法ニ掲ケタル罪

五　船舶法ニ掲ケタル罪

六　船員法ニ掲ケタル罪

七　船舶職員法ニ掲ケタル罪

八　船舶檢査法ニ掲ケタル罪

九　毒藥法ニ掲ケタル罪

十　（大正五年法律第十七號ヲ以テ本號ヲ削除）

十一　（明治四十二年法律第三十九號ヲ以テ本號ヲ削除）

第二十七條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一　著作權法ニ掲ケタル罪

二　（大正五年法律第十五號ヲ以テ本號ヲ削除）

三　移民保護法ニ掲ケタル罪

第二十八條　人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條　死刑、禁期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條　前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條　拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條　他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

36 懲役ノ刑ハ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スモ罰金ノ刑ヨリ重キモノトス（昭四・大審「大判四三二頁」）

第三十三條　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十四條　前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條　六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條　他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條（大正十一年法律第七十五號刑事訴訟法ニ因リ本條ヲ廢止）

第三十九條（同上）

第四十條（同上）

第四十一條（同上）

第四十二條（同上）

第四十三條（同上）

第四十四條（同上）

第四十五條（同上）

第四十六條（同上）

第四十七條（同上）

第四十八條（同上）

第四十九條（同上）

第五十條（同上）

第五十一條（同上）

第五十二條（同上）

第五十三條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條　明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ偽ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條　明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條　私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ニ因リ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

第六十二條　（大正十年法律第六十八號刑事訴訟費用法附則ヲ以テ本條ヲ削除）

第六十三條（同上）

第六十四條（同上）

第六十五條（同上）

第六十六條（同上）

第六十七條（同上）

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

1　對價ヲ約シ密ニ淫ヲ鬻キシトキハ未タ現實ニ對價ヲ取得セサルモ本條第二號ノ罪成立ス（昭四・大審「大判五二六頁」）

2　第五號ニ所謂惡戲トハ人ノ業務妨害ノ程度ニ至ラサルモ其虞アル行爲ヲ指稱ス（昭二・大審「大判六一頁」）—第七號ニ强テトハ申込ノ要求カ强迫ニ近キ程度ノ强請的ナルヲ必要トセス（昭四・大審「評論一八卷一〇號」）—刑法第一二四條第一項ノ犯罪ト本條第一二號ノ犯罪トハ其構成要件ヲ異ニシ罪質ヲ同ウセサル

警察犯處罰令

（明治四十二年九月二十九日内務省令第十六號）

改正、大正八—内令一七

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一　故ナク人ノ居住若ハ看守スル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者

二　密淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ密淫ヲ爲シタル者

三　定ノ住居又ハ生業カナシテ諸方ニ徘徊スル者

四　故ナク面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　合力、喜捨ヲ强請シ又ハ强テ物品ノ賣買ヲ求メタル者

二　乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三　淫ヲ寄附ヲ强請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ强テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四　入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ强請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ强請シタル者

五　他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

六　新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛僞ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七　新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付强テ其ノ申込ヲ求メタル者

八　申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九　祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

十　自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥醉シテ徘徊シタル者

十二　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

十三　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

十四　劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會

モノナレハ刑法第五五條ニ所謂同一ノ罪名ニ觸ルルモノト爲スコトヲ得ス（昭三・大審「大判四一六頁」）—第一八號ニ禁厭祈禱符呪等トアルハ禁厭祈禱符呪其他之ニ類似スル行爲ヲ指稱スルモノニシテ其迷信ニ基因スルト否トヲ問ハス又秘密不可思議ノ原理ニ出テタリトスルト否トヲ問ハサルモノトス（昭二・大審「大判五四七頁」）

十五　雜客ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ增スノ行爲ヲ爲シタル者

十六　人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮說又ハ虛報ヲ爲シタル者

十七　妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八　病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九　濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二十　官職、位記、勳章、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

二十一　官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ業務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

二十二　人ノ飲用ニ供スル浮水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲ爲シタル者

二十三　河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者

二十四　自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者

二十五　出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二十六　官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚損シ若ハ撤去シタル者

二十七　水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入リ若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ヲ救セサル者

二十八　濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

二十九　他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

三十　使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

三十一　濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三十二　他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ拋擲シ又ハ放射シタル者

三十三　神祠、佛堂、體拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚損シタル者

三十四　人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシタル者

三十五　擬裝シタル者

三十六　一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十七　未熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

三十八　濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ繫類ヲ解放シタル者

8　本條警察官ハ巡査ヲ包含ス（昭四・大審「評論一九卷二號二七五頁」）―所謂集會ノ解散命令ハ廣ク集會ノ多衆カ不穩ノ行動ニ出テ又ハ出テントスルニ當リ之ヲ阻止又ハ豫防シテ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナル場合ニ於テ發シ得ヘキモノナリトス（大一三・大審「法新一五號一九一頁」）

9　第二項ニ所謂賞恤ハ精神的慰安ヲ與フルニ止マルト物質的補助ヲ與フルト否トヲ問ハス（大一一・大審）

治安警察法

（明治三十三年三月十日法律第三十六號）

改正、大正一一—法律五九
大正一五—法律五八

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル治安警察法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

治安警察法

第一條　政事ニ關スル結社ノ主幹者（支社ニ在リテハ支社ノ主幹者）ハ結社組織ノ日ヨリ三日以內ニ社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ屆出ツヘシ其ノ屆出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二條　政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ

發起人ハ到達スヘキ時間ヲ除キ開會三時間以前ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警察官署ニ屆出ツヘシ

屆出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ屆出ハ其ノ效ヲ失フ

法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選擧準備ノ爲ニ選擧權ヲ行フヘキ者及被選擧權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ本條第二項ノ屆出ヲ要セス

第三條　公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル爲屆出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ以テ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第四條　屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ屆出ツヘシ但シ祭葬、講社、學生、生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス

一　現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
二　警察官
三　神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
四　官立公立私立學校ノ教員學生生徒
五　女子
六　未成年者
七　公權剝奪及停止中ノ者

未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス（大正十一年法律第五十九號ヲ以テ本項ヲ改正）

公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第六條　日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコト

3　他人ノ承認ヲ得ス其所有又ハ管理スル電柱ニ宣傳ポスターヲ貼付セルトキハ本條一五號ニ該當ス（昭四・大審「評論一八卷一〇號三〇八頁」）

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者
二　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ裸楊、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
三　街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
四　濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
五　家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
六　石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
七　開業ノ產婆故ナク娼婦、產婦ノ招キニ應セサル者（大正八年內務省令第十七號ヲ以テ本號ヲ改正）
八　故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
九　炮烙、洗濯、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
十　濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
十一　監護ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
十二　濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシメタル者
十三　狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
十四　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
十五　濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚濁シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貸家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚濁シ若ハ撤去シタル者
十六　橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
十七　通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

14　秘密ノ結社トハ一定ノ共同目的ノ爲ニ結合セル特定多數人ノ團體ニシテ其社員間ニ於テ其存在組織及目的等團體ニ關スル事項ヲ秘シテ國家ニ知ラシメサルコトヲ約スルモノヲ指稱ス（大一三・大審「法新二〇號二六一頁」）

ヲ得ス

第七條　結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第八條　安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ制限、禁止若ハ解散シ又ハ屋内ノ集會ヲ解散スルコトヲ得

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ講談論議シ又ハ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得

第十一條　結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警察官ノ等問アリタルトキハ主幹者、會長、發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ之ニ答フヘシ

警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル會同者ト認ル者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供スヘシ

第十二條　集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

第十三條　集會及多衆ノ運動ニ於テハ戈器又ハ兇器ヲ携帶スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戈器ヲ携帶スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス

第十五條　法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲ニ相團結スルモノニ對シテハ第一條及第五條ヲ適用セス

第十六條　街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ掲示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十七條　（大正十五年法律第五十八號ヲ以テ本條ヲ削除）

治維1　帝國ニ無產階級獨裁ノ政府ヲ樹立セントスルカ如キハ即我國體ノ變革ヲ企圖スルモノナリ（昭四・大審「評論一八卷九號二八六頁」）— 所謂私有財產制度否認トハ重要財產ノ私有ニ關スル國家ノ保護ヲ排斥シ我現行ノ私有財產制度ヲ根本的ニ破壞スルヲ謂フ（昭四・大審「評論一九卷一號二七三頁」）— 結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲トハ國體ノ變革又ハ私有財產制度ノ否認ヲ目的トシテ組織シタル結社ナルコトヲ認識シテ該結社ヲ支持シ其擴

第十八條　行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ戈器、爆發物又ハ戈器ヲ仕込ミタル物件ノ携帶ヲ禁スルコトヲ得

第十九條　第一條ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第二條第一項又ハ第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二項ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第五條又ハ第六條ニ違背シ入社セシメタル者亦同シ

第二十三條　第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者ハ二月以下ノ「輕禁錮」又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ六月以下ノ「輕禁錮」又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三月以下ノ「輕禁錮」又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條　第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍退去セサルモノハ一月以下ノ「輕禁錮」又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第十三條ニ違背シタル者ハ三月以下ノ「輕禁錮」又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　祕密ノ結社ヲ組織シ又ハ祕密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ「輕禁錮」ニ處ス

第二十九條　第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ一月以下ノ「輕禁錮」又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　（大正十五年法律第五十八號ヲ以テ本條ヲ削除）

第三十一條　第十八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ「重禁錮」ニ處ス

第三十二條　本法ニ關スル公訴ノ時效ハ六箇月トス

第三十三條　集會及政社法ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十五年法律第五十八號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年勅令第百九十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス）

大ヲ圖ル等結社ノ目的遂行ニ資スヘキ一切ノ行爲ヲ包含ス(昭六・六・大審「評論二〇卷七號三〇二頁」)—我國體ノ變革若ハ私有財產制度ノ否認カ實現不可能ナルノ故ヲ以テ治安維持法違反行爲ヲ目スルニ不能犯ヲ以テスヘキニアラス(昭五・大審「評論一九卷四號二九三頁」)

治安維持法

(大正十四年四月二十二日 法律第四十六號)

改正、昭和三—勅令一二九

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安維持法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

治安維持法

第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財產制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前三項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(昭和六「緊急」勅令第百二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二條 前條第一項又ハ第二項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(同上本條中改正)

第三條 第一條第一項又ハ第二項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(同上本條中改正)

第四條 第一條第一項又ハ第二項ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財產ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(同上本條中改正)

第五條 第一條第一項第二項及前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財產上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ(同上本條中改正)

第六條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第七條 本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則

大正十二年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

附則(昭和三年法律第百二十九號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和三年六月二十九日公布)

行執 2 警察署長ニ非サル警部補部補又ハ巡査ハ警察事務ニ付一般的權限ヲ有シ警部補ノ職務ヲ司法警察行政警察ニ區別シ巡査ニ內勤外勤特務刑事ノ名稱ヲ付スルハ警察事務ノ便宜ニ外ナラサレハ警察署長ニ非サル警部補部補又ハ巡査ハ常ニ署長ノ命令ノ下ニ夜間臨檢ヲ執行スルノ職務ヲ存スルモノトス(大八・大審)

行政執行法

(明治三十三年六月二日 法律第八十四號)

改正、明治四三—法律五二

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル行政執行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政執行法

第一條 當該行政官廳ハ泥醉者、瘋癲者、自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戈器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領證ヲ爲スコトヲ得暴行、鬪爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日沒後ニ至ルコトヲ得ス又假領證ハ三十日以內ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條 當該行政官廳ハ日出前、日沒後ニ於テハ生命身體又ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間內ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治癒ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ强制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコト

二 强制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ强制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ

暴力1　數人カ共同シテ暴行ヲ實行シタル事實ヲ認定シ本條第一項ニ該當スル場合ニハ刑法第六〇條ヲ適用ヲ第六〇條ヲ適用スヘキモノニアラス
（昭四・大審「大判二三〇頁」）

強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　第三條及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　認可又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以內ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

暴力行爲等處罰ニ關スル法律

（大正十五年四月十日　法律第六十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル暴力行爲等處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ數人共ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項、第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ揭クル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二條　財產上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ故ナク面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三條　第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第百九十九條、第二百四條、第二百八條第一項、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以上ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行前刑法第二百八條第一項又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ本法ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律

（昭和五年五月二十一日　法律第九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　左ノ各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險ヲ排除スル爲犯人ヲ殺傷シタルトキハ刑法第三十六條第一項ノ防衛行爲アリタルモノトス

一　盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取逃セントスルトキ

二　兇器ヲ携帶シテ又ハ門戶牆壁等ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ船舶ニ侵入スル者ヲ防止セントスルトキ

三　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ船舶ニ侵入シタル者又ハ要求ヲ受ケテ退去セザル者ヲ排斥セントスルトキ

前項各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險アルニ非ズト雖モ行爲者恐怖、驚愕、興奮又ハ狼狽ニ因リ現場ニ於テ犯人ヲ殺傷スルニ至リタルトキハ之ヲ罰セズ

第二條　常習トシテ左ノ各號ノ方法ニ依リ刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若クハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニ對シ竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ三年以上、强盜ヲ以テ論ズベキトキハ七年以上ノ有期懲役ニ處ス

一　兇器ヲ携帶シテ犯シタルトキ

二　二人以上現場ニ於テ共同シテ犯シタルトキ

三　門戶牆壁等ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シテ犯シタルトキ

四　夜間人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シタルトキ

第三條　常習トシテ前條ニ揭ゲタル刑法各條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ其ノ行爲前十年內ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪トノ併合罪ニ付三回以上六月ノ懲役以上ノ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ科スベキトキハ前條ノ例ニ依ル

第四條　常習トシテ刑法第二百四十條前段ノ罪若クハ第二百四十一條前段ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

刑事訴訟法目次

刑事訴訟法（大一一—法七五）……一

第一編　總則……一

第一章　裁判所ノ管轄……一
第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避……五
第三章　訴訟能力……八
第四章　辯護及輔佐……八
第五章　裁判……一〇
第六章　書類……一二
第七章　送達……一四
第八章　期間……一五
第九章　被告人ノ召喚勾引及勾留……一六
第十章　被告人訊問……一九
第十一章　押收及捜索……二五
第十二章　檢證……二三
第十三章　證人訊問……二三
第十四章　鑑定……二六
第十五章　通譯……四〇
第十六章　訴訟費用……四〇

第二編　第一審……四一

第一章　捜査……四一
第二章　公訴……四七
第三章　豫審……五一
第四章　公判……五七
第一節　公判準備……五七
第二節　公判手續……五九
第三節　公判ノ裁判……六六

第三編　上訴……七一

第一章　通則……七一
第二章　控訴……七四
第三章　上告……七七
第四章　抗告……八五

第四編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……八九

第五編　再審……九九

第六編　非常上告……九九

第七編　略式手續……九九

第八編　裁判ノ執行……九九

第九編　私訴……一〇三

第一章　通則……一〇三
第二章　第一審……一〇四
第三章　上訴……一〇六
附則……一〇八

違警罪即決例（明一八—大三一）……一一〇

附則……一一一

陪審法（大一二—法五〇）……一一三

第一章　總則……一一三
第二章　陪審員及陪審ノ構成……一一三
第三章　陪審手續……一一六
第一節　公判準備……一一六
第二節　公判手續及公判ノ裁判……一一八
第三節　上訴……一二三
第四章　陪審費用……一二三
第五章　罰則……一二三
第六章　補則……一二三
附則……一二四

恩赦令（大元—勅二三）……一二四

附則……一二六

1 所謂現在地トハ公訴提起ノ當時被告人カ現在スル地域ヲ指稱シ之ニ現在スル事由ヲ問ハサルヲ以テ被告人ノ任意ニ出テシ場合ト否ヲ分タス苟モ其現在スル地域カ裁判所ノ管轄內ニ存スル以上假令被告人カ檢事ノ呼出ヲ受ケテ出頭セル如キ場合ト雖當該裁判所ハ土地管轄權アリ（昭四・大審「法新三〇三七號一五〇頁」）

刑事訴訟法

（大正十一年五月五日 法律第七十五號）

改正、大正一五—法律七二

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

第一條　裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船內ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル

◇三一一＝管轄違ノ決定・三五七＝管轄違ノ申立。民一一・二二＝住所。商四四2項＝會社ノ住所。

第二條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得

◇八＝牽連管轄・四八〇＝牽連事件ノ豫審請求。裁構一六・二七・五〇＝各裁判所ノ管轄。

【問題】

▽刑事訴訟ト民事訴訟トノ差（大一三・中・小野）

▽土地ニ對スル刑訴法ノ效力（大一五・明・板倉）

▽刑訴法ノ主ナル主義（大一四・明・板倉）

▽訴訟行爲ノ意義並ニ條件（大一三・日・鹽野。大一五、昭二、昭四・京・宮本）（関係）四八—五三・二七八・三七六・二五・三四八・四七一・二五八・二六九等・二九一等

▽地方裁判所ニテ合議ノ結果判事Aカ免訴、Bカ公訴棄却、Cカ管轄違ヲ主張セルモノノ裁判（昭五・京・瀧川）（関係）裁構一一九・一二一—一二三

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

▽裁判所ノ管轄（大元・東・中川）（共通）二—七・五六九

▽裁判權ト管轄權トノ差異（大一三・司）

▽土地管轄（大三・中・林。大一一・關・鈴木。大一四・中・林。昭四・司口。昭六・辯）

▽教唆犯ノ裁判籍（大五・法・清水）

二　牽連事件ノ訴訟ニ及ス影響（大二・東・豐島。昭六・日・矢追）（共通）三—八

▼事物管轄（昭四・司口）（共通）三・四・七・九・一〇

4　本條ハ上級裁判所カ第一審ニシテ且併合審理ヲ適當トスル場合ニ其適用ヲ見ル可キモノナリ而テ上級裁判所ノ併合管轄權ハ審級裁判所ノ固有ノ管轄權ニ消長ヲ及ホササル故ニ上級裁判所カ審級ヲ異ニシ又併合審理ノ決定ヲ爲ササル以上下級裁判所ハ其繫屬セル事件ニ付審理判決ヲ爲ササル可カラサルヤ勿論ナリ（昭三・大審「大判七卷一〇號刑六五九頁」）

第三條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

◇八＝牽連管轄・三五六但書＝事件ノ移送。一＝大審院ノ事件ノ移送。裁構一六・二七・五〇＝各裁判所ノ管轄。

第四條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

◇八＝牽連管轄。裁構一六・二七・五〇＝各裁判所ノ管轄。

第五條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

◇一＝土地管轄・八＝牽連管轄。

第六條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件ハ上級裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

◇一＝土地管轄・八＝牽連管轄。

第七條　事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

◇八＝牽連管理。裁構一六・二七＝區裁判所及地方裁判所ノ管轄。

六　土地管轄ノ競合（大八・中・林）（共通）五

10　數個ノ裁判所トハ同等ナル數個ノ裁判所ノ謂ニシテ裁判所ノ審級ヲ異ニスル場合ヲ指スモノト解スヘキニアラス（大六・大審「大判二四輯一〇卷刑四一四頁」）

第八條　數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一　一人數罪ヲ犯シタルトキ

二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四　數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

◇刑一〇三＝犯人藏匿罪・一〇四＝證據湮滅罪・一六九＝虛僞ノ陳述・一七一＝虛僞ノ鑑定及通譯・二五六＝贓物罪。

第九條　同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

◇三一五8・三六五3＝公訴棄却ノ決定・三五六＝管轄遠ノ言渡。裁構一六・二七・五〇。

第十條　同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

◇三一五8・三六五3＝公訴棄却ノ決定。裁構一六・二七・五〇。交渉法五。

第十一條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十二條　訴訟手續ハ管轄遠ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

◇二八五＝時效中斷ヲル場合。

第十三條　裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

◇三一八＝放免ノ言渡・三一九＝押收ノ解除ノ言渡・三七一＝放免ノ言渡・三七二＝押收ノ解除。

八　牽連事件ノ訴訟ニ及ス影響（大二・東・豐島。昭六・日・矢追）（共通）三—七

一二　管轄違反ノ訴訟行爲ノ效力（大一四・日・赤羽）（同例）一三・一四・四〇一・四〇二・四一〇・四三八・四四九・四五〇

一三　管轄違反繫屬事件ノ裁判（昭五・明・岡田）（共通）三五五・三五六・三五七（同例）三六四1

16　大阪地方裁判所ノ直近上級裁判所ハ大阪控訴院ナルモ同裁判所ノ管轄内ノ總テノ地方裁判所ハ皆大阪地方裁判所ニ於ケルト同シク管轄ヲ他ニ移轉スル事由存スル場合ニ於テハ同控訴院カ請求ヲ理由アリトスルモ他ノ控訴院ノ管轄内ノ地方裁判所ニ被告事件ノ管轄ヲ移轉スル決定ヲ爲スノ權限ヲ有セサルカ故此ノ如キ場合ハ獨リ大審院ニ於テ直近上級裁判所トシテ右請求事件ヲ審判スヘキモノトス（昭三・大審「大判七卷一二號七八二頁」）

第十四條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

一　裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ定ラサルトキ

二　管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條　法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

一　管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

二　被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

◇陪審法八＝陪審ノ評議不平ヲ失スル虞アル場合。

第十七條　犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

◇一四―一七＝管轄裁判所。

第十九條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

◇一四―一七＝管轄裁判所。

第二十一條　被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

◇一六＝管轄移轉ノ請求。

一四　管轄指定ノ申請ヲ爲スヘキ場合（大四・京・勝本）（共通）一五

24　第四〇條（舊）第一號＝判事被害者ナルトキトハ審理スヘキ被害事件ヲ内容ト爲ス犯罪行爲＝因リテ判事カ其法益ヲ侵害セラレタル場合ヲ指稱ス（大六・大審「大判二三輯三〇卷一六二一頁」）―檢事ノ搜査ノ爲メニスル處分ノ如キハ豫審終結決定又ハ前審ノ裁判ノ基礎ト爲ルヘキ取調＝非ス（昭三・大審「大判七卷三號刑二〇四頁」）―略式命令ト之＝對スル第一審ノ正式裁判トハ孰レモ同一審級＝於ケル裁判所ノ裁判＝外ナラサレハ略式命令

第二十二條　豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

◇四五七＝抗告シ得サル場合。

第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條　判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　判事被害者ナルトキ

二　判事私訴當事者ナルトキ

三　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ

四　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

五　判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六　判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七　判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八　判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇四一〇2＝職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタル場合。五六七＝私訴ノ提起。三六―三八＝訴訟能力。三九＝辯護人ノ選任。三三一＝代理人ノ出頭。四七＝輔佐人。一八四以下。二一九以下。四九三。五七二。五七四。民七二五―七三二。七七五。八八四。九〇一―九〇四。九〇九―九一一。商六一。一一四。一七〇。二三六。

二四　除斥（大一一・蘭・鈴木）（共通）三五（興保）三二・三四・四一〇

▽判事除斥セラルル場合（大三・京・勝本）（興保）四一〇2・五六七・民七二五―七三二・七七五・八八四・九〇一―九〇四・五三・商六一・一一四・一七〇・二三六・民九〇九―九一一・刑訴一八四以下・二一九以下・三六―三八・三三一・三九・四九三・四七・五七二―五七四

▽略式命令ノ言渡ヲナセル判事甲、正式裁判ニテ判事乙ノ事故ニテ事務引繼ヲナセリ除斥原因ナリヤ（昭三・京・瀧川）（興保）二五

ハ之ヲ以テ本條第八號ニ所謂前審ノ裁判ト爲スヘキニアラス（昭四・大審「法新二九五〇號九頁」）―判事カ確定判決ト爲リタル審理ニ關與シ更ニ再審請求棄却ノ決定ニ對スル即時抗告事件ノ審理ニ關與シタルモ再審ハ上訴ノ一種ニ屬セサルヲ以テ同判事ハ上訴ニ依リ不服ヲ申立テラレタル前審ニ關與シタルモノト謂フヲ得ス（大一四・大審「大判四卷三號刑一七七頁」）

第二十五條　判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

◇二四＝判事ノ除斥・四一〇3＝上告ノ理由ノ一。

第二十六條　事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇一三四＝被告事件ノ告知・三〇三1項＝必要ト スル處分ノ請求・三〇七＝取調ノ請求・三一一＝管轄遠ノ言渡・三二二2項＝公判期日ノ變更ニ關スル請求却下ノ命令・三二四3項・三三八4項・三四五・三四七1項・三四八・三四九・三五七・五八四。

第二十七條　合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ同裁判所判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ原由ヲ示スヘシ

忌避ノ原由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日內ニ書面ヲ以テ之ヲ疏明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

◇二五＝忌避。民訴二二〇＝訴訟手續ノ中止。

第二十八條　合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

◇三一＝忌避申立却下ニ對スル抗告。

二五　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・鹿野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）（共通）四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

第二十九條　訴訟ヲ遲延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

◇四七〇＝裁判ノ取消變更・三一。

第三十條　忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇四六二＝即時抗告ニヨル裁判執行ノ停止。

第三十一條　忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五七・四五九以下＝抗告。

第三十二條　忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ同避スヘシ

同避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ同避ニ付之ヲ準用ス

◇二五＝忌避。

第三十四條　前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

◇五〇＝裁判ノ告知。

第三十五條　本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝抗告ノ期間ト手續・四七〇＝裁判ノ取消變更。

三五　除斥（大一一・關・鈴木）（共通）二四（關係）三二・三四・四一〇

第三章　訴訟能力

第三十六條　被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

◇民五三ニ理事。商法六一ノ二ニ會社ノ代表・一一四・一七〇・二三六・二四三等。大正四法律一八號。

第三十七條　刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用ヰサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

◇印紙稅法一四ニ證書帳簿ニ關スル稅法。民八八四ニ財產ニ關スル親權・九〇一—九〇四ニ後見人。刑訴三〇五・三五二。

第三十八條　前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四章　辯護及輔佐

第三十九條　被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及配偶者竝被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

◇二八八ニ公訴ノ提起。民八八四ニ財產ニ關スル親權・九〇一—九〇四ニ後見人・九〇九ニ保佐人・五三ニ理事。商法六一ニ會社ノ代表・一一四・一七〇・二三六・二四三等。

三六　訴訟能力(大一三・行。大一五・司口。昭五・日・矢追)(共通)三七・三八・五七二1

▽被告人ノ訴訟能力(大一〇、一一・中・林)(共通)三七・三八・三〇五・三五二・三五三

▽訴訟代理ト辯護トノ異同(昭四・辯)(共通)三七・三八・八〇・一五七・一七八・二七九・三三一・三七四・三七五・四〇—四七

三七　疏明ト證明トノ差(昭五・辯口)(共通)三三六・三八八

第四章　辯護及輔佐

三九　刑訴法上ノ親權者ノ權利(大一四・日・鹽野)(共通)四七(關係)一一八・一一五

▽被告人ノ辯護權(防禦權)(大一三・京・宮本)

▽豫審ニ於ケル被告人ノ防禦權(昭五・司)(共通)三〇一・三〇三

41　控訴申立ノ後訴訟記錄カ尙ホ第一審ニ存在スル間ハ便宜上第一審裁判所ニ提出スルコトナキ第二審ニ於ケル辯護人選定屆ヲ第一審ニ於テ爲シタルトキハ其屆出アリタルモノト云フニ由ナシトス（大一三・三・大審「新報一四號一六九頁」）

第四十條　辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

◇四三〇ニ上告審ト辯護士。辯護士法二ニ辯護士トナル條件・四ニ無試驗ニテ辯護士トナル資格。

第四十一條　辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十二條　辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四十三條　第三百三十五條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

◇裁構五八ニ司法官試補。辯護士法一三ニ辯護士ノ職務。陪審法三六ニ辯護士ノ選任。

第四十四條　辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

◇一五八ニ被告人ノ立會・一七八ニ檢證・二一七・三〇二ニ檢事、辯護人ノ立會・二三六ニ通譯及翻譯・三〇三。

第四十五條　被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁スルコトヲ得ス

◇一一五ニ勾留又ハ留置セラレタル被告人。

▽辯護人、輔佐人及ヒ代理人ノ異同(昭五・行)(共通)四〇—四七

四三　官選辯護ト必要辯護トノ差(大六・明・岡田)(共通)三三四・三三五(關係)四一〇10・四三三・陪三六

四四　辯護人ノ地位(大三・京・勝本。大一三・日・鹽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野)(共通)四五・四六・一一五・三〇三・三二四・三二五・三三八・二二七・三〇二・三二三・三二六・三五一・三四八・二一五・三七九

48　本條第二項ノ陳述ヲ聽クトハ必スシモ現實ニ陳述ヲ爲サシムルコトヲ要セス陳述ヲ爲スノ機會ヲ與フルヲ以テ足ルモノニシテ其機會ヲ與フル方法ニ付テハ何等規定ナキヲ以テ公判調査ニ徵シ裁判長カ其陳述ヲ阻止スルカ其他陳述ノ機會ヲ與ヘサリシ事迹ノ認ムヘキモノナキ限リ之カ機會ヲ與ヘタルモノト解スルヲ相當トス（大一五・大審「法新二六四四號九頁」）

第四十六條　辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

◇二五＝辯護人ノ忌避申立・四四＝辯護人ノ權利・一五八＝辯護人ノ押收搜索ノ立會・一七八＝檢證・二二七・三〇二・三〇三・三二六・三三八・三四八・三四九・三七九等。

第四十七條　被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫並被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇民八八四＝財產ニ關スル親權・九〇一—九〇四＝後見人・九〇九＝保佐人・七二六＝親等・七三二＝家族。刑訴三八二・三八三。

第五章　裁判

第四十八條　判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

◇三五二＝被告人心神喪失ノ場合・三・四・六＝牽連管轄・二〇・二三＝裁定管轄・三六六＝被告人退廷ヲ命セラレシ場合・三六七＝被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決スル場合・四〇四・四四二・五一二・五九三・六〇三等・一一八・一六六・一六七・三〇五・三五二・三五六・三八九・三九七・四二〇・四二七・四四三・五〇九等。

四六　公訴ニ於ケル訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）二五・四四・四五・一一五・一五八・一七八・二二七・三〇二・三〇三・三二三—三二六・三三八・三四八・三四九・三七九・五七二・五七三・五八五

▽辯護權ノ主體（昭五・早・清水）

四七　輔佐人ハ同時ニ訴訟代理人タリ得ルカ（大一一・早・清水）（同例）四六・五七二・五七三・五八五

▽親權者ノ權利（大一四・日・豐野）（共通）三九（同例）一一八・一一五

50　檢事及被告人ニ對スル裁判書ノ送達ノ日時即チ告知ノ日時ヲ異ニシタルトキハ裁判ノ外部ニ對スル效力ハ告知ニ依テ發生スルモノナレハ日時ヲ異ニスルニ依リテ效力發生ノ時期ヲ異ニスルモノトス（昭五・法決「法曹八卷四號一三〇頁」）—同一ナル被告人ノ辯護人數人中ノ或者ヨリ爲シタル公判廷外ニ於ケル證據調ノ請求ヲ裁判所カ書面ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定書ノ謄本ハ右請求ヲ爲ササル辯護人ニ送達セサルモ違法ニ非ス

第四十九條　裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

◇三一二＝公判ニ附スル決定・三六〇＝有罪ノ言渡・三六一＝公判調書ヲ判決ニ代ヘ得ル場合・四五三＝判決書・四五六・四五七＝抗告・四七〇。

第五十條　裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇五一＝裁判ノ宣告・九九＝召喚狀・一〇〇＝勾引狀及勾留狀・三四・三〇五2項・三二二2項。

第五十一條　裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

◇三六八＝缺席判決・三七〇＝裁判長ノ訓諭。

第五十二條　檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇六六＝裁判書・三六一＝公判調書ヲ判決書ニ代ヘ得ル場合。明治一四司法省布達甲七號。

第六章　書類

第五十四條　訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

◇五九＝裁判所書記ノ立會ナキ場合・六七＝裁判書・二九〇＝公訴ノ提起。

第五十五條　訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得ス

◇少年法七四＝少年ノ刑事事件ト新聞紙。

第五章　裁判

四八　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）三四〇—三四三・三五三・三五四・裁構一二〇（同例）二八・一一六・三二四4項・三六五—三六七

五〇　判決ノ成立ト其ノ效力ノ發生トノ關係（昭四・行）（同例）五一・九九・一〇〇・三四・三〇五2項・三二二2項

57　檢證調書中陳述記載部分ニ陳述者ノ署名捺印ナキ故ヲ以テ該部分ヲ無效ト謂フヲ得ス(昭五・大審「法新三一三九號七頁」)

58　數人ノ受命判事カ共同シテ證人ヲ訊問スル場合ニハ作製ノ證書ニ各自署名捺印スヘシ（昭四・大審「法新二九九五號九頁」）

60　本條第一三號ノ規定ヨリ考ヘ宣告シタル判決ノ主文及其理由ノ要旨ハ原則トシテ公判調書ニ記載セシムル趣旨ニアラスト解スルヲ相當トス（昭六・大審「法新三二八三號七頁」）

第五十六條　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

◇一三三＝被告人ノ人違ニアラスヤノ訊問・三〇〇＝被告人ノ所在ニ就テノ訊問・二三三＝公判期日前ニ於ケル被告人ノ訊問・一二七・一二九・一三九・二五五・三〇二・三一六・二二八・三二七・二三六・二〇一・二〇二・七四。

第五十七條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

◇一四〇以下＝押收及搜索・一七五以下＝檢證。

第五十八條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第五十九條　裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

◇一二七＝現行犯人逮捕後ノ手續・一七四＝司法警察官ノ押收搜索・一二＝變死者又ハ變死ノ疑アル死體ノ檢視・一八三＝檢事又ハ司法警察官ノ檢證・二一四・二二八・二三六・二七三・二七五・二七六。

第六十條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル裁判所及年月日

二　判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨

六　辯論ノ要旨

七　第五十六條第二項ニ掲クル事項

八　朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類

63　二人ノ裁判所書記カ同時ニ公判ニ立會シタル場合ニ於テハ其中ノ一名カ公判調書ヲ作成シ之ニ署名捺印スルヲ以テ足ルモノトス（昭三・大審「法新二九六九號一四頁」）

68　本條ノ署名捺印スルコト能ハサル事由ニハ何等制限ナキヲ以テ其事由ヲ絕對不能ノ場合ノミニ局限スヘカラサルハ勿論賜暇缺勤ニ因ル一時的故障ノ場合ノ如キモ亦其事由タリ得ルモノト解スルヲ相當トス（昭五・大審「法新三二六六號一三頁」）

九　被告人ニ示シタル書類及證據物

十　公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十一　裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十二　被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三　判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

◇六六＝裁判書・三六一＝公判書ヲ判決書ニ代ヘ得ル場合・三二九＝公判期日ニ於ケル取調・二三二＝身體ノ拘束・二三三＝退廷・三二〇＝公判・三三一・五八一・三五一・三六九・四〇四・二九〇・三四五・三九四・四三二・五八四・五八八・三四〇＝三四二・一四〇以下・一七五以下・三四九・五〇・五一・三六八・三六九。憲五九。構裁一〇五。陪審法一〇〇＝陪審ト公判調書。

第六十一條　公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ增減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

第六十二條　公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第六十三條　公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十四條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第六十五條　辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

◇三三八＝被告人其ノ他ノ訊問。

第六十六條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

◇三六一＝公判調書ヲ判決書ニ代ヘ得ル場合。

第六十七條　裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

◇六六＝裁判書・三六一＝公判調書ヲ判決書ニ代ヘ得ル場合。

第六十八條　裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

◇九七＝令狀ノ方式・一五〇＝命令狀・一九四＝召喚狀及勾引狀・四一〇21。

57　檢證調書中陳述記載部分ニ陳述者ノ署名捺印ナキ故ヲ以テ該部分ヲ無效ト謂フヲ得ス(昭五・大審「法新三一三九號七頁」)

58　數人ノ受命判事カ共同シテ證人ヲ訊問スル場合ニハ作製ノ證書ニ各自署名捺印スヘシ（昭四・大審「法新二九九五號九頁」）

60　本條第一三號ノ規定ヨリ考ヘ宣告シタル判決ノ主文及其理由ノ要旨ハ原則トシテ公判調書ニ記載セシムル趣旨ニアラスト解スルヲ相當トス（昭六・大審「法新三二八三號七頁」）

第五十六條　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通譯又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通譯又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二　證人、鑑定人、通譯又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

◇一三三＝被告人ノ人違ニアラスヤノ訊問・三〇〇＝被告人ノ所在ニ就テノ訊問・二三三＝公判期日前ニ於ケル被告人ノ訊問・一二七・一二九・一三九・二五五・三〇二・三二六・二二八・三二七・二三六・二〇一・二〇二・七四。

第五十七條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

◇一四〇以下＝押收及搜索・一七五以下＝檢證。

第五十八條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第五十九條　裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

◇一二七＝現行犯人逮捕後ノ手續・一七四＝司法警察官ノ押收搜索・一二＝變死者又ハ變死ノ疑アル死體ノ檢視・一八三＝檢事又ハ司法警察官ノ檢證・二一四・二二八・二三六・二七三・二七五・二七六。

第六十條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル裁判所及年月日

二　判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名竝被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨

六　辯論ノ要旨

七　第五十六條第二項ニ揭クル事項

八　朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類

63　二人ノ裁判所書記カ同時ニ公判ニ立會シタル場合ニ於テハ其中ノ一名カ公判調書ヲ作成シ之ニ署名捺印スルヲ以テ足ルモノトス（昭三・大審「法新二九六九號一四頁」）

68　本條ノ署名捺印スルコト能ハサル事由ニハ何等制限ナキヲ以テ其事由ヲ絕對不能ノ場合ノミニ局限スヘカラサルハ勿論賜暇缺勤ニ因ル一時的故障ノ場合ノ如キモ亦其事由タリ得ルモノト解スルヲ相當トス（昭五・大審「法新三二二六號一三頁」）

九　被告人ニ示シタル書類及證據物

十　公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十一　裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十二　被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三　判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

◇六六＝裁判書・三六一＝公判書ヲ判決書ニ代ヘ得ル場合・三二九＝公判期日ニ於ケル取調・二三二＝身體ノ拘束・二三三＝退廷・三二〇＝公判・二三一・五八一・三五一・三六九・四〇四・二九〇・三四五・三九四・四三二・五八四・五八八・三四〇＝三四二・一四〇以下・一七五以下・三四九・五〇・五一・三六八・三六九。憲五九。構裁一〇五。陪審法一〇〇＝陪審ト公判調書。

第六十一條　公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ增減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

第六十二條　公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第六十三條　公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十四條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第六十五條　辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

◇三三八＝被告人其ノ他ノ訊問。

第六十六條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

◇三六一＝公判調書ヲ判決書ニ代ヘ得ル場合。

第六十七條　裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

◇六六＝裁判書・三六一＝公判調書ヲ判決書ニ代ヘ得ル場合。

第六十八條　裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

◇九七＝令狀ノ方式・一五〇＝命令狀・一九四＝召喚狀及勾引狀・四一〇21。

74　本條ノ規定ニ違背シタルトキ署名捺印スヘキ書類ハ無效トスヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ署名スル能ハサルトキ他人ヲシテ代書セシメス捺印スル能ハサルトキ花押又ハ拇印ヲ爲ササリシトスルモ署名捺印スヘキ書類ハ直ニ無效ナリト解スヘキニアラス其效力ノ有無ハ文書ノ性質形式署名捺印セサル理由其他ヲ參酌シテ裁判所自由ニ判斷シ得ヘシ（昭五・大審「法新三一一八號九頁」）

第六十九條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

◇九七・九八・一九四＝召喚狀、勾引狀及勾留狀・三二九＝公判廷。

第七十條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

◇六六＝裁判書・三六一＝公判調書ヲ判決ニ代ヘ得ル場合・五〇＝裁判ノ告知・五二・五三＝裁判書調書ノ謄本抄本・一〇四・一六三・五四。

第七十一條　官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

◇五八＝訊問調書及檢證押收又ハ搜索調書・一〇九＝令狀ノ執行・九七＝令狀ノ方式・一五〇・一九四・五五〇・四一〇21。

第七十二條　官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第七十三條　官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

◇七四＝私人作成ノ訴訟書類ニ於ケル代人。

第七十四條　官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ

他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七章　送達

第七十五條　被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ屆出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル屆出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス

送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス

◇七六＝郵便ニ付スル書類ノ送達・八四＝被告ノ召喚。

第七十六條　住居、事務所又ハ送達受取人ヲ屆出ツヘキ者其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得

78　本條ニ所謂被告人ノ住居ノ知レサルトキトハ合法的ニ知レサル場合ヲ指斥スルモノニシテ過失ニ因リ知レサル場合ヲ包含セス（大一五・大審「大判五卷九號刑三六八頁」）

81　本條ニ所謂一般ノ休日タルニハ法令ニ依リ特ニ一般ノ休日トシテ指定セラルルヲ必要トシ大正元年勅令第一九號大正二年勅令第二五九號大正四年勅令第一六一號等ニ於テ休日トシテ指定セラレシモノ之ニ屬ス「大一四・大審「大判四卷五號刑三三三頁」）

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十七條　檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ

第七十八條　被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條　公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ裁判所ノ掲示場ニ公示シテ之ヲ爲スヘシ

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ掲示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル日ヨリ三十日、其ノ他ノ公示送達ハ掲示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條　書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行フ

◇七七＝檢事ニ對スル送達・七九＝公示送達・五二三＝略式命令。民訴一六〇以下。

第八章　期間

第八十一條　期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

◇二八一—二八三＝時效。大正元勅令一九號。

第八十二條　法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里每ニ一日ヲ加フ其ノ距離又ハ端數二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキハ一日ヲ加フ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ宣告シタル裁判ニ對スル上訴ノ提起期間ニハ之ヲ適用セス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

◇三九五＝控訴ノ提起期間・四一八＝上訴ノ提起期間・四二三＝上告趣意書ノ差出期間・四五九＝即時抗告ノ提起期間。

84　裁判所ハ勾留中ノ被告人ニ對スル場合ニ於テモ他ノ被告人ニ對スルト同シク公判ニ於テ期日ヲ告知セルトキハ更ニ期日ノ呼出狀送達ヲ要セス從テ當日被告人カ出頭セサルトキハ被告人カ正當ノ理由ヲ具シ延期ヲ請求セサル限闕席ノ事由カ被告人ノ懈怠ニ因ルト監獄官署ノ過失ニ因ルトヲ問ハス裁判所ハ適法ニ期日ヲ開クコトヲ得（大一〇・大審「大判二七輯五卷刑七五頁」）

第九章　被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十三條　裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

◇二八八＝公訴ノ提起・三一二＝公判ニ附スル決定・四八三＝大審院ノ豫審決定。典範五一＝皇族ノ勾引及召喚。

第八十四條　被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有スロ頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

◇九七＝令狀ノ方式・九九・三二一＝召喚狀ノ送達。

第八十五條　召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構內ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

◇三二一＝召喚狀ノ送達。

第八十六條　被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

◇典範五一＝皇族ノ勾引及召喚。憲五三＝國會議員ノ特權ノ一。

第八十七條　左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二　被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三　被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得ス但シ前條及第百六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

◇典範五一＝皇族ノ勾引及召喚。憲五三＝國會議員ノ特權ノ一。

第八十八條　被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

◇九七＝令狀ノ方式。

90　警察犯處罰令ノ定ムル所ハ民事罰ニモ行政罰ニモ非ス全ク刑事罰ナリ通常裁判所ニ於テハ之カ違反事件ノ檢事ノ起訴ニ依リ繫屬シタルト即決言渡ニ對シ正式裁判ノ請求アリタルニ依リ繫屬シタルトヲ問ハス一樣ニ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ其手續ヲ遂行シテ審判ヲ爲スヘキモノトス故ニ本條ニ依リ被告人ヲ勾留スルコトヲ妨ケス（大一四・法決「法曹三卷八號八三頁」）

第八十九條　勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間內ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第九十條　第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ原由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ被告人逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

被告人監獄ニ在ルトキハ第一項ノ原由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

◇少年法六七＝少年ニ對スル勾留狀。

第九十一條　被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

◇九七＝令狀ノ方式。

第九十二條　被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條　裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ニ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

◇九七＝令狀ノ方式。

第九十四條　裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署又託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

◇九八＝勾引狀ノ方式。司法事務共助法二＝民事刑事ニ關スル事項ノ相互囑託。

第九十五條　被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ搜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

◇九八＝勾引狀ノ方式。

第九章　被告人ノ召喚勾引及勾留

八六　勾引狀ヲ發シ得ル場合（大一四・日・豐野）

（共通）八七・一〇六・一二三・一九一・二一一（關係）典範五一・憲五三・刑訴九三—九五・一九三

九四　共助（大一一・闕・鈴木）（共通）一五四・一七八・二一二・二二八・二四七・二九九・裁構一三一—一三三・司法事務共助法

第九十六條　前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リテ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

◇一三三—被告人ノ人違ナラサルヤノ訊問。

第九十七條　召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

◇六九—裁判書及判決書・一〇三—令狀ノ執行。

第九十八條　前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

◇六九—裁判書及判決書・一〇三—令狀ノ執行。

第九十九條　召喚狀ハ之ヲ送達ス

◇七五—八〇—送達・九七—令狀ノ方式。

第百條　勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

◇一〇一—一〇五—令狀ノ執行・一〇七—一〇九—勾引勾留ノ被告人・一七三・一七四—令狀執行ノ爲ニスル搜索・五三六—裁判執行ノ指揮。

第百一條　勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第百二條　司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第百三條　勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ

113 勾留期間ノ計算ニ付テハ時效期間ト同シク初日及第一八條第三項ノ定ムル日ニ該當スル期間ノ末日モ共ニ之ヲ期間ニ算入ス勾留ノ期間ハ指定ノ監獄ニ引致シタル日ヨリ起算シ保釋ニ因リ出監シタル日ハ之ヲ勾留日數ニ算入ス（大一二・刑事局長回答）一本條ノ更新決定ハ期日滿了前ニ於テ勾留繼續ノ必要ヲ認メタル場合ニ之ヲ爲スモノトス（大一二・刑事局長回答）一勾留ノ更新決定ハ他ノ決定ノ如ク其謄本ヲ送達スルニ非サレハ之ヲ執行スルコト

發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

◇一〇七—勾引勾留ノ被告人・一七三・一七四—令狀執行ノ爲ニスル搜索。

第百四條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第百五條　軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ外ニ在リテ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

◇交涉法・二一・四。

第百六條　裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第百七條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

◇一〇三—令狀ノ執行。監一。

第百八條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

◇八九・九六—勾引ノ被告人・一〇六。監一。

第百九條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

◇一〇〇・一〇三—令狀ノ執行。

第百十條　檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

◇三九八3項—在監ノ被告人。

第百十一條　勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍內ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

◇一一二—罪證ノ湮滅又ハ逃亡ノ虞アル場合。監四五—在監者トノ接見・四六—在監者ト信書・五〇—接見ノ立會、信書ノ檢閱。監施一二〇以下—接見及信書。

第百十二條　裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル

トヲ得サルモノニ非ス該決定ヲ本人ニ示スヲ以テ足レリトス蓋勾留狀ハ其原本ヲ示シ之ヲ執行スルモノナレハ更新決定モ之ト同一手續ニ依ルヘキモノト解スヘシ（大一五・法決「法曹四卷八號一〇六頁」）—本條ノ決定ニハ理由ヲ附スルヲ要スルモ理由ヲ附ストハ勾留ヲ更新スル所以ヲ示スノ謂ナルヲ以テ當該決定書ニ勾留ヲ繼續スル必要アル旨ノ記載アルニ於テハ即チ所謂理由ヲ附シタルモノトス（昭五・大審「法新三二三九號七頁」）

虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閱シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

裁判所檢閱ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

◇四五＝辯護人ト勾留ノ被告人。

第百十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

◇八一＝期間計算・一二一＝上訴提起期間內及上訴中ノ事件・四五七＝抗告・四七〇＝裁判ノ取消變更。

第百十四條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

◇九〇＝勾留・一二一＝上訴提起期間內及上訴中ノ事件・四五七＝抗告。

第百十五條 勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戶主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

◇民八八四＝財產ニ關スル親權・九〇一—九〇四＝後見人・九〇九＝保佐人。刑訴三九＝辯護人ノ選任。

第百十六條 保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

◇一二一＝上訴提起期間內及上訴中ノ事件・四五七＝抗告・四七〇＝裁判ノ取消變更。

一一三 勾留狀ノ效力（大一五・司。昭六・日・矢追）

（同保）一一〇—一一二

一一四 訴訟行爲ハ行爲者自ラ取消シ得ルカ（昭六・辯）（共通）二六七・二九二・三八二

一一五 辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・豐野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）（共通）四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一二・早・清水）（共通）四六

▽保釋ト責付トノ異同（大一一・早・清水。昭六・中・矢追）（共通）一一六—一二一・一一六—一二一

116 保釋請求ノ許否ニ付テハ其決定書ニ保釋請求者ヲ表示シ此者ニ對シ決定書ノ謄本ヲ送達スヘキモノトス（昭四・法決「法曹八卷三號一二六頁」）

119 第一一七條第三項ニ依リ保證金ニ代ル保證書ヲ提出セシメタルトキト雖本條第二項及第三項ノ場合ハ保證金設定ノ決定ヲ爲スヘキモノトス（大一五・法決「法曹四卷四號一三六頁」）

第百十七條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ

檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地內ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資產ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百十八條 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

◇一二一＝上訴提起期間內及上訴中ノ事件。民七二五＝親族。

第百十九條 被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

◇一一六＝保釋・一一八＝責付・一二一＝上訴提起期間內及上訴中ノ事件・四五七＝抗告・四七〇＝裁判ノ取消變更・五五三＝罰金科料其ノ他ノ裁判ノ執行。

第百二十條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢事ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

◇一一四＝勾留ノ取消・一一九＝保釋、責付又ハ勾留取消・一一三＝勾留ノ期間・三一八・三七一。

第百二十一條 上訴提起期間內又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テ訴訟記錄原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

◇一一三—一一五＝勾留及保釋・一一八＝責付・一一九＝保釋、責付又ハ勾留ノ取消。

一一八 責付（大一四・關・宮本）（共通）一一九・一二一

121 事件カ保釋決定ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ヲ離レタル後ニ於テモ保證金ヲ納付セハ該決定ヲ執行スルコトヲ得ルモノニシテ右ノ執行指揮ハ該決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ爲スヲ相當トス（昭三・法決「法曹六卷八號九九頁」）

123 本條ノ事由存スル以上ハ第八七條ノ事由存セサルモ檢事ニ於テ直ニ勾引狀ヲ發シ得ヘシ（昭六・法決「法曹九卷四號一三五頁」）

第百二十二條 豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

◇四七〇＝裁判ノ取消變更。

第百二十三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

一　被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ

二　現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三　現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ

四　既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ

五　死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ

六　被疑者常習トシテ强盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

◇八七＝勾引シ得ル場合・九七＝令狀ノ方式・一三一＝勾引及勾留・一七四＝司法警察官ノ押收搜索。裁構八四・一三二。刑訴一三〇・一二四・一二五・一一七・一七〇・一八〇・二一四・二二八・八六・九〇・九四・九五・一二九・二二二・一八二。刑二三五・二三六。

第百二十四條 檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得

二　司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ

三　司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

◇一三〇＝現行犯・一三一＝微罪現行犯人ノ逮捕。

第百二十五條 現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

◇一三〇＝現行犯・一三一＝微罪現行犯人ノ逮捕。

一二三 被疑者、被告人、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ區別（大一三・明・岡田庄）（判例）二七八・三五八

▽勾引狀ヲ發シ得ル場合（大一四・日・齋野）（判例）八六

127 苟モ現行犯ノ共犯者ノ一人ニ付本條ノ規定スル現行犯處分アリ且其手續繼續セル限リ現場ヨリ逃亡シタル他ノ共犯者ニ對シテモ本條ノ適用アルモノト解スルヲ相當トス（大一五・大審「大判五卷一一號刑四七二頁」）— 苟モ一罪ノ一部ニ付現行犯タル要件ヲ具備スル以上ハ其全體ニ付テ現行犯處分ヲ爲スコトヲ妨ケス（大一三・大審「評論一四卷刑訴四一頁」）

第百二十六條 司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

◇一二四＝現行犯人ノ逮捕手續・一二五＝現行犯人ノ逮捕・一一八＝逮捕後ノ手續・一三〇＝現行犯・一三一＝微罪現行犯人ノ逮捕。

第百二十七條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ四十八時間內ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

◇一二四—一二六＝逮捕手續及逮捕後ノ手續・一二八＝逮捕後ノ手續・一三九＝被疑者ノ訊問。

第百二十八條 司法警察官吏檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官檢事ノ命令ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢事又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

◇一二三＝檢事カ勾引狀ヲ發スル場合・一二四＝現行犯人ノ逮捕手續。

第百二十九條 檢事現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ遲クトモ二十四時間內ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢事他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取リタルトキハ前項ノ手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事他ノ檢事ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ囑託シタル檢事ニ送致スヘシ

◇一二四・一二五＝現行犯人ノ逮捕手續及逮捕後ノ手續・一二七・一二八＝逮捕後ノ手續・一三一・一三二・四七一。

一二九 被疑者ノ勾留（昭五・日・齋野）（關係）一二四・一二五・一二七・一二八・一三一・一三二・四七一

135 本條ハ被告人訊問ニ付テノ注意ヲ示シタルニ止マリ所謂其ノ利益ト爲ルヘキ事實云々トハ訊問調書ニ掲載スルヲ命セサルヲ以テ反對ヲ認ムヘキ事跡存セサル以上ハ其機會ヲ與ヘシモノト推定スヘク其記載ナキ一事ヲ以テ訊問調書ヲ違法ナリト謂フヲ得ス（昭三・大審「大判七卷八號刑五〇四頁」）

第百三十條　現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

◇一二三—一二九＝現行犯人ノ逮捕手續及逮捕後ノ手續・一七〇＝公訴提起前ノ押收搜索・一八〇＝公訴提起前ノ檢證・二一四＝公訴提起前ノ訊問・二二八。

第百三十一條　第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百十條ノ規定ハ第百二十三條及第百二十九條ノ勾引又ハ勾留ニ付之ヲ準用ス

第百三十二條　五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人ノ住居若ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限リ第百二十四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

第十章　被告人訊問

第百三十三條　被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第百三十四條　被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フヘシ

第百三十五條　被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

◇三〇一＝豫審終結前ノ被告人ノ辯解・三四七＝證據ニ對スル被告人ノ辯解及被告人ニ對スル證據提出ノ告知・三四七＝裁判長ノ處分ニ對スル異議ノ申立。

第百三十六條　被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

◇五六＝訊問調書。

第百三十七條　事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

◇二〇四＝證人ト他ノ證人又ハ被告人トノ對質。

一三〇　現行犯（大三・京・勝本。昭二・司口。昭二・京・宮本。昭三・緯。昭四・京・宮本）（判例）一二三—一二九・一七〇・一八〇・二一四・二二八

第一〇章　被告人訊問

▼被告人ニ事實供述ノ義務アリヤ（昭二・行口）

一三三　被告人訊問ノ性質（昭二・日・鹿野）（決例）一三四—一三八

一三四　證據ノ意義ト種類（大一二・京・宮本）（決例）三三七・三四〇・三四一・一八四

▽直接證據ト間接證據（大五・法・清水）（決例）一八四・三四〇・三四一

142 領置處分ハ司法警察官カ犯罪事實ヲ證スヘキ物件所持人ニ對シ强制執行力ヲ用ヒスシテ任意之カ提出ヲ受ケ以テ該物件ヲ犯罪搜査用ニ供セントスル公法上ノ處分ナリ從テ領置處分自體ニヨリ何等私法上ノ意思表示ヲ俟ツコトナク領置者ト任意提出者トノ間ニ私法上ノ法律關係發生スヘキ謂アルナク又領置處分ト同時ニ當然當事者間ニ私法上ノ寄託契約締結ノ意思アルモノト推定スヘキ根據ナシ（大一四・東地「新報一〇八號五〇八頁」）

第百三十八條　被告人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ唖ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

◇三三三＝被告人ト退廷。

第百三十九條　本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

◇五六＝訊問調書・五九＝裁判所書記ノ立會ナキ場合ノ取調又ハ處分・一一七・一二九＝逮捕後ノ手續・二五五＝强制處分。

第一一章　押收及搜索

第百四十條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フヘシ

裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

◇五七＝檢證、押收及搜索調書・五八＝調書ノ方式六〇10＝公判調書記載ノ一事項・一四七—一四九＝押收搜索ノ方法・四五七＝抗告。戶一三。刑一九。

第百四十一條　裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當セサル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得ス

第百四十二條　被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

◇五七＝檢證、押收及搜索調書・五八＝調書ノ方式・六〇10＝公判調書記載ノ一事項。

一三九　警察署長カ刑事手續ニ付テ有スル主ナル權限（昭六・九・上原）（決例）一五〇—一五二・一七〇—一七二・一七四・一八〇—一八三

第百四十三條　裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ捜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限リ捜索ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ノ捜索ニ付テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇一四七＝軍事上祕密ノ場所ニ於ケル押收捜索。

第百四十四條　捜索ニ付テハ祕密ヲ保チ且捜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第百四十五條　捜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ沒收スヘキ物ナキトキハ捜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第百四十六條　押收又ハ捜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百四十七條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス

◇一五七＝押收捜索ノ立會。

第百四十八條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十九條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ祺祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二章　押收及捜索

一四三　檢證ト捜索トノ差異（大一四・刪）（共通）一七五

150　裁判所カ本條ノ規定ニ基キ發シタル單純ナル命令狀ニシテ證據決定ヲ以テ目スヘカラサル決定ノ令狀執行ノ任ニ當レル司法警察官ノ作成セル捜索押收調書及押收ニ係ル物件ハ公判廷ニ提出セサルモ違法ナラス（昭二・大審「新報一二二號一二頁」）

154　公判準備ノ爲被告人ノ訊問ヲ命セラレシ受命判事ハ其公判準備期日ニ於テ訴訟關係人カ任意提出ノ證據物ニ付必要アルトキハ之ヲ領置シ得（昭二・法決「法曹五卷八號一二九頁」）

第百五十條　裁判所ハ押收スヘキ物又ハ捜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ押收又ハ捜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ捜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

◇一四〇＝差押ト差押物件ノ提出命令・一四一＝郵便物又ハ電信書類ノ差押提出命令。一四三＝捜索・四五七＝抗告。

第百五十一條　司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ捜索ヲ爲スニ當リ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

◇四五七＝抗告。

第百五十二條　司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ捜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第百五十三條　裁判所押收又ハ捜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢事ニ送付スルコトヲ得

檢事前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

◇四五七＝抗告・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第百五十四條　押收又ハ捜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫審判事　區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ノ爲ス押收又ハ捜索ニ付テハ裁判所ノ爲ス押收又ハ捜索ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第百四十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ

◇四七〇＝裁判ノ取消變更。

一五四　直接審理トソノ例外（大二・東・豐島）（共通）一七八・三四一・三四三

▽共助（大一一・關・鈴木）（共通）九四・一六〇・一七八・二一二・二二八・二四七・二九九・裁構一三一—一三三・司法事務共助法

159 本條ノ準用ニ依リ第一七六條ニ於テ檢證ヲ爲スヘキ日時場所ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘキ旨ヲ定メタルハ一ノ訓示規定ニ過ギサルヲ以テ之ニ違背シタレハトテ專判審豫審ノ適カ專判審ノ手續ニ於テ之ヲ爲シタル檢證ノ無效ヲ惹起スヘキモノニ非ス（昭二・大審「新報」二九號一七頁）

第百五十五條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス

猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ調書ニ記載スヘシ

日沒前押收又ハ捜索ニ着手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

◇一五六＝夜間ニテモ押收捜索ヲ爲シ得ル場所・一七一＝現行犯アル場合ノ押收捜索・一七二＝現行犯人逮捕ノ爲ニスル捜索・五七。

第百五十六條　左ノ場所ニ於テ爲ス押收又ハ捜索ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所

二　旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間內ニ限ル

第百五十七條　公務所又ハ軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ內ニ於テ押收又ハ捜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ內ニ於テ押收又ハ捜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ隣人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

◇一四七＝軍事上祕密ノ場所ニ於テノ押收捜索・一七二＝現行犯人逮捕ノ爲ニスル捜索・一七四4項。

第百五十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ捜索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ捜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

◇一五九＝押收捜索ノ日時場所ノ通知。

第百五十九條　押收又ハ捜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇四一〇22＝上告ノ理由ノ一。

第百六十條　押收又ハ捜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

一五八　公訴ニ於ケル訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

一六〇　共助（大一一・鵬・鈴木）（共通）九四・一五四・一七八・二一二・二二八・二四七・二九九・裁構一三一＝一三三・司法事務共助法

第百六十一條　押收又ハ捜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終ルモノ迄之ヲ留置スルコトヲ得

第百六十二條　押收又ハ捜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第百六十三條　押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

◇五七＝檢證、押收及捜索調書。

第百六十四條　押收物ニ付テハ毀失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危險ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第百六十五條　沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

◇刑一九＝沒收物件。

第百六十六條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

◇三七二＝押收物ト沒收・三七三＝押收贓物ノ還付。四五七＝抗告。

第百六十七條　押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

◇三七二＝押收物ト沒收・三七三＝押收贓物ノ還付・四五七＝抗告。

第百六十八條　押收又ハ捜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百六十九條　豫審判事ハ押收及捜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

◇四七〇＝裁判ノ取消變更。

第百七十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ捜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ捜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ

命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ第百六十四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

◇一二三—一二八＝現行犯人ノ逮捕手續及逮捕後ノ手續・一七四＝押收捜索ノ準備不能ノ場合・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第百七十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得

◇一三〇＝現行犯・一五五＝夜間ノ押收捜索・一五七＝押收捜索ノ準備不能ノ場合・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第百七十二條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ犯人ヲ逮捕スル爲捜索ヲ爲スコトヲ得檢事又ハ司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ逃入リタルトキ亦同シ

◇一三〇＝現行犯・一五五＝夜間ノ押收捜索・一五七＝押收捜索ノ準備不能ノ場合。

第百七十三條　司法警察官吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入リ捜索ヲ爲スコトヲ得

◇一五五＝夜間ノ押收捜索・一五六＝夜間ニテモ押收捜索ヲ爲シ得ル場所・一五七＝押收捜索ノ立會・一七四＝押收捜索ノ準備不能ノ場合。

一七〇　訴訟指揮ト訴訟警察トノ區別（昭六・日・清水）（同例）一八〇・二一四・二二八

175 檢證トハ實驗ニ依リ事物ノ狀態ヲ認識スル證據方法ニシテ實驗ニ伴フ意見判斷ヲ包含スヘキモノトス（大一四・大審「新報六三號三五五頁」）一檢證ヲ爲スニハ問題トナリタル事實關係ヲ明白ナラシムル爲種々ノ場合ヲ假裝シテ或行爲ヲ爲スコトノ可能ナルト否トヲ觀則スルヲ妨ケス（大一三・大審「評論一三卷刑訴一一三頁」）

第百七十四條　第百四十條乃至第百四十九條、第百五十三條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條乃至第百六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ捜索ニ付之ヲ準用ス

第百四十六條、第百四十七條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外司法警察吏ノ爲ス捜索ニ付之ヲ準用ス

第百七十二條ノ捜索ヲ爲ス場合及第百二十三條第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル爲前條ノ捜索ヲ爲ス場合ニ於テハ第百五十七條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

◇一七一＝現行犯人逮捕ノ爲ニスル捜索・一七二＝現行犯アル場合ノ押收捜索・一七三＝令狀執行ノ爲ニスル捜索・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第一二章　檢　證

第百七十五條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

◇五七＝檢證、押收及捜索調書・五八＝調書ノ方式・八〇10＝公判調書記載ノ一事項・一四八・一四九＝押收捜索ノ方法。

第百七十六條　檢證ニ付テハ身體ノ檢査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢査ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ヲ檢査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ立會ハシムヘシ

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

一七五　檢證ノ意義（昭二・司）（同例）一七六—一八三

▽檢證ト捜索トノ差異（大一四・刑）（共通）一四三

一七六　檢證ノ手續（昭五・司口）（共通）一七七—一八三

180 檢事ハ既ニ現行犯人ノ一部ニ付公訴ヲ提起セル後ト雖其現行犯ノ取調ニヨリ共犯ヲ發見スルトキハ其共犯人ニ對スル公訴提起前ニ於テハ本條及第一二三條第三號ノ規定ニ依リ檢證ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（昭二・大審「法新二七八五號一一頁」）

182 變死者トハ不自然ナル死亡ヲ遂ケタル者ニシテ其死因不明ニテ或ハ犯罪ニ基因スルニ非スヤトノ疑アル場合ヲ謂フモノトス（昭六・法決「法曹九卷七號八頁」）

第百七十七條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前檢證ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五十六條ニ規定スル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

◇一八一＝現行犯及特定ノ事件ニ就テノ檢事ノ檢證。

第百七十八條　第百四十七條、第百五十四條、第百五十七條乃至第百六十二條及第百六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス

第百七十九條　隷審判事ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百八十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

◇一二三—一二八＝現行犯人ノ逮捕手續及逮捕後ノ手續・一八三＝檢事及司法警察官ノ檢證。

第百八十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ檢證ヲ爲スコトヲ得

◇一三〇＝現行犯・一七七＝日沒前日沒後ノ檢證・一八三＝檢事及司法警察官ノ檢證。

第百八十二條　變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十三條　第百四十七條、第百五十七條、第百六十一條、第百六十二條、第百七十六條及第百七十七條ノ規定ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付之ヲ準用ス

一七八　直接審理トソノ例外（大二・東・豐島）（共通）一五四・三四一・三四三

▽共助（大一一・關・鈴木）（共通）九四・一五四・一六〇・二一二・二二八・二四七・二九九・裁構一三一—一三三・司法事務共助法

184 特別辯護人ト雖之ヲ證人トシテ訊問スルハ禁スル所ニ非ス（昭二・大審「評論一六卷刑訴二五七頁」）—共同被告人ハ苟モ訴訟手續ヲ分離シ以テ之ヲシテ當該訴訟ニ於ケル被告人タル地位ヨリ脫退セシメサル以上假令該被告人ニ全然關係ナク專ラ他ノ被告人ニノミ關スル公訴事實ニ付テモ猶之ヲ以テ證人ト爲スコトヲ得サルモノトス（大一五・大審「新報八八號二二四頁」）

第十三章　證人訊問

第百八十四條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

◇一八五—一八八＝訊問ヲ拒ミ得ル者。

第百八十五條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得ル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

◇一八九＝證言ヲ拒ム者ノ事由疏明。

第百八十六條　左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一　被告人ノ配偶者、四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二　被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三　被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

◇民七二五—七三一＝親族・八七八＝繼父母又ハ繼母カ親權ヲ行フ場合・九〇一—九〇四＝後見人・九〇九—九一一＝保佐人及後見監督人。刑訴一八九。

第百八十七條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇一八九＝證言ヲ拒ム者ノ事由疏明。

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

第一三章　證人訊問

一八四　證據ノ蒐集ト種類（大一二・京・宮本）（共通）三三七・三四〇・三四一・一三四

▽直接證據ト間接證據（大五・法・清水）（共通）一三四・三四〇・三四一

▼證人ト鑑定人ノ差異（昭二・司口）（共通）二一九

▽證言ト鑑定人ノ異同（大一四・司）

第百八十八條　證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦同シ

◇刑六〇以下＝共犯。刑訴一八九＝證言ヲ拒ム者ノ事由疏明。

第百八十九條　證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

◇一八五—一八八＝訊問ヲ拒ミ得ル者・二一〇＝宣誓又ハ證言ノ拒絶・四五七1項＝抗告。民訴二六七＝疏明。

第百九十條　召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝即時抗告。

第百九十一條　召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

◇典範五一＝皇族ノ勾引及召喚。

第百九十二條　第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

◇典範五一＝皇族ノ勾引及召喚。

第百九十三條　第八十八條、第百條乃至第百五條及第百九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

◇二〇七＝證人ノ訊問。

第百九十四條　證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名竝被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所竝出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第百九十六條　證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇二〇一＝宣誓ヲ爲サシメサル證人・二〇二＝宣誓又ハ證言ノ拒絶・二一〇＝宣誓。

第百九十七條　宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十八條　宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

◇七四＝私人ノ署名捺印不能ノ場合

第百九十九條　宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告クヘシ

◇刑一六九＝偽證罪。

第二百條　證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

196 綴令强制處分手續ニ於テ已ニ一度宣誓ヲ爲サシメタル證人ト雖豫審請求ニ基キ更ニ訊問ヲ爲ス場合ハ新ニ宣誓ヲ爲サシムルヲ要ス（昭五・大審「評論二〇卷二號二三九頁」）— 宣誓資格ヲ有スル者ニ對シ豫審判事カ宣誓ヲ爲サシメサリシハ訊問手續ニ違法アリテ該供述ハ證言ノ效力ナシ（昭五・大審「法新三二一一一號〇頁」）

198 本條第三項ノ規定ノ精神ハ證人ヲシテ宣誓踐行宣誓ヲシテ證人ヲ行ルムシセ

第百九十五條　證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一　十六歲未滿ノ者

二　宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三　現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

四　第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ

五　第百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六　被告人ノ屬人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

第一項ニ掲クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

◇刑六〇以下＝共犯・一〇三＝犯人藏匿罪・一〇四＝證憑湮滅罪・一六九＝虛偽ノ陳述・一七一＝虛偽ノ鑑定・二五六＝贓物ニ關スル罪。

第二百二條　證人ノ供述證人若ハ之ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財產上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三條　證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

第二百一條　證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第百九十六條　證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇二〇一＝宣誓ヲ爲サシメサル證人・二〇二＝宣誓ヲ爲サシメサル場合・二一〇＝宣誓又ハ證言ノ拒絶・二一五＝檢事ノ證人訊問ト宣誓。

第百九十七條　宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十八條　宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

◇七四＝私人ノ署名捺印不能ノ場合

第百九十九條　宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告クヘシ

◇刑一六九＝偽證罪。

第二百條　證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

一九〇　證人義務（大一五・日・豐野。昭五・日・矢追）

（大審）一九六・二一〇（一審）一九一・一九三・二〇七・八五・一九五・一九七—二〇五・一三六・一三八・二〇七—二〇九・二一一・二一二・二一四—二一八

一九一　勾引狀ヲ發シ得ル場合（大一四・日・豐野）

（大審）八六

ニ在ルヲ以テ宣誓踐行ノ事實ニ付疑フヘキ所ナキ以上ハ無筆ナラサル證人カ無筆ナルヲ答ヘシ爲書記カ其代書事由ヲ附記シ證人ノ氏名ヲ代書シタリトスルモ以之宣誓書又ハ手續ヲ無效ナラシムルモノニ非ス「昭二・大審「法新二八〇二號一一頁」」

208 本條及第二一二條ニ規定セル裁判所ノ權能ハ第二〇九條ノ規定ニ抵觸セサル限リ親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ニ適モ適用セラル（昭三・大審「法新二九六九號一四頁」）

◇二一〇＝宣誓又ハ證言ノ拒絕。

第二百四條　事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

◇一三七＝被告人ト他ノ被告人又ハ證人トノ對質。

第二百五條　證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百六條　證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百七條　第八十五條、第百三十六條及第百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第二百八條　證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九條　親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滯在スルトキハ其ノ滯在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

◇典範五一＝皇族ノ勾引及召喚。

第二百十條　證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百四以下ノ過料ニ處ス第百八十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝即時抗告。

二〇六　證人カ自己ノ推測トシテナシタル供述ト證據力（大七・東・牧野）

▽證人カ他人ヨリ傳聞シタルトコロノ供述ト證據力（大七・東・牧野）

▽證人カ曾テ見聞シタルトコロニ基ク現在ノ意見トシテ爲シタル供述ト證據力（大七・東・牧野）

▽證人ノ宣誓ナクシテナシタル供述ト證據力（大七・東・牧野）（同旨）三三一

▽第二〇六條ノ說明（昭四・司）

二一〇　證人義務（大一五・日・壘野。昭五・日・矢追）

（共通）一九〇・一九六（同旨）一九一・一九三・二〇七・八五・一九五・一九七—二〇五・二〇七—二〇九・一三六・一三八・二一一—二一八

第二百十一條　裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

◇一九三＝證人ノ勾引・一九四＝證人ノ召喚狀及勾引狀・二〇九＝親任官及國會議員ノ訊問。

第二百十二條　裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ現在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得

◇二〇八＝證人ノ訊問・四七〇＝裁判ノ取消變更。

第二百十三條　豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

◇四七〇＝裁判ノ取消變更。

第二百十四條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察署ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察署ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

◇一二三—一二八＝現行犯人ノ逮捕手續及逮捕後ノ手續・二一五—二一七＝證人ノ訊問、宣誓、立會及處分。

第二百十五條　檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二百十六條　司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

◇五九＝裁判所書記ノ立會ナキ場合ノ取調又ハ處分。

二一一　勾引狀ヲ發シ得ル場合（大一四・日・壘野）

（共通）八六

二一二　共助（大一一・關・鈴木）（共通）九四・一五四・一六〇・一七八・二二八・二四七・二九九・裁構一三一—一三三・司法事務共助法

219 鑑定人ハ必要アル場合ニハ其資料ニ付廣汎ナル權限ヲ有スルコトハ第二二三條第二二四條ノ規定スル所ナルヲ以テ裁判所カ鑑定命令ヲ爲スニ當リ特ニ資料トナスコトヲ禁止シタルモノヲ除ク外ハ鑑定人ハ自由ニ之カ取調ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(昭五・大審「法新三一三〇號一一頁」)

220 本條ハ宣誓ノ趣旨ヲ定メタルモノニシテ其文詞ヲ限定シタルモノニ非ス(大一四・大審「評論一四卷刑訴一〇〇頁」)

第二百十七條　第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ還料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

◇一九〇‖證人ノ不出頭・二一〇‖宣誓又ハ證言ノ拒絶。

第二百十八條　證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

◇刑費二・四―六。大正一三司法省令一一號。

第十四章　鑑定

第二百十九條　裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百二十條　鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

◇五六‖訊問調書・六〇‖公判調書。

第二百二十一條　鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十二條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

◇四五七2項‖即時抗告ヲ許ス場合。

第二百二十三條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ檢査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第百七十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　鑑定人ハ、鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覽シ、若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

221 本條第一項ノ規定ハ必スシモ經過ノ記述ヲ以テ鑑定ノ要件ト爲スモノニ非サルカ故ニ之ヲ缺キタレハトテ鑑定ノ效力ニ消長アリト解スヘキニ非ス(昭二・大審「大判一〇號刑三六七頁」)

224 鑑定人カ鑑定ニ必要ナル材料ヲ調査蒐集スル必要ノタメ他人ヲ使用シテ補助ノ任ニ當ラシメ以テ事實上ノ調査ヲ爲シ材料ヲ蒐集スルカ如キハ特ニ禁止セラレサル限ハ特別ノ命令ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(大一二・大審「評論一二卷刑訴一五頁」)

第二百二十五條　裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十六條　裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキハ鑑定人ヲ增加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條　檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◇四一〇‖上告ノ理由ノ一。

第二百二十八條　第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十九條　鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

◇刑費三―六。大正一三司法省令一一號。

第二百三十條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

第二百二十一條乃至第二百二十三條及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百二十一條第三項ノ規定ニ依ル鑑定書ノ說明ハ官署又ハ公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百三十一條　特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用ス

二二七　辯護人ノ地位(大三・京・勝本。大一三・日・豐野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野)(共通)四四

▽公訴ニ於ケル訴訟代理人ノ權限(大一一・早・清水)

二二八　共助(大一一・關・鈴木)(共通)九四・一五四・一六〇・一七八・二一二・二四七・二九九・裁構一三一―一三三・司法事務共助法

▽公訴不可分ノ原則(大七・日・木村。昭二・司。昭六・京・宮本)

二三一　證人ノ自己ノ推測トシテ爲シタル供述ト證據力(大七・東・牧野)

第十四章　鑑定

二一九　證據ノ意義ト鑑定人(昭六・京・宮本)(共通)三三六・二三一

232 本條ノ規定ハ公判廷ニ於ケル被告人ノ陳述及裁判所ノ訊問裁判等ノ趣旨ヲモ了解セシムル爲ニ通事ヲ用フル法意ヲ有スルモノト解スヘキヲ以テ苟モ公判廷ニ於ケル口頭辯論ニ際シ通事ヲ必要トスル被告人ニ對シテハ其判決言渡ニ際シテモ通事ヲ用ヒ如何ナル判決ノ言渡シアリタルヤヲ克ク了解セシムヘキモノトス（昭五・大審「法新三一一二號七頁」）

第十五章　通　譯

第二百三十二條　國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

◇五六＝訊問調書・六〇＝公判調書。裁構一一五—一一八＝裁判所ノ用語。

第二百三十三條　聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

◇一三八＝被告人聾啞者ナル場合・二〇七＝證人ノ訊問。

第二百三十四條　國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

◇五六＝訊問調書・六〇＝公判調書。

第二百三十五條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十六條　第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第十六章　訴訟費用

第二百三十七條　刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ

被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

◇三一三—三一五＝免訴及公訴棄却ノ決定・三五八・三五九＝有罪ノ判決・三六二—三六五＝無罪、免訴及公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・四〇一・四〇六・四四六・四四八・四五四。陪一〇七。

第二百三十八條　共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

◇刑六〇以下＝共犯。

第二百三十九條　告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

◇二五八—二六三＝告訴・二六九＝告發・三一一三・三一四＝免訴ノ決定・三六二・三六三＝無罪及免訴ノ言渡ヲ爲ス判決。

第二百四十條　親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

◇刑一三五・一八〇・一八三・二〇八・二〇九・二二九・二三二・二四四・二五一・二五五・二六四＝以上凡テ親告罪ニ關スル條文。刑訴二五八＝被害者ノ告訴・二六〇—二六三・二六七。

第二百四十一條　檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

246 被告事件カ公判ニ繫屬スルニ因リテ當然檢事ノ捜査權ヲ制限スヘキ何等法律上ノ規定存スルコトナキヲ以テ檢事ハ被告事件カ公判ニ繫屬シタル後ト雖モ尙捜索權ヲ行使スルニ妨ケアルコトナシ（昭三・大審「法新二八四二號一三頁」）

檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

◇三七六—三七九＝上訴ヲ行ヒ得ル者・三八二＝上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三＝被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者・四九二＝再審請求ヲ爲シ得ル權利者・四九八＝再審請求ノ取下。

第二百四十二條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ以テ其ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得

◇二三七＝被告人ノ訴訟費用負擔・二三八＝共犯ノ訴訟費用。

第二百四十三條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ

此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇二三九＝告訴人又ハ告發人ノ訴訟費用負擔・二四〇＝親告罪ノ告訴取消ノ場合ノ費用負擔者・四五七＝抗告・四五九以下＝即時抗告。

第二百四十四條　裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五七＝抗告・四五九以下＝即時抗告。

第二百四十五條　訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム

◇五六二＝異議ノ申立ヲ爲シ得ル者。

第二編　第一審

第一章　捜　査

第二百四十六條　檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ捜査スヘシ

◇四七六＝檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲ス者。交涉法一＝通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲シ得ル者・六・七。

第二編　第一審

第一章　捜　査

二四六　檢事ノ職務範圍（大九、大一一・中・林。昭五・日・豐野）（共犯）二七八・五三五（無罪）二五二・一一二・二五五

第二百四十七條　警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス

但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

◇四七七＝四七六條以外ニ於テ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲ス者・二五五＝强制處分。裁構八四1項＝司法警察官ニ對スル命令。

第二百四十八條　左ニ掲クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘシ

一　廳府縣ノ警察官

二　憲兵ノ將校、准士官及下士

◇四七七＝四七六條以外ニ於テ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲ス者。交渉法一＝通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲シ得ル者。裁構八四1項＝司法警察官ニ對スル命令。明治一四司法省布達甲五號・同丙一三號・明治一六司法省布達丁九號。大正一二勅令四四一號。

第二百四十九條　左ニ掲クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ捜査ノ補助ヲ爲スヘシ

一　巡査

二　憲兵卒

◇四七七＝四七六條以外ニ於テ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲ス者・一二四＝現行犯人ノ逮捕手續・一六〇＝司法警察官ノ押收捜索補助。大正一二勅令四四一號。

第二百五十條　前三條ニ規定スル者ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

◇大正十二勅令五二八號一。

第二百五十一條　森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◇大正一二勅令五二八號二以下。昭和三勅令二三八號。

第二百五十二條　第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法警察官吏ノ爲ス捜査ニ付之ヲ準用ス

◇一〇二＝管轄區域外ニ於ケル勾引狀ノ執行。

第二百五十三條　捜査ニ付テハ祕密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

二四七　共助(大一一・關・鈴木)(共通)九四・一五四・一六〇・一七八・二一二・二一八・二九九・裁構一三一—一三三・司法事務共助法

二五四　强制捜査處分ヲ爲ス場合及ソノ效力(昭四・明・岩本)(共通)二五五—二五七

254 檢事聽取書ナルモノハ檢事カ捜査處分トシテ事件關係人ノ任意ノ供述ヲ錄取シタルモノニシテ第五六條ノ訊問調書ニ該當セス從テ供述者ノ被疑者タルト他ノ者タルヲ問ハス裁判所書記ノ署名捺印ヲ要セス（昭二・大審「大判六卷九號刑三五三頁」）

255 判事强制處分ノ請求ヲ受ケタルトキハ其處分ノ要否ヲ判斷シ應否ヲ決スルヲ得ス請求カ違法ニ非サル限リ之ニ應スル義務アルモノトス（大一二・刑事局長回答」）

第二百五十四條　捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ强制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

捜査ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

◇一二三＝檢事カ直ニ勾引狀ヲ發スル場合・一二四＝現行犯行人ノ逮捕手續・一二六—一二九＝逮捕後ノ手續・一七〇＝檢事及司法警察官ノ押收捜索・一七一＝現行犯アル場合ノ押收捜索・一八〇—一八二＝檢事及司法警察官ノ檢證・二一四＝檢事及司法警察官ノ證人訊問・二二八・二三六・二五五・三〇四・三二八。

第二百五十五條　檢事捜査ヲ爲スニ付强制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、捜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

所屬區裁判所ノ判事又ハ前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

◇九〇＝勾留ノ要件・一三九＝被疑者ノ訊問・一四〇以下＝押收捜索・一七五以下＝檢證・一八四以下＝證人訊問・二一九以下＝鑑定・二九七＝豫審判事カ豫審ニ屬スル處分ヲ爲ス場合。

第二百五十六條　判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條　第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日內ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

◇八一＝期間ノ計算・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第二百五十八條　犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

二五五　强制處分(大二・京・吾孫子。昭二・日・清水)(共通)二五六・二五七　(興佛)九〇・一三九・一四〇以下・一七五以下・一八四以下・二一九以下・二九七

▽强制處分ヲ爲ス場合及ソノ效力(昭四・明・岩本)(共通)二五四・二五六・二五七

二五八　告訴ノ性質及制限規定並ニ效力(昭六・東北・上野)(共通)二五九—二六八

▽告訴、告發、自首ノ異同(昭三・中・本井)(共通)二六九・二七六・二七二—二七四

258 共有者ノ一人カ共有物ニ關スル犯罪ニ對シテ告訴ヲ爲シタルトキハ告訴人カ被害共有物ニ付有スル持分ノ多少ニ拘ラス其告訴ハ不可分的ニ被害共有物全部ニ關スル犯罪ノ訴追ニ對シ效力ヲ及ホス（大一四・大審「大判四卷七號刑四一〇頁」）

第二百五十九條　直系尊親又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

◇二六三＝親告罪ニ付告訴ヲ爲スヘキ者ナキ場合・二六八＝親告罪ニ於ケル告訴又ハ其ノ取消ト共犯人。

第二百六十條　被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セス

◇民八八四＝財產ニ關スル親權・九〇一—九〇四＝後見人・五三一＝理事。商六一・六二＝合名會社ノ代表者・一一四＝合資會社ノ代表者・一七〇＝株式會社ノ代表者・二三六＝株式合資會社ノ代表者。民九六八以下・七二六。

第二百六十一條　被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

◇民八八四＝財產ニ關スル親權・九〇一—九〇四＝後見人・七二五＝親族・七二六＝親等。刑訴二六〇3項。

第二百六十二條　死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

◇刑二三〇2項＝死人ニ對スル誹毀罪。民七二五＝親族。

第二百六十三條　親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

◇二五八＝被害者ノ告訴・二六〇—二六二＝被害者ノ法定代理人其他ノ告訴。刑三五・一八〇・一八三・二〇八・二〇九・二二九・二三二・二四四・二五一・二五五・二六四＝以上凡テ親告罪ニ關スル條文。

二五九　告訴ノ制限規定（昭六・東北・上野）（判例）二六二・二六四・二六五

264 姦通ノ事實ヲ知ラス離婚セシ場合ニアリテハ姦婦ト夫トタリシ者トノ再婚事實ノ有無ハ告訴權ノ消長ニ影響ナシ（昭五・法決「法曹八卷六號一一〇頁」）

267 我現行法ノ下ニ於テハ犯罪前ト犯罪後トヲ問ハス告訴ノ取消ヲ除ク以外ニ於テハ告訴ニ付之カ自由處分ヲ許サス告訴權ノ拋棄ニ付テハ之ヲ認メサルノ精神ナリト解スルヲ正當トス（昭四・大審「法新三〇九八號一一頁」）

第二百六十四條　刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

◇民八一三以下＝裁判上ノ離婚。刑訴二六七＝告訴ノ取消・二一五＝公訴棄却ノ決定・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。

第二百六十五條　親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月內ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

◇刑一三五・一八〇・一八三・二〇八・二〇九・二二九・二三二・二四四・二五一・二五五・二六四＝以上凡テ親告罪ニ關スル條文。刑訴八一＝期間ノ計算。民七八〇以下＝婚姻ノ絕對的取消。

第二百六十六條　告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ホサス

◇二五八＝被害者ノ告訴・二六〇—二六二＝被害者ノ法定代理人其ノ他ノ告訴。

第二百六十七條　告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

◇二四〇＝親告罪告訴取消ニ於ケル訴訟費用ノ負擔者・二六八＝親告罪ニ於ケル告訴又ハ其ノ取消ト共犯人・三一五＝公訴棄却ノ決定・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。刑九〇—九二＝國交ニ關スル罪。

二六四　親告罪ノ告訴ノ性質（昭三・行。昭四・明・岡田。昭五・日・清水）（判例）民八一三以下・刑訴二六七・三一五・三六三—三六五・二六八

二六七　訴訟行爲ハ行爲者自ラ取消シ得ルヤ（昭六・綿）（決定）二九二・三八二・一一四（判例）三一五・三六五・一二一・一二九・一一九・二四〇・二六四・二六八・二七一・二七五・三六四・二七五・四七〇

▽第二審裁判所ニ於テ有罪ノ言渡ヲナシソノ確定前親告罪ニツキ告訴ノ取下アリテ公訴權ノ消滅ノ場合生シタルトキ其ノトルヘキ手續（大一一・京・中川）（判例）二四〇・二六四・二六八・二七一・三一五・三六四

▽親告罪ノ告訴ハ起訴後之ヲ追究スルヲ許スヤ（昭五・明・坂倉）（判例）二四〇・二六八・三一五・三六

276 自首ハ必スシモ犯人親ラ之ヲ爲スヲ要セス他人ヲ介シテ自己ノ犯罪ヲ申告セシメタルトキト雖モ亦其ノ效アルモノトス（大一三・大審「大判三卷一〇號刑六九四頁」）

279 檢事ノ起訴猶豫處分ニ對シ被疑者ヨリ抗告ヲ爲スノ權ナシ（昭五・法決「法曹九卷二號一二〇頁」）— 檢事ノ不起訴處分ハ之ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

◇刑九〇—九二＝國交ニ關スル罪。

第二百六十九條　何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百七十條　第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準用ス

第二百七十一條　告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

◇二五八—二六三＝押收捜索ノ立會、豫告其ノ他。二六七＝告訴ノ取消。

第二百七十二條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

◇二七三＝告訴告發ノ手續。

第二百七十三條　檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

第二百六十八條　親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

◇刑九〇—九二＝國交ニ關スル罪。

第二百六十九條　何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百七十條　第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準用ス

第二百七十一條　告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

◇二五八—二六三＝押收捜索ノ立會、豫告其ノ他。二六七＝告訴ノ取消。

第二百七十二條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

◇二七三＝告訴告發ノ手續。

第二百七十三條　檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

◇五六＝訊問調書・五九＝裁判所書記ノ立會ナキ場合ノ取調又ハ處分。

第二百七十四條　司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二百七十五條　第二百七十二條、第二百七十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第二百七十六條　第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第二百七十七條　犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風說アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虛實ヲ探査スヘシ

四・刑九〇—九二

▽告訴權ノ拋棄（昭五・東・小野）（判例）二五八

▽告訴ノ拋棄及取消（昭六・司）

二六八　告訴取消不可分ノ意義（昭五・明・板倉）

▽告訴不可分ノ原則（昭五・中・矢追。昭六・東北・上野）

二六九　告訴、告發、自首ノ異同（昭三・中・平井）（共通）二五八・二七六

第二章　公訴

第二百七十八條　公訴ハ檢事之ヲ行フ

◇裁構六＝檢事ノ職務權限・七＝檢事ノ數・一八＝檢事代理・三三＝檢事正・四二＝檢事長・五六＝檢事總長・七九—八四＝檢事。

第二百七十九條　犯人ノ性格、年齡及境遇竝犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得

◇交涉法八＝陸海軍ノ檢察官ト豫審判事及檢事。少年法六二＝檢事ノ刑事手續・六三＝刑事訴追ノ不能。裁構一四〇＝司法事務取扱ニ對スル抗告。

【問題】

第二章　公訴

二七八　公訴ノ意義（大一四・日・清水）

▽檢事公訴（昭四・關・宮本）

▽彈劾式訴訟及糾問式訴訟（大四・立・佐藤。大八・中林。大一三・中・林）（共通）二九五

▽公訴權（大一一・關・鈴木。昭五・明・板倉）（共通）二八〇・二九八〇・二九一

▽刑訴當事者（大正四・京・勝本）（共通）二八〇・二九一（判例）裁構六・八・一八・三三・四二・五六・七九—八四・刑訴二四七・二四八・二五〇・八四・一〇〇・三九・四七・三三一・五六七

▽檢事ノ地位ト職務範圍（大九、一一・中・林。昭五・日・豊野）（共通）五三五・二四六（判例）二五二・一一1項・二五五

▽被告人ノ意義並ニ地位（大五・辯。大五・中・林。大一四・關。昭四・行）（判例）二八〇・二九一・三九以下

▽訴追權者ニ關スル主義（大一一・中・林）

▽公訴權ノ主義、本質、作用、發生、消滅（大四・東・豊島。大四・關・鈴木。大一四・日・清水。昭四・關・鈴木。昭五・明・板倉。昭五・司口）（共通）二七九—二九四

▽起訴ト上訴トノ差別（大九・京・中川）（共通）三七六

二七九　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）三九・九二・一一三・一二九・一四四・一七〇・一八〇・二一四・二五五・二八八・二九二・三二九—三三一・三四三・三八二・四一二—四一四・四四〇・四四三・四四四（判例）憲五九・陪審法・舊刑一四二・一四三・一八四但・一八五・一五九

▽便宜主義（昭三・京。昭三・明・板倉）（判例）刑事交涉法八・少年法六二・六三

▽公訴提起ノ任意主義ト法定主義ノ優劣（昭三・辯）

▽公訴提起ノ效力（昭三・司）

第二百八十條　公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

◇二九一＝公訴提起ト被告人指定其ノ他・四一〇18＝上告ノ理由ノ一。

第二百八十一條　時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三　長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五　長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月

六　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

七　

◇八一＝期間ノ計算・三一四4＝時效完成ノ爲ノ無罪。衆議院議員選擧法一三八＝選擧犯罪ノ時效。治安警察法一三二＝時效。

第二百八十二條　二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

◇二五六＝勾留處分ト其ノ書類證據物。

第二百八十三條　刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

◇刑四七＝併合罪ノ處分・五九＝再犯・三六—四〇＝正當防衛行爲、緊急避難行爲、犯意ナキ行爲・犯罪無能力者ノ行爲・四二＝自首輕減・四三＝未遂罪・六三＝從犯・六六＝酌量輕減・一七〇・一七一＝僞證罪・一七三＝誣告罪・一九八＝贈賄罪。

▽捜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）

（共通）二八八—二九〇・二九四

▽連續犯ノ關係アル甲乙二所爲ノ中甲ト乙トノ行爲ヲ併セ裁判スルハ刑訴第二七九條ニ違反セサルカ（大一五・行）（關係）七・刑五四

二八〇　公訴權（大一一・關・鈴木。昭五・明・板倉）

（共通）二七八・二九一（關係）三一五6・三六五1・四一〇18

▽刑訴當事者（大四・京・藤本）（共通）二七八

▽不告不理ノ原則ト公訴不可分ノ原則トノ關係（大七・中・林。大八・東・牧野）（共通）二九一・四一〇18（關係）舊刑訴一四二・一四三・一八四但・一八五・刑訴二九七・二九八

▼告訴ノ效力（昭三・司口）

二八一　時效ノ完成、中斷及ヒ停止（昭五・司）（共通）二八四・二八五・二八七

284 連續犯ノ時效ハ其最終行爲タル犯行完了ノ日ヨリ起算ス（昭六・大審「評論二〇卷七號二六六頁」）

285 違警罪即決例ニ依ル警察署長ノ即決ハ公訴ノ時效中斷ノ原因トナラサルモノトス（昭六・法決「法曹九卷七號八一頁」）

288 連續犯ニ對シ檢事カ其一部ノミ起訴スルモ受訴裁判所ハ之レカ爲メニ全部ニ對スル審判上ノ拘束ヲ受クルモノニアラス（大一五・大審「評論一五卷刑訴三〇八頁」）

第二百八十四條　時效ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時效ノ期間ヲ起算ス

◇二八一＝公訴ニ關スル時效ノ完成。刑六〇以下＝共犯。

第二百八十五條　時效ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無效ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

◇二八八＝公訴ノ提起・二九八＝豫審手續・四七九・四八〇＝大審院ノ特別權限ニ屬スル事件及ソレト牽連スル事件。交涉法一〇＝時效ノ中斷。刑六〇以下＝共犯。

第二百八十六條　時效ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

◇二八五＝時效ノ中斷。

第二百八十七條　時效ハ第三百五條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間內ハ進行セス

第二百八十八條　公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス

◇四七九・四八〇＝大審院ノ特別權限ニ屬スル事件及ソレト牽連スル事件。

第二百八十九條　拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合ニ限リ豫審ヲ請求スルコトヲ得

◇二＝牽連管轄・八＝牽連スル場合・三一〇＝管轄違ノ決定。

二八四　公訴時效ノ進行（大一二・東・牧野）（關係）二八一・刑六〇以下

二八八　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）三九・九二・一一三・一二三・一二九・一四四・一七〇・一八〇・二一四・二五五・二七九・二九二・三二九—三三一・三四三・三八二・四一二—四一四・四四〇・四四三・四四四（關係）憲五九・陪審法・舊刑一四二・一四三・一八四但・一八五・一五九

▽捜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）

（共通）二八九・二九〇・二九四・二七九

290 公判請求書ニハ必スシモ受訴裁判所ヲ表示スルヲ要セス（昭四・大審「法新二九八二號一一頁」）

291 犯罪事實ノ表示ハ必スシモ起訴狀自體ニ其內容ヲ記載スル要ナク記錄中ノ他ノ書類ヲ援用シ其內容ヲ明ニスルヲ妨ケス（昭四・大審「法新三〇九七號一三頁」）一本條ノ所謂犯罪事實トハ犯罪ヲ構成スル具體的事實ヲ指スモノト解スヘシ故ニ他ノ犯罪事實ト識別シ得サルモノ若ハ犯罪ノ內容ヲ知ルニ由ナキモノハ犯罪事

第二百九十條　公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

◇五四＝刑事訴訟ノ書類ノ作成者・六〇＝公判調書ノ作成ト記載事項。

第二百九十一條　公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌・體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

◇二八〇＝公訴提起・三一五9＝公訴棄却決定ノ理由ノ一・三六四6＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス事由ノ一。

第二百九十二條　公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

◇三一五6＝公訴棄却決定ノ理由ノ一・三六五1＝公訴棄却ノ裁判ヲ言渡ス事由ノ一。

第二百九十三條　檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共

二九〇　訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

▽捜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）（共通）二八八・二八九・二九四・二七九

二九一　公訴據（大一一・關・鈴木。昭五・明・板倉）（共通）二七八・二八〇（關係）三一五6・三六五1・四一〇18

▽刑訴當事者（大四・京・勝本）（共通）二七八

▽訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

▽公訴提起ノ方式（大一〇・中・林。昭五・日・清水）（關係）二八〇・三一五9・三六四6・四七九

▽不告不理ノ原則ト公訴不可分ノ原則トノ關係（大七・中・林。大八・東・牧野）（共通）二八〇・四一〇18（關係）舊刑訴一四二・一四三・一八四但・一八五・刑訴二九七・二九八

二九二　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）二七九・二八八・三二九—三三一・三四三・四一二—四一四（關係）憲五九・陪審法

▽訴訟行爲ハ行爲者自ラ取消シ得ルヤ（昭六・辯）（共通）二六七・三八二・一一四

▽訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

（「頁二一號一〇二三新法」審大・五昭）リナ法適不テシト示表ノ實

ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

◇一二九＝檢事ノ逮捕後ノ手續及勾留狀・一五五＝强制處分・三一八＝豫審ニ於テ免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル場合・三七一＝公判ニ於テ無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫其ノ他ノ言渡ヲ爲シタル場合。

第二百九十四條　告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

◇二五八＝被害者ノ告訴・二六〇—二六二＝被害者ノ法定代理人其ノ他ノ告訴・二六三＝親告罪ニ於テ告訴ヲ爲スコト得ル者ナキ場合・二九二＝公訴ノ取消・二九三＝事件ノ送致。裁構一四〇＝司法事務取扱ニ對スル抗告。

第三章　豫審

第二百九十五條　豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

第二百九十六條　豫審ニ於テハ取調ノ祕密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百九十七條　豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

◇刑六〇以下＝共犯。

二九四　捜査終了後檢事ノ採ルヘキ手續（大二・京・吾孫子）（共通）二八八・二八九・二九〇・二七九

第三章　豫審

二九五　豫審ト公判トノ關係、異同（大一五・日・清水。昭三・明・板倉）

▽豫審ノ目的及性質（大四・東・豐島）

▽豫審ニテ取調ヲ爲スヘキ範圍（大一三・明・岡田庄）

▼豫審（昭二・司口）（共通）二九六

二九六　豫審（昭二・司口）（共通）二九五

301 本條ハ豫審判事ニ對シ豫審終結前被告人ヲシテ嫌疑ヲ受ケタル原由ニ付辯解ヲ爲サシムヘク注意シタル規定ニ止マリ其違反ノ爲再審後ノ公判ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トスル趣旨ニ非ス蓋シ公判ノ際被告人ハ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケタル原由ニ付辯解ヲ爲スコトヲ得ルカ故豫審處分ニ於テ右違反アリタリトスルモ之カ爲判決ヲ不法トスル理由ナシ（昭四・大審「法新二九六九號九頁」）

第二百九十八條　檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間內ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ

◇二八八—二九一＝公訴ノ提起・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第二百九十九條　豫審判事ハ豫審處分ニ付其ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

◇裁構二二＝事務ノ分配。

第三百條　豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

◇一三三以下＝被告人訊問。

第三百一條　豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二條　豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◇四一〇11＝上告ノ理由ノ一。

第三百三條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限リ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

◇四四2項＝辯護人ノ證據物謄寫。

二九九　共助（大一一・關・鈴木）（共通）九四・一五四・一六〇・一七八・二一二・二二八・二四七・裁構一三一—一三三・司法事務共助法

三〇一　豫審ニ於ケル被告人ノ防禦權（昭五・司）（共通）三九・三〇三

三〇二　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・鹽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・早野）（共通）四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

三〇三　豫審ニ於ケル被告人ノ防禦權（昭五・司）（共通）三九・三〇一

第三百四條　豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

◇二五四＝強制處分・三二八＝公務所ノ報告。

第三百五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一　被告人ノ所在分明ナラサルトキ

二　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

前項ノ決定ハ之ヲ送達セス

◇五〇＝裁判ノ告知・六六＝裁判書・二八七＝時效ノ進行・三七＝被告人意思能力ナキ場合。

第三百六條　豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ

◇交渉法三＝豫審ノ請求。

第三百七條　檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得

豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三百八條　檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百九條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇一—一〇＝裁判所ノ管轄。裁構二七＝地方裁判所ノ刑事訴訟ノ管轄。刑訴六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一六＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五〇＝裁判ノ告知・三一〇・三一一＝管轄違ノ決定・三一三＝免訴ノ決定・三一八・三一九。

第三百十條　豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管內ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

◇裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄。

第三百十一條　豫審判事ハ被告人ノ中立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

◇一＝土地管轄・二一＝牽連管轄・五・六＝牽連ニ依ル土地管轄・一〇＝同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スル場合。

三〇五　被告人ノ訴訟能力（大一〇、大一一、昭三・中・林）（共通）三六—三八・三五二・三五三

▽訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

三〇九　豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）（共通）三一二—三一五

312 豫審判事ハ豫審請求ノ事件ヲ取調ヘタル上終結決定ヲ爲スニ當リ一罪中ノ一部ノ事實ニ付公判ニ付スルニ足ルヘキ嫌疑ナカリシコトヲ認メタル場合ニ於テハ其嫌疑アル部分ニシテ判決裁判所ノ判斷ヲ求ムヘキ事實ト之ニ對スル法令ノ適用トヲ示シテ公判ニ付スル言渡ヲ爲セハ足リ其公判ニ付スルニ足ル嫌疑ナキ事實ニ付特ニ免訴ノ理由ヲ明示シ其言渡ヲ爲スコトヲ要セス（大一五・大審「新報七五號三七頁」）

第三百十二條　公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

◇六六＝裁判書・五〇＝裁判ノ告知。

第三百十三條　被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一六＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五〇＝裁判ノ告知・三一七＝三一九。

第三百十四條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

五　法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

◇六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一六＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五〇＝裁判ノ告知・三五八＝有罪ノ判決・三五九＝刑ノ免除ノ判決・三六二＝無罪ノ判決・三六三＝免訴ノ言渡ヲ爲ス判決。

遠警罪即決令七＝規定ノ期間内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時。刑訴二八一—二八七＝公訴ノ時效。刑八〇・九三＝以上ハ自首ニ依リ刑ノ免除サルル罪ニ關スル條文・二四四・二五一・二五五・二五七＝以上ハ直系血族、配偶者、同居ヲ親族又ハ家族及此等ノ配偶者ナルカ故ニ刑ヲ免除サル罪ニ關スル條文。刑訴三一七—三一九・五三三。恩赦令二・三。

三一二　豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。中・平井）（共通）三〇九・三一三—三一五

三一三　免訴ノ裁判（大一二・東・牧野。昭五・東・小野）（共通）三一四・三六三・四八三（關係）三一八・三一九・三五二・三七一・四八六・五九〇

▽判決ノ效力（大七・中・林。昭四・明・岡田。昭五・明・板倉。昭六・九・上原）（共通）三六三

▽豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）（共通）三〇九・三一二・三一四・三一五

▽公判取消（大一四・司）（共通）三一四

三一四　確定判決（大一一・鵜・鈴木）（共通）三六三（關係）三五八・三五九・三六二・三六三・五三三・遠警罪即決例七

▽訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

▽判決ノ效力（大七・中・林。昭四・明・岡田。昭五・明・板倉。昭六・九・上原）（共通）三六三

315 略式命令發布後其送達機關ヨリ裁判機關ヲ即チ前送達ニ略式命令ヲ交付シタル後其送達前ニ被告人死亡シタルトキハ本來略式命令ナルモノハ其謄本ヲ被告人ニ送達シテ之ヲ爲スモノナルニ其送達ニ先チ被告人死亡シタルモノナルカ故ニ通常ノ規定ニ從ヒ公訴棄却ノ決定ヲ爲スヘキモノトス（昭五・法決「法曹八卷四號一三〇頁」）

第三百十五條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴ノ取消アリタルトキ

七　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

八　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

九　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

◇六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・三一六＝即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五〇＝裁判ノ告知。交渉法三＝檢事及陸海軍ノ檢察官ノ豫審請求。刑訴三六四6＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス決定ノ事由ノ一・三六五1＝公訴棄却ノ裁判ヲ言渡ス事由ノ一。刑一三五・一八〇・一八三・二〇八・二〇九・二二九・二三一・二四四・二五五・二六四＝以上ハ凡テ親告罪ニ關スル條文・九〇—九二＝國交ニ關スル罪。刑訴二六七＝告訴ノ取消・二九二＝公訴ノ取消・二九〇・二九一＝公訴ノ提起・三一八・三一九。

第三百十六條　第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝即時抗告ノ期間其ノ他。

▽豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）（共通）三〇九・三一二・三一三・三一五

三一五　一事不再理（昭三・行。昭六・日・清水）

▽豫審免訴ニ對シ更ニ豫審請求アリタル場合ノ處分（大九・東・中川）（共通）三一七

▽豫審免訴決定ノ效力（大二・京・吾孫子。大一四・日・清水）（共通）三一七

▽豫審終結決定ノ種類（大三・京・勝本。大一三・日・清水。昭三・明・岡田庄。昭四・明・岩本。昭四・中・平井）（共通）三〇九・三一二—三一四

▽檢事總長ハ直接ニ地方裁判所ノ豫審判事ニ大審院特別權限事件豫審ヲ求メタリ豫審判事ハ之ヲ大審院ニ移送スヘキカ、或ハ他ノ如何ナル裁判ヲ爲スヘキカ（昭三・明・板倉）（共通）四七九—四八一

▽親告罪ト免訴ノ判決（昭三・鮮）（共通）三六五

第三百十七條　免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限リ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得

一　新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ

二　決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル捜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

◇交涉法八＝同一事件ニ於ケル陸海軍ノ檢察官ト豫審判事及檢事。刑一九四—一九七＝逃捕監禁罪、暴行凌辱罪及收賄罪。

第三百十八條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

◇二九三＝事件ノ送致・三〇九＝管轄違ノ決定・三一三—三一五＝免訴及公訴棄却ノ決定・四七〇＝裁判ノ取消變更。

三一七　豫審免訴ニ對シ更ニ豫審請求アリシ場合ノ處分（大九・東・中川）（共通）三一五（同例）刑事交涉法八・刑一九四—一九七・刑訴三一八・三一九

▽豫審免訴決定ノ效力（大二・京・吾孫子。大一四・日・清水）（共通）三一五

▽第三一七條第一項ノ新事實ト新證據トノ差異ノ具體的說明（大一四・明・板倉）

三一八　同一事件ニ對シ誤ツテ二ツノ裁判所ニ於テ判決ヲナシタル場合（昭五・行）（共通）三一九

320 裁判所カ公判期日ヲ定メ訴訟關係人ニ對シ召喚手續ヲ爲シタル後始テ辯護屆ヲ提出セラレシ場合ニハ其辯護人ハ辯護屆ヲ提出當時ノ訴訟進行程度ニ於テ訴訟關係人ト爲ルニ過キサルヲ以テ之ニ對シ最早召喚ノ要ナシ（昭二・大審「法新二七七號一一頁」）

—被告人カ出頭セル辯護人ノミニ辯論セシメ其他ノ辯護人ノ辯論ヲ拋棄スル旨申立テタルトキハ辯護人ノ出廷ナキニ不拘公判ヲ開廷スルモ違法ニ非ス（昭二・大審「法新二七七號一一頁」）

第三百十九條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

◇二九三＝事件ノ送致・三〇九＝管轄違ノ決定・三一三—三一五＝免訴及公訴棄却ノ決定・四五七＝抗告・四七〇＝裁判ノ取消變更・四七一＝檢事及司法警察官ノ處分取消變更。

第四章　公判

第一節　公判準備

第三百二十條　裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及補佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及補佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

◇八四＝召喚狀・九九＝召喚狀ノ送達・五八一＝私訴關係人ノ召喚。少年法四三＝豫審判期日ニ出席シ又ハ呼出スヘキ者・七三＝豫審又ハ公判ノ手續。陪審法五＝第三條ノ請求ノ期間。

第三百二十一條　第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

◇八一・八二＝期間。陪審法三八＝召喚狀ノ送達ニ要スル期間。

第四章　公判

第一節　公判準備

三二〇　合議裁判所ニ於ケル裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三一一・三一二・三一三・三一四・三一八—三四一・三四七・三四九・三六六・五八三・四三・五一三三五・九三—九五・九七

▽大審院ノ特別事件ノ公判廷ニ於テ裁判長ハ次回ノ公判期日ヲ日曜日ト定メタ、辯護人一同ハ之ヲ不當トシ期日ノ變更ヲ請求シタカ却下サル、ソコテ辯護人ハ公判期日ニ出頭セヌコトニ決議シタ、若シ辯護人カ決議通リニ行動スルトキハ裁判所ハ如何ニシテ公判手續ヲ行フヘキカ、又出頭セサル辯護人一同ニ對シ何等カノ制裁ヲ加ヘラレルカ（大一五・京・瀧川）（共通）三三四（同例）八四・九九・三二二・辯護士法三二一

321 被告人異議ナク辯論ノ終本條ハキトルタシ論結ハ豫期間ノ利益ハ之ヲ拋棄セルモノト認ム（昭・四・大審「法新三〇五六號一三頁」）

第三百二十二條　裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

◇五〇＝裁判ノ告知。

第三百二十三條　裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ兼メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇一三三＝一三八＝被告人訊問・四一〇11＝上告ノ理由ノ一。少年法六五＝公判期間前ノ調査。陪審法四二＝公判準備期間ノ被告人訊問。

第三百二十四條　裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物又ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通譯若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通譯又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ

◇一九二＝證人ノ召喚・一九四＝證人ノ召喚狀及勾引狀・二二八＝鑑定・二三六＝通譯及翻譯・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・五〇＝裁判ノ告知・四一〇14＝上告ノ理由ノ一。交渉法六。陪四三。

第三百二十五條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得

◇三四二＝訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類。

三二二　裁判長ノ職權（大六・明・眞田）（共通）三二〇・三二七・三三四・三三八―三四一・三四七・三四九・三六六・五八三・四三・五一・三三五・九三―九五・九七

▽公判ノ準備手續（大一三・行）（同旨）三二六・三二八・三二四・三二五

三二四　證據書類ト證據物トノ別（大一四・京・宮本）

第三百二十六條　裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◇三三八＝被告人訊問及證據調・四一〇11＝上告ノ理由ノ一。少年法六五＝公判期日前ノ調査。陪審法四九＝公判準備期日外ニ於ケル證人又ハ鑑定人ノ訊問。

第三百二十七條　裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

◇二一九以下＝鑑定・一三四＝國語ニ非サル文字又ハ符號・一四〇以下＝押收及搜索・一七五以下＝檢證・一五四＝押收搜索ノ方法・一七八＝檢證ノ方法・二二八＝鑑定・二三六＝通譯及翻譯。少年法六五。陪審法四九。

第三百二十八條　裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

◇二五四＝强制處分・三〇四＝豫審判事ノ公務所ノ報告請求。

第二節　公判手續

第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

◇四一〇1＝上告ノ理由ノ一。

第三百三十條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

◇三三一＝罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人・三五二＝被告人心神喪失ノ狀態又ハ病疾ノ場合・三六六―三六八＝被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲シ得ル場合・四〇四＝被告人出頭セサル時・四一〇8＝上告ノ理由ノ一。

第三百三十一條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第二節　公判手續

三二九　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）二七九・二八八・二九二・三三〇・三三一・三四三・四一二―四一四（同旨）旅五九・諸審法

三三〇　公判期日懈怠ノ效果（大一一・早・清水）（同旨）三三一・三五二・三六六・三六七・三六八・四〇四・四一〇8

三三一　被告人出頭セサルトキ審判ヲ爲シ得ルカ（大一五・行。昭三・中・矢追）（共通）三三〇

332 公判ノ準備及鑑定人訊問ノ各期日ニ於ケル取調ニ際シ被告人ノ身體ノ拘束ヲ解カサリシトスルモ爲ニ其手續ノ違法ヲ來スモノニ非ス（昭五・大審「法新三一三七號七頁」）

第三百三十二條　被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

◇四一〇9＝上告ノ理由ノ一。

第三百三十三條　被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

◇三三九＝證人ニ付テノ特例・三六六＝被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷セル場合。

裁構一〇九＝裁判長ノ退廷セシムルノ權。

第三百三十四條　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

◇四三＝裁判長ノ辯護人選任・三六八＝辯論終結後ノ宣告・四一〇10＝上告ノ理由ノ一・四三三＝辯護人ノ出席セサル時・陪審法三六＝被告人辯護人ヲ選任セサル時。

第三百三十五條　左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一　被告人二十歳未滿又ハ七十歳以上ナルトキ

二　被告人婦女ナルトキ

三　被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

四　被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

五　其ノ他必要ト認ムルトキ

◇四三＝裁判長ノ辯護人選任・四一〇10＝上告ノ理由ノ一・四三三＝辯護人ノ出席セサル時又ハ其ノ選任ナキ時。

三三三　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇・三二一・三三四・三三八—三四一・三四七・三四九・三六六・五八三・四三・五一・三三五・九三—九五・九七

三三四　官選辯護ト必要辯護トノ差（大六・明・岡田）（共通）四三・三三五（同例）四一〇10・四三三・陪審三六

▽大審院ノ特別事件ノ公判廷ニ於テ裁判長ハ次回ノ公判期日ヲ日曜日ト定メタリ、辯護人一同ハ之ヲ不當トシ期日變更ノ請求ヲシタカ却下サル、ソコテ辯護人ハ公判期日ニ出頭セヌコトヲ決議シタ若シ辯護人カ決議通リニ行動スルトキハ裁判所ハ如何ニシテ公判手續ヲ行フヘキカ、又出頭セサル辯護人一同ニ對シ何等カノ制裁ヲ加ヘ得ルカ（大一五・京・澁川）（共通）三二〇・辯護士法三一（同例）八四・九九・三二二

336 犯人ノ性行經歷ト犯罪行爲トカ交涉スル場合ニ在リテハ其犯罪ト交涉ヲ有スル限度ニ於テ證據ニ依リ認定セラレタル性行經歷モ之ヲ當該犯罪認定ノ資料ト爲スヲ妨ケス（昭四・大審「法新三〇八六號九頁」）

337 共同被告人ノ一人ノ爲シタル供述ハ常ニ他ノ者ノ爲ニ證據タリ得ルニ過スルモノトス（昭四・大審「法新三〇〇一號一三頁」）—苟モ法令ニ禁止セサル限リ直接ニ之ヲ證明スルモノナル

第三百三十六條　事實ノ認定ハ證據ニ依ル

◇爆發物取締罰則六＝爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者。

第三百三十七條　證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百三十八條　被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

◇一三三以下＝被告人訊問・一七五以下＝檢證・一八四以下＝證人訊問・二一九以下＝鑑定・二三二以下通譯及翻譯・三三九—三四二・三四九。

第三百三十九條　裁判長ハ證人其ノ他ノ者ハ被告人又ハ或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人、證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

◇三四八＝裁判長ノ處分ニ對シテノ異議ノ申立。少年法六八＝少年ノ被告人ト他ノ被告人トノ分離・六九＝少年ニ對スル被告事件ト他ノ被告事件トノ分離・七〇＝少年ノ被告人ノ退廷。

三三六　裁判ニ採用スヘキ證據範圍（昭五・明・岡田）

三三七　實質的眞實主義（大一一・京・宮本。昭四・明・宮本）

▽自由心證主義及法定證據主義（大六・東・牧野。大九・中・林。大一一、大一四・中・林。昭六・司）（共通）三四六

▽證據ノ意義及種類（大一二・京・宮本）（共通）三四〇・三四一・一三四・一八四

▽自由心證ノ原則（大一一・東・牧野）

▽顯著ナル事實ト證明（大元・京・富田）

▽第三三七條ノ說明（昭四・辯）

三三八　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・壁野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）（共通）四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

ト間接ニ證明スルモノナルトヲ問ハズ凡ソ事實認定ノ資料トナシ得ヘシ（昭四・大審「法新二九六五號九頁」）—裁判所ハ其自由ナル心證ニ基キ被告人ノ自白ヲ信頼スヘキモノトシテ採擇シ其自白ノミヲ證據トシ之ニ依リ犯罪事實ヲ認定シ得（昭五・大審「評論二〇卷二號二一頁」）—證據ニ依リ認定セラレシ事實ハ更ニ他ノ事實ヲ認定スル證據トナスヲ得（昭五・大審「法新三二〇四號一六頁」）

第三百四十條　證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風說又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限リ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十一條　證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告クヘシ

問題

三四〇　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）四八・三四一・三四二・三四三・三五四・裁構一一〇（同例）二八・一一六・三二四4項・三六五—三六七

▽裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽證據ノ意義、種類（大一二・京・宮本）（共通）三二〇

▽直接證據ト間接證據（大五・法・清水）（共通）一三

▽間接證據（昭三・早・清水）（共通）三四一

▽訴訟關係人異議ナキトキ證據物證據書類ノ取調ヲ省略シ得ルヤ（昭二・早・清水）（共通）三四〇

▽證據書類ノ證據調ノ方法、手續（大一四・行・辯。昭四・中・平井。昭六・中・矢追）（共通）三四一・三四二

▽刑訴法ニ於ル書證（大一五・明・板倉）（共通）三四一

三四一　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）四八・三四〇・三四二・三四三・三五三・三五四・裁構一一〇（同例）二八・一一六・三二四4項・三六五—三六七

▽現行刑訴法ニ於ル直接審理トソノ例外（大二・東・豐島。大三・中・林）（共通）三四三・一七八・一五四

▽裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽證據ノ意義、種類（大一二・京・宮本）（共通）三三七

▽直接證據ト間接證據（大五・法・清水）（共通）一三

四・一八四・三四〇

▽訴訟關係人異議ナキトキ證據物證據書類ノ取調ヲ省略シ得ルヤ（昭二・早・清水）（共通）三四〇

▽證據物ノ證據調ノ方法、手續（大一四・辯、行。昭四・中・平井。昭六・中・矢追）（共通）三四〇・三四二

340 法令ヲ判決ノ證據理由ノ說明中ニ引用スル場合ニ於テハ證據調手續ヲ爲スヲ要セサルモノトス（昭五・大審「法新三一九號一六頁」）

343 區裁判所ノ管轄ニ屬スル本件ニ於テ控訴審タル原裁判所カ檢事聽取書ヲ罪證ニ供シタルハ違法ニ非ス（昭五・大審「法新三一九六號四頁」）

第三百四十二條　公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ蒐取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

◇三二五＝公判期日前ニ於ケル物證ノ提出・四一〇13＝上告ノ理由ノ一。

第三百四十三條　被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　供述者死亡シタルトキ

二　疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ

三　訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

◇五六＝訊問調書・六〇＝公判調書ノ作成及記載事項。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄。陪審法七一—七五證據。

第三百四十四條　證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

◇四八＝裁判ノ方式・五〇＝裁判ノ告知・六六＝訊問調書・四一〇14＝上告ノ理由ノ一。

三四二　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）三四〇

▽證據書類、證據物ノ證據調ノ方法、手續（大一四・行、辯。昭四・中・平井。昭六・中・矢追）（共通）三四〇・三四一

三四三　新刑訴法ノ長短（大一五・明・板倉）（共通）二七九・二八八・二九二・三二九—三三一・四一二—四一四（同例）憲五九・陪審法

▽直接審理主義（大三・中・林。昭六・東・小野）

▽現行刑訴法ニ於ル直接審理トソノ例外（大二・東・豐島。大三・中・林）（共通）三四一・二七八・一五四

▽檢事ノ聽取書ハ證據ト爲シ得ルヤ（大一三・中・林）（同例）五六・六〇。關稅法八六・九三・裁構一六・陪審七一—七五

345 公判廷ニ於ケル審理手續ハ本條ノ順序ニ依ルヲ普通トスルモ必要ナル場合ニハ被告事件ノ陳述ニ先チ證人訊問ヲ爲スヲ妨ケス（昭五・大審「法新三一七四號八頁」）

347 本條第二項ノ告知ハ各個ノ證據ニ付各別ニ之ヲ爲スノ要ナク證據調手續中ニ於テ一回之ヲ爲スヲ以テ足レリトス（昭六・大審「法新三二六〇號一三頁」）

348 公判期日ノ指定ノ如キハ公判ノ準備手續ニ屬シ公判中ニ於テ

第三百四十五條　裁判長被告人ニ對シ第百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

◇一三三以下＝被告人訊問・三三八—三四二＝被告人訊問及證據調・四一〇12＝上告ノ理由ノ一。

陪審法六＝被告人ト陪審ノ評議。

第三百四十六條　區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限リ他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得

◇四一〇13＝上告ノ理由ノ一。

第三百四十七條　裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

◇四八＝裁判ノ方式・五〇＝裁判ノ告知・六六＝訊問調書・四一〇15＝上告ノ理由ノ一。陪審法七八＝裁判長ノ說示。

第三百四十九條　證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フ

三四五　辯論ノ意義（昭五・日・清水）（共通）三四六—三四九

三四六　自由心證主義（大六・東・牧野。大一一、大一四・中・林。昭六・司）（共通）三三七

▽自白ノ性質（大一三・京・宮本）（同例）三二七

▽第三三七條トノ關係（大一五・京・瀧川）

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）（共通）三四五・三四七—三四九

▽第三四六條ノ說明（昭六・行）

三四七　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）（共通）三四五・三四六・三四八・三四九

三四八　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・壽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）（共通）四四

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）（共通）三四五—三四七・三四九

三四九　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

▽辯論ノ意義（昭五・日・清水）（共通）三四五—三四八

ケル裁判長ノ處分ニ非サルヲ以テ之ニ對シ本條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス（昭五・大審「法新三一〇五號一一頁」）

ヘシ

◇四一〇17＝上告ノ理由ノ一。少年法七三＝豫審又ハ公判ノ手續・四四＝少年保護司、保護者及附添人ノ意見ノ陳述。陪審法七六。

第三百五十條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條　裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タス直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

◇五〇＝裁判ノ告知・六六＝訊問調書・二八七＝時效ノ進行・四一〇16＝上告ノ理由ノ一・三七＝被告人意思能力ヲ有セサル時。

第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

◇四一〇16＝上告ノ理由ノ一。陪九八＝公判手續更新ノ場合。

三五一　辯護人ノ地位（大三・京・勝本。大一三・日・壽野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）（共通）四四

三五二　被告人ノ訴訟能力（大一〇、大一一、昭三・中・林）（共通）三六—三八・三〇五・三五三

▽訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

▽公判辯論ノ停止ヲナスヘキ場合（大七・日・宮城）（同例）五〇・六六・二八七・四一〇16・三七

三五三　直接審理、書面審理、口頭審理ノ意義並ニ利害得失（大一〇・中・林）（共通）四八・三四〇—三四三・三五四・裁幕一二〇（同例）二八・一一六・三二四4項・三六五—二六七

▽被告人ノ訴訟能力（大一〇、大一一、昭三・中・林）（共通）三六—三八・三〇五・三五二

▽公判手續ノ更新（昭四・司口。昭四、昭六・東・小野）（共通）三五四（同例）四一〇16・陪審九八

第三百五十四條　開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇四一〇16上告ノ理由ノ一。

第三節　公判ノ裁判

第三百五十五條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇一一一〇‖裁判所ノ管轄。裁構一六‖刑事事件ノ區裁判所管轄・二七‖地方裁判所ノ刑事訴訟ノ管轄。刑訴三五六・三五七‖管轄違ノ言渡ヲ爲シ得サル場合・三七一・三七二‖管轄違ノ言渡ト勾留狀及押收・五六九‖公訴ノ管轄違ノ言渡ト私訴。陪五三。

第三百五十六條　地方裁判所ハ其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

◇裁構一六‖刑事事件ノ區裁判所管轄。

第三百五十七條　裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ

◇一‖土地管轄・二‖數個ノ牽連事件カ事物管理ヲ異ニスル時・五・六‖數個ノ牽連事件カ土地管理ヲ異ニスル時・一〇‖同一事件事物管理ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スル時・一二四‖被告事件ニ就テノ訊問・三一三‖公判期日前ノ被告人訊問・三四七‖證據ニ對スル被告人ノ辯解ト被告人ニ對スル證據提出ノ告知・二四九‖證據調ヲ終リタル後。

三五五　管轄違繫屬事件ノ裁判（昭五・明・岡田）（共通）三五六—三五七・一三（興保）三六四1

▽訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

▽起訴ノ效力、權利拘束ノ意義、效果（大二・京・吾孫子。大七・東・牧野。大一四・日・清水。昭三・司。昭五・錄）（共通）三五六—三五九・三六二—三六五

三五六　管轄違繫屬事件ノ裁判（昭五・明・岡田）（共通）三五五・三五七・一三（興保）六四1

360 本條第二項ニ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張トハ犯罪構成要件以外ノ事實ニシテ法律上犯罪ノ不成立ニ歸スヘキ事實上ノ主張ノ義ナリ（昭五・大審「法新三一二一號一五頁」）—第二項ニ所謂主張トハ法律上特定ノ事實アル場合ニハ必然刑ノ減免ヲ爲スヘキ場合ニ關スルモノニシテ法律上刑ノ減免ヲ爲シ得ル旨ヲ定メ之ヲ爲スト否トヲ裁判所ノ裁量ニ委ネシ場合ノ如キハ之ニ該當セス（昭五・大審「法新三二一一號九頁」）

第三百五十八條　被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除タノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇刑二五‖刑ノ執行猶豫。少年法六六‖裁判所又ハ豫審判事ノ職權ヲ以テノ處分・七一‖少年審判所送致ノ決定・七二‖第六十六條ノ處分ノ效力ノ消失。刑訴三七一。

第三百五十九條　被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇刑三六‖正當防衛行爲ノ爲ニ依ル刑ノ免除・三七‖緊急避難行爲ノ爲ニ依ル刑ノ免除・四三‖未遂ニ依ル刑ノ免除・八〇・九三・一九八‖以上ハ自首ニ依ル刑ノ免除・一一三・二〇一‖以上ハ情狀酌量ニ依ル刑ノ免除・一七一・一七〇・一七三‖以上ハ自白ニ依ル刑ノ免除・二四四・二五一・二五五・二五七等‖以上ハ他ノ理由ニ依ル刑ノ免除。刑訴三七一。

第三百六十條　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

◇三五八‖有罪及執行猶豫ノ判決・三五九‖刑ノ免除ノ判決・四一〇1924‖上告ノ理由。刑三五—四一‖犯罪ノ不成立・四三‖未遂罪・四五以下‖併合罪・五六以下‖累犯・六三‖從犯・八〇・九三・二四四・二五一・二五五・二五七。陪審法九七。

三五八　被疑者、被告人、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ區別（大一三・明・岡田庄）（興保）一二九・二五五（共通）一二三・二七八

▽檢事甲事實ヲ起訴、豫審判事連續犯トシテ甲乙二事實ニ付決定、然ルニ裁判所ハ乙事實ヲ證據十分、甲事實ヲ不十分ト認メタル事案ノ判決（大五・東・牧野）

▽檢事甲乙二事實ヲ併合罪トシテ起訴、豫審判事ハ之ヲ一個ノ連續犯トシテ決定、裁判所ハソノ甲事實ヲ證據十分、乙事實ヲ不十分ト認メタル事案ノ判決（大五・東・牧野）（共通）三六二

結果其公訴事實ノ一部ヲ認メサルトキハ其部分ハ元來獨立一罪トシテ起訴アリタルニ非サルヲ以テ之ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス（昭二・大審「法新二七九七號一四頁」）

362 連續罪トシテ公訴提起アリシ場合ニ裁判所ハ事實審理ノ

363 事物管轄ヲ同クスル數個裁判所中同一事件ニ付後ニ公訴ヲ受ケシ公判裁判所カ誤テ本案ニ付有罪ノ判決ヲ言渡シ其判決カ最初ニ公訴ヲ受ケシ裁判所ノ裁判ヨリ先ニ確定スルニ至リタルトキ

第三百六十一條　區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日內ニ判決書ノ謄本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文竝罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

◇三九五Ⅱ控訴ノ提起期間・四一八Ⅱ上告ノ提起期間・五三Ⅱ裁判謄書ノ謄本抄本・六〇Ⅱ公判調書・八一Ⅱ期間ノ計算。

第三百六十二條　被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

◇三七一Ⅱ無罪、免訴、刑ノ免除其ノ他ノ言渡ト勾留セラレタル被告人。陪審法九七Ⅱ判決ノ言渡。

第三百六十三條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

◇三七一Ⅱ無罪、免訴、刑ノ免除其ノ他ノ言渡ト勾留セラレタル被告人。陪審法五四Ⅱ免訴ノ決定。刑訴二八一—二八七Ⅱ時效・三五八・三五九Ⅱ有罪ノ判決・三六一Ⅱ無罪ノ判決・三六三Ⅱ免訴ノ言渡ヲ爲ス判決・五三三Ⅱ略式命令ノ確定。違警罪即決例七等。恩赦令二・三。

第三百六十四條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

三六三　確定判決（大一一・鬼・鈴木）（共通）三一四（鬼佛）三五八・三五九・三六二・三六三・五三三・違警罪即決例七

▽訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三六四

▽免訴ノ裁判（大一二・東・牧野。昭五・東・小野）（共通）三一三・三一四・四八三（鬼佛）三一八・三一九・三五二・三七一・四八六・五九〇

▽判決ノ效力（昭二・鎌。昭四・明・岡田。昭五・明・板倉。昭六・九・上原）（共通）三一三—三一五・三六四（鬼佛）三一七・四八五—五一五・五一六—五二二

▽免訴ノ判決（昭三・司）

三六四　訴訟條件（大一三・中・小野）（共通）三一五・三五五・三〇九・三一〇・三五六・三一一・三五七・三六五・三〇五・三五二・三六三・三一四・三一三・一〇I、II・九I、II・三一七・裁構六・八三

▽同事件カ二重ニ公訴提起セル時ノ處理（昭六・行）（共通）五三五

ハ本案ニ付審判權ヲ有スル裁判所ノ判決ト同樣ノ確定力ヲ有スルニ至ル（昭五・大審「法新三一二八號五頁」）

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

◇三七一Ⅱ無罪、免訴、刑ノ免除其ノ他言渡ト勾留セラレタル被告人・三七二Ⅱ押收物ト浚取ノ言渡。陪審五三Ⅱ公訴棄却又ハ管轄違ノ決定・三一五6Ⅱ公訴棄却ノ決定ノ場合ノ一・三六五1Ⅱ公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス事由ノ一。刑一三五・一八〇・一八三・二〇八・二〇九・二二九・二三一・二四四・二五一・二五五・二六四Ⅱ以上ハ凡テ親告罪ニ關スル條文・九〇Ⅱ九二Ⅱ國交ニ關スル罪。刑訴二六七Ⅱ告訴ノ取消・二九〇Ⅱ二九一Ⅱ公訴ノ提起。

第三百六十五條　左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　公訴ノ取消アリタルトキ

二　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

三　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇二九二Ⅱ公訴取消・三七一Ⅱ無罪、免訴、刑ノ免除其ノ他ノ言渡ト勾留セラレタル被告人・三七二Ⅱ押收物ト浚收ノ言渡・四五九以下Ⅱ即時抗告。陪審法五三Ⅱ公訴棄却又ハ管轄違ノ決定。

第三百六十六條　被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇四八Ⅱ裁判ノ方式・三三〇Ⅱ被告人ノ出廷・三三三Ⅱ被告人ノ退廷・四一〇8上告ノ理由ノ一。裁構一〇九Ⅱ裁判長ノ退廷セシムルノ權。

第三百六十七條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇四八Ⅱ裁判ノ方式・三三〇Ⅱ被告人ノ出廷・四一〇8Ⅱ上告ノ理由ノ一。

三六六　裁判長ノ職權（大六・明・岡田）（共通）三二〇

372 所謂判示匕首ノ鞘及其袋ハ共レ自體犯罪ノ用ニ供シ若クハ犯罪ノ用ニ供セントシタルモノニ非サルモ犯罪ノ用ニ供シタル匕首ノ室及之ヲ包裝セル袋ナレハ匕首ノ附屬物ニ過キス固ヨリ獨立シテ何等ノ用ヲ爲スモノニ非ス所謂從物ナリト解スヘシ然ラハ主物タルキ匕首ヲ沒收スルト共ニ其從物タル鞘及袋ヲ沒收シタルハ相當ナリ（昭二・大審「大判六卷八號刑二九二頁」）

第三百六十八條　辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス。

◇五〇＝裁判ノ告知・五一＝裁判ノ宣告・三六九＝有罪ノ判決ヲ告知スル場合・三七〇＝裁判長ノ調論。

第三百六十九條　有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

◇三五八・三五九＝有罪ノ判決・三九五＝控訴ノ提起期間・三九六＝控訴ノ申立書・四一八＝上告ノ提起期間・四一九＝上告ノ申立書。

第三百七十條　裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル調論ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條　無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

◇三五五＝管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決・三五八・三五九＝有罪ノ判決・三六一＝無罪ノ判決・三六三＝免訴ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四・三六五＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決及決定。

第三百七十二條　押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

◇三五五＝管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決・三六八＝刑事訴訟法ニ關スル手續ノ特質（大三・東・豐島）（判例）五〇・五一

376 被告人ノ爲ニスル上訴ハ下級裁判所ノ裁判ニ對スル不服ノ申立ニシテ不利益ノ裁判ヲ是正シテ利益ト爲スコトヲ求ムルヲ以テ其本質ト爲スモノナルカ故ニ被告人ハ下級裁判所ノ裁判カ自己ニ不利益ナル場合ニ非サレハ之ニ對シ上訴權ヲ有セス其不利益如何ハ一ニ其主文ヲ標準トシテ客觀的ニ定ムルヲ要シ裁判ノ事由及ヒ被告人ノ主觀的事情ノ如キハ之ヲ問フコトヲ要セサルモノトス（大一〇・旭地「評論一〇卷刑訴四三頁」）

第三百七十三條　押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

◇一六六＝押收物ノ還付。

第三百七十四條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下＝即時抗告ノ期間其他。

第三編　上訴

第一章　通則

第三百七十六條　上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

◇三七七—三七九＝上訴ヲ行ヒ得ル者・三九四＝控訴・四〇八＝上告・四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場合・四五六・四五七抗告・三八二—三八三＝上訴ノ拋棄及取下・四六九＝再抗告・四七四＝抗告ヲ爲シ得サル決定及即時抗告ヲ爲シ得ル決定・五一二・五八九・五九〇・五九一・六一二。

第三編　上訴

第一章　通則

三七六　上訴ノ意義（大九・京・中川。大一五・日・清水）（共通）三七七—三七九（判例）三九四・四〇八・四一六・四五六・四六九・四七四・五八九・五九〇・六一二

▽上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）（共通）三九四・四〇八・四五六

▽起訴ト上訴トノ差別（大九・東・中川）（共通）二七八

379 原審辯護人ノ上告權ハ上告申立ヲ爲スノ權利ノミニ止マリ上告趣意書ヲ提出スルノ權利ヲ包含セス（昭六・六・大審「評論二〇巻七號二五七頁」）

第三百七十七條　檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

◇二五2項ニ忌避ノ申立・三一ニ忌避ノ申立却下ニ對スル即時抗告・一四〇—一四二ニ差押、差押物ノ提出命令及領置・一五〇ニ押收捜索ノ命令狀・一五一ニ命令狀ニ指定ナキ他ノ證據物ノ押收・一五三ニ他ノ犯罪ニ關スル證據物ノ押收・一六六・一六七ニ押收物ノ還付・一九〇ニ證人ノ不出頭・二一〇ニ證人ノ宣誓又ハ證言ノ拒絶・二二八ニ鑑定・二三六ニ通譯及翻譯・二三九—二四一ニ告發人、告訴人又ハ上訴者ニ費用ヲ負擔セシムル場合・二四三・三八九・四六九・四七四・五一〇・五六四等。

第三百七十八條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

◇民八八四ニ財産ニ關スル親權・九〇一—九〇四ニ後見人・五三一ニ理事・九〇九ニ保佐人。商六一・六二ニ合名會社代表者・一一四ニ合資會社ノ代表者・一七〇ニ株式會社ノ代表者・二三六ニ株式合資會社ノ代表者。刑訴三八二・三八三ニ上訴ノ抛棄及取下。

第三百七十九條　原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

◇三九ニ辯護人ノ選任・三三一ニ罰金以下ノ刑ニ處スル事件ノ被告人。

第三百八十條　上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條　上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス

◇五〇ニ裁判ノ告知・八一ニ期間ノ計算・三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上訴ノ提起期間・四五九ニ即時抗告ノ提起期間。

第三百八十二條　檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ抛棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ抛棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

◇三八四—三八五ニ上訴ノ抛棄及取下ノ申立・三八六ニ更ニ上訴ヲ爲シ得サル場合・二四一ニ上訴取下ノ場合ノ費用負擔者。

三七九　辯護人ノ地位（大三・京・藤本。大一三・日・壷野。大一四・日・赤羽。昭五・中・草野）（共通）四四

▽辯護人ノ上訴權ノ範圍（昭三・早・清水）（關係）三九

▽訴訟代理人ノ權限（大一一・早・清水）（共通）四六

三八〇　全部上訴ト一部上訴（昭二・辯）

三八二　訴訟行爲ハ行爲者自ラ取消シ得ルヤ（昭六・辯）（共通）二六七・二九二・一一四

387 責ニ歸スヘカラサル事由云々トハ上訴ノ不能カ天災其他避ケヘカラサル事變ニ原因スル場合ニ限ラス上訴權者又ハ代人ノ故意又ハ過失ニ基カサル一切ノ場合ヲ包含ス（昭五・大審「法新三一一六號一五頁」）

第三百八十三條　第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

◇三八四—三八五ニ上訴ノ抛棄及取下ノ申立・三八六ニ更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・二四一ニ上訴取下ノ場合ノ費用ノ負擔者。

第三百八十四條　上訴抛棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

訴訟記錄ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送付スル前上訴ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得

◇三八五ニ上訴抛棄又ハ取下申立ノ手續。

第三百八十五條　上訴ノ抛棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

◇六〇ニ公判調書。

第三百八十六條　上訴ノ抛棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

◇三八二ニ上訴ノ抛棄又ハ取下ヲ爲シ得ルル者・三八三ニ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者。

第三百八十七條　第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

◇三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上訴ノ提起期間・四五九ニ即時抗告ノ提起期間・三八八ニ上訴權回復ノ請求・三九二ニ在監者ノ上訴權回復ノ請求。

第三百八十八條　上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ原由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

◇三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上訴ノ提起期間・四五九ニ即時抗告ノ提起期間・三九二ニ在監者ノ上訴權回復ノ請求。

三八三　上訴取下（大一五・辯）（關係）三七八

三八四　上訴權ハ抛棄シ得ルヤ（大六・中・林）（關係）三八二・三八五・三八六

三八六　裁判（判決）確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）（共通）三九五・四一八・四五八・四五九・五三三・違警罪即決例七

▽上訴權ノ消滅（昭五・中・矢追）（共通）三九五・四一八（關係）三八一

391 本條ニ基キ監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲ス爲法律上ノ方式ニ違反スルコトナキ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其代理者ニ差出シタルトキハ上訴申立ノ效力ハ其時ニ於テ發生スルモノトス（昭五・法決「法曹八卷五號一九六頁」）

392 第三九一條ヨリ類推スレハ本條ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ノ書面ヲ監獄ノ長又ハ其代理者ニ差出シタルトキハ此時ヲ以テ裁判所ニ對シ拋棄又ハ取下ノ效力ヲ生セシムル法意ナリ（同上）

第三百八十九條　原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四五九以下ニ即時抗告ノ提起期間其他。

第三百九十條　上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

◇九七ニ令狀ノ方式・四五七ニ抗告。

第三百九十一條　監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此場合ニ於テ上訴ノ提起期間內ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス

被告人自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

◇三九五ニ控訴ノ提起期間・四一八ニ上告ノ提起期間・四五九ニ即時抗告ノ提起期間・七四ニ私人ノ署名捺印不能ノ場合。

第三百九十二條　前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

◇三八二ニ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三ニ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者・三八七ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲シ得ル場合。

第三百九十三條　上訴、上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

◇三七六—三七九ニ上訴ヲ行ヒ得ル者・三八二ニ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三ニ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者・三八七上訴權回復ノ請求ヲ爲シ得ル場合。

第二章　控訴

第三百九十四條　控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

◇三七六—三七九ニ上訴ヲ行ヒ得ル者・三五五ニ管轄違言渡ヲ爲ス判決・三五八・三五九ニ有罪ノ判決・三六二ニ無罪ノ判決・三六三ニ免訴ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四ニ公判棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。陪審法一〇一。

三九四　上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）共通 三七六・四〇八・四五六

▽上訴ノ種類（大一三・日・清水）共通 四〇八・四五

401 刑事訴訟法ハ覆審主義ヲ採用セルヲ以テ第二審裁判所カ本案ニ付判決ヲ爲ストキハ第一審判決ハ當然其效力ヲ失フモノナレハ第二審判決ハ第一審判決ノ當否ヲ批判スル要ナシ（昭五・大審法新三一九六號七頁」）— 訴控審ノ判決アルトキ第一審判決ハ當然失效スヘキモ右ハ效力ノ問題ニ止マリ事件カ控訴審ニ繫屬スルニ至リシ故ヲ以テ第一審ノ判決ソノモノノ存在ヲ否定スヘカラス（昭五・大審「法新三一八九號」）

第三百九十五條　控訴ノ提起期間ハ七日トス

◇八一ニ期間ノ計算・三八一ニ上訴ノ提起期間ノ進行。

第三百九十六條　控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ

◇三九一ニ在監者ノ上訴手續。

第三百九十七條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇三九六ニ控訴ノ手續・三八六ニ更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・三九一ニ在監者ノ上訴手續・三九五ニ控訴ノ提起期間・六六ニ裁判書・四九ニ裁判ノ理由・四五九ニ以下即時抗告ノ提起期間。

第三百九十八條　前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ

第三百九十九條　控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

◇三八六ニ更ニ上訴ヲ爲シ得サル者。

第四百條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ

◇三九六ニ控訴ノ手續・三八六ニ更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・三九一ニ在監者ノ控訴手續・三九五ニ控訴ノ提起期間。

六・四八五—四八九・五一六

▽第一審判決ニ對スル不服ノ方法（大一四・日・清水）共通 四一六・四八五・四八六・五一六

▽控訴ト上告トノ異同（大一四・東・牧野。昭三・司口・昭四・行）共通 四〇八 關係 三九五—四〇七・四〇九—四五五

三九五　裁判（判決）確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）共通 三八六・四一八・四五八・四五九・五三三・違警罪即決例七

▽上訴權ノ消滅（昭五・中・矢追）共通 三八六・四一八 關係 三八一

三九八　上訴ノ效力（移審ノ效果）（昭三・中・平井。昭三・明・岡田庄。昭三・司口）共通 四二一・五三四 關係 四六一1項・四六二・三九七・四二〇・四六〇2項

三九九　附帶控訴（昭五・辯）關係 三八六

▼附帶控訴ト不利益變更禁止ノ規定トノ關係（昭四・司口）共通 四〇三・四五二・五一四

403 被告人ノ爲メニ控訴ヲ爲シタル事件ニハ檢事控訴ノ趣旨カ偶被告人ノ利益ニ歸スル事件ヲ包含セス（昭五・大審「法新三一三七號八頁」）— 控訴審ノ科刑カ第一審判決ト同一又ハ以下ノトキハ縱令兩者其動機ニ關シ認定ヲ同ウシ且第一審カ酌量減輕ヲ爲セルニ不拘控訴審カ之ヲ爲ササリシトスルモ第一審判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡セルモノト云フヲ得ス（昭五・大審「法新三二一一號」）

407 第三六七條ハ本條ニ依リ控訴裁判所ニ於テ之カ準用アルモ

第四百一條 控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ

◇一一一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴四〇三＝原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シ得サル事件。少年法七一。

第四百二條 第一審裁判所不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

◇一一一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴三五五＝管轄違ノ言渡ヲ爲ス判決・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決。

第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

◇三七六—三七九＝上訴ヲ爲シ得ル者。

第四百四條 被告人出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告人正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セサルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇三三〇＝公判開廷ト被告人ノ出頭・四一〇八＝上訴ノ理由ノ一。

第四百五條 控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得

◇三六〇＝有罪ノ言渡ヲ爲ス時。

第四百六條 第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セサリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

◇四〇四＝被告人出頭セサル時・四〇五＝第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ノ引用。

▽主タル控訴ト附帶控訴トノ異同（大五・日・宮城）

▽附帶控訴ノ性質（大四・關・佐藤）

四〇三 不利益變更禁止ノ原則（昭五、六・日・清水）

（共通）四五二・五一四 （同例）三七六・三七八・三七九

▼附帶控訴ト不利益變更禁止ノ規定トノ關係（昭四・司口）（共通）三九九・四五二・五一四

▽被告人ノミノ控訴事件ニ付控訴裁判所ハ追徵金ヲ原審判決ヨリ多額ニ言渡シウルヤ（昭三・早・清水）

ノトス（昭六・大審「法新三二六〇號一四頁」）

410 事件ノ審理ニ關與セサリシ判事ト雖事件終結後其評決ニ關與シタルニ非スシテ單ニ其判決ノ宣告ニノミ構成員ノ一員トシテ列席關與セル場合ノ如キハ本條第四號ニ該當セス（昭五・大審「法新三一九九號一四頁」）— 公訴事實トシテ指摘セラレシ事實ト裁判所ノ認定セル事實ト多少差異アル爲ニ罪名ノ變更ヲ來スコトアルモ其ノ基本事實關係カ同一ナル限ハ公訴ノ範圍ヲ逸出シテ犯罪

第三章 上告

第四百八條 上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

◇三七六—三七九＝上訴ヲ行ヒ得ル者・四〇〇＝控訴ノ棄却・四〇一＝判決ノ更新・四〇二＝事件ノ差戻・四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上訴ヲ爲シ得ル場合。

第四百九條 上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

◇四一一＝上告ノ理由ト爲スコトヲ得サル場合。陪審法一〇三＝上告ヲ爲スコトヲ得ル場合。

第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一 法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二 職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ

三 判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申立理由アリト認メラレタルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ

四 審理ニ關與セサリシ判事判決ニ關與シタルトキ

五 不法ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ

六 不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

七 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

第三章 上告

四〇八 上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）（共通）三七六・三九四・四五六

▽上訴ノ種類（大一三・日・清水）（共通）三九四・四五六・四八五—四八九・五一五

▽控訴ト上告トノ異同（大一四・東・牧野。昭三・司口。昭四・行）（共通）三九四（同例）三九五—四〇七・四〇九—四五五

四〇九 宣誓手續違背ノ證言ノ效力（昭三・中・矢追）

（共通）四一一・陪審一〇三

四一〇 區裁判所ニ於テ辯護權行使ヲ不法ニ制限シタル判決效力（大三・東・豐島）（同例）本條11・19

▽判決原本ト公判調書ト抵觸セル記載アリシ場合ノ效力ノ優劣（昭五・明・板倉）（同例）四八・六〇・六四

▽原裁判所ハ判決言渡ノ際判決ノ理由ヲ明示セサリシトノ上告理由ハ原裁判破毀ノ基本トナシウルヤ（大四・東・豐島）（同例）本條19

▽職權審理主義ト其制限規定（大一四・行。大一四・肇。昭六・東北・上野）

事實ヲ認メタリト謂フヲ得ス（昭五・大審「法新三一八五號一五頁」）一公開ヲ禁スヘキ場合ニ裁判所カ禁セサルトキ及裁判所カ公開停止ノ決議ヲ爲シ乍ラ其言渡ニ反シ公開停止ヲセサリシ場合ニハ上告ノ理由トナラス（昭二・大審「法新二七八五號一二頁」）

八　別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スルコトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

九　公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

十　法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十一　不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ

十二　檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十三　法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十四　公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十五　公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲ササリシトキ

十六　法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セサリシトキ

十七　被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシトキ

十八　審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十九　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十　判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脫シタルトキ

二十一　判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

◇陪審法一〇四＝上告ノ理由アル場合。刑訴三二九＝公判廷・二四＝判事ノ除斥・二五＝忌避・三五四＝開廷後ニ判事ノ更迭アリタル時・一一一〇＝裁判所ノ管轄・三五五―三五七＝管轄違ノ言渡。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄・五〇＝大審院ノ管轄。刑訴三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五＝公訴棄却ノ決定。裁構一〇五＝公開停止。憲五九＝對審判決ノ公開。刑訴三三〇＝開廷ト被告人ノ出頭・三三一＝罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人・四〇四＝被告人出頭セサル時・三三二＝被告人ノ公判廷ニ於ケル身體ノ拘束・三三四＝辯護人ナクシテ開廷シ得サル場合・三三五＝檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スル場合・一五八＝押收搜索ト立會・一七八＝檢證ト立會・二二七＝鑑定ト立會・三四五＝檢事ノ被告事件ノ要旨ノ陳述・三四二＝訴訟關係人ヨリ提出シタル物證・三四六＝他ノ證據ノ取調ヲセサルヲ得ル場合・二二四＝公判期日前ノ取調準備トシテノ物證提出命令・三四四＝證據調ノ請求ノ却下・三四八＝裁判所ノ處分ニ對スル異議ノ申立・三五一・三五三＝被告人心神喪失ノ場合・三四九＝證據調終リタル後ノ意見ノ陳述・二九一＝公訴ノ提起・四九＝裁判所書記ノ立會ナ

411 判決書ニ記載セル檢事ト公判立會檢事ト異ナルトキハ其判決書ハ第六九條第二項ニ違反スト雖裁判ニ影響ヲ及ホシタルモノニ非サル故上告理由トナラス（昭二・大審「法新二七七七號一三頁」）

クシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合・三六〇＝有罪ノ言渡ヲ爲ス時・七一＝官公吏ノ作成書類・三〇二・三二三・三二六・三三九・三五一・三六六・三六七。

第四百十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホサルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由トスコトヲ得ス

◇四〇九＝法令ノ違反ヲ理由トスル時ノ上告・四一〇＝上告ノ理由。

第四百十二條　刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由トスコトヲ得

◇四二五＝上告趣意書・四三四＝上告裁判所ノ審理範圍。

第四百十三條　再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由トスコトヲ得

◇四八五―四八七＝再審ノ請求ヲ爲シ得ル判決・四二五＝上告趣意書・四三四＝上告裁判所ノ審理範圍・四三五＝上告裁判所ノ事實ノ取調。

第四百十四條　重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ由ト爲スコトヲ得

◇四二五＝上告趣意書・四三四＝上告裁判所ノ審理範圍。陪審法一〇三＝上告ヲ爲シ得ル場合。

第四百十五條　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

◇恩赦令二・三。

四一一　宣誓手續違背ノ證言ノ效力（昭三・中・矢追）

共通　四〇九・陪審一〇三

▽第四一一條ノ說明（昭二・東・小野）　關係　四〇九・四一〇

四一二　新刑訴訟ノ長短（大一五・明・板倉）　共通　二七九・二八八・二九二―三二九―三三一・三四三・四一四　關係　憲五九・陪審法

▽上告審ニ於ケル事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）

共通　四一三・四一四・四四〇・四四一・四四三・四四四

四一三　上告審ニ於ケル事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）　共通　四一二・四一四・四四〇・四四一・四四三・四四四

關係　新刑訴訟法ノ長短（大一五・明・板倉）　共通　二七九・二八八・二九二・三二九―三三一・三四三・四一二　關係　憲五九・陪審法

▽上告審ニ於ケル事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）

共通　四一二・四一三・四四〇・四四一・四四三・四四四

第四百十六條　左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

◇陪審法一〇二＝大審院ニ上告ヲ爲シ得ル場合。恩赦令二・三。

一〇三＝上告ヲ爲シ得ル場合。

第四百十七條　第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇三八二＝上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シ得ル者・三八三＝被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲シ得ル者・三九七・四〇〇＝控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナル時

第四百十八條　上告ノ提起期間ハ五日トス

◇八一＝期間ノ計算・三八一＝上訴提起期間ノ進行。

第四百十九條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

◇三九一＝在監者ノ上訴手續。

第四百二十條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

◇四一九＝上告申立書ノ差出所・三八五＝上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立方法・三九一＝在監者ノ上訴手續・四一八＝上告ノ提起期間・六六＝裁判書・四九＝裁判ノ理由・四五九以下＝即時抗告ノ提起期間其ノ他。

第四百二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

四一六　第一審判決ニ對スル不服ノ方法（大一四・日・清水）（共通）三九四・四八五・四八六・五一六

四一八　裁判（判決）確定ノ意義（大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原）（共通）三八六・三九五・四五八・四五九・五三三・違警罪即決例七

▽上訴權ノ消滅（昭五・中・矢追）（共通）三八六・三九五（同例）三八一

四二一　上訴ノ效力（移審ノ效果）（昭三・中・平井。昭三・明・岡田。昭三・司口）（共通）三九八・五三四（同例）四六一I・四六二・三九七・四二〇・四六〇II

423 上告趣意書ハ上訴申立書ト異リ本條所定ノ期間內ニ上告裁判所ニ到達スルコトヲ必要トスルモノナレハ被告人カ上告趣意書ヲ右期間內ニ上告裁判所ニ到達スヘキ時日ヲ存シテ郵送シタルモ不可抗力其他被告人又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ右期間內ニ上告裁判所ニ到達セサリシトキト雖前記期間內ニ上告趣意書ヲ差出シタルモノト解スルコトヲ得サルモノトス（昭三・大審「法新二九四九號一三頁」）

第四百二十二條　上告裁判所ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ前項ノ通知ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十三條　上告申立人ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

◇四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項・四二七＝上告ノ棄却。

第四百二十四條　上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

◇四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項。

第四百二十五條　上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

◇四〇九＝法令ノ違反ヲ理由トスル上告・四一二—一一五＝第四一〇條以外ノ上告ノ理由・四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場合・四三四＝上告裁判所ノ審理範圍。

第四百二十六條　上告裁判所上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

◇七五—八〇＝送達。

第四百二十七條　上告申立人期間內ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

◇四二三＝上告趣意書ノ差出期間。

第四百二十八條　上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

檢事對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

◇七五—八〇＝送達。

第四百二十九條　裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閱シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

◇四一九＝上告申立書ノ差出所・四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項・四二八＝答辯書。

第四百三十條　上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

425 被告人ノ辯護人カ相被告人辯護人ノ上告理由ヲ援用シタル場合ニ於テ相被告人カ公判前死亡セル爲公訴棄却ノ決定アリシトキハ其援用ノ效ナシ（昭三・大審「大判七卷六號刑三九六頁」）一原判決後始メテ現ハレタル新事實ニシテ即チ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現レサル事實ヲ援用シテ上告論旨ト爲シタルモノナルトキハ本條第三項ニ依リ適法ノ上告理由ト爲ラサルモノトス（昭二・大審「新報一三六號一四頁」）

◇四〇＝辯護人ノ選任。

第四百三十一條　上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇四三〇＝上告審ニ於ケル辯護人。

第四百三十二條　公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢事及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

◇四二九＝上申申立書、上告趣意書及答辯書ニ付テノ報告書・四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項。

第四百三十三條　辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

◇三三四＝辯護人ナクシテ開廷シ得サル事件・三五＝檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スル場合。

第四百三十四條　上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第二審判決ニ對シ上告事件ニ付テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

◇四二五＝上告趣意書ニ記載スヘキ事項・一一一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五＝公訴棄却ノ決定。恩赦令二・三。

第四百三十五條　上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續並第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

◇一一一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴三六四＝公告棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五＝公訴棄却ノ決定。

第四百三十六條　第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

◇四一六＝控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲シ得ル場

439 第二審裁判所カ併合罪トシテ各別ニ刑ヲ併科シタル場合ニ其判決全部ニ對シ上告申立アリシトキ上告審カ其一ニ付免訴ヲ言渡スヘキモノト判定セルトキハ之ニ關スル部分ノミヲ破毀スヘキモノトス（昭三・大審「大判七卷一號刑五七頁」）

440 原審カ判示第一事實ト同第二事實トカ併合罪ノ關係ニ在リトシ刑法第四七條第一〇條ヲ適用シテ一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ判示第一事實ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ理由存スルニ於テ合。

第四百三十七條　第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百十五條ニ規定スル事由ニ付調査ヲ爲スヘシ

◇四〇八＝上告ト第二審ノ判決・四〇九—四一〇＝上告ヲ爲シ得ル場合・四一一＝上告ノ理由ト爲シ得サル場合。

第四百三十八條　不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

◇一—一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄。刑訴三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・三六五＝公訴棄却ノ決定・四四九＝差戻ノ判決・四五〇＝移送ノ判決。

第四百三十九條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百十四條ニ規定スル事由ニ因ル檢事ノ上告ナキトキハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條　前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ調査スヘシ

第四百四十二條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

◇四四六＝上告棄却ノ判決。

第四百四十三條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四〇　上告審ニ於ル事實審理ノ當否（昭五・京・瀧川）（共通）四一二—四一四・四四一・四四三・四四四

ハ判示事實全部ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキモノトス（昭二・大審「評論一七巻刑訴一〇八頁」）

449 刑事訴訟法ニハ第二審裁判所カ不法ニ控訴ヲ棄却シタル場合ニ付直接規定ナキモ本條ノ精神ハ第二審裁判所未タ本案ニ付審判ヲ爲ササルニ依ルモノト解スヘキカ故ニ上記ノ場合モ同法條ニ準據シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シテ本案ニ付審判ヲ爲サシムルヲ相當トス（昭五・大審「法新三一二九號五頁」）

第四百四十四條　上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

◇四四〇・四四三＝事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨言渡ス決定・四五五＝上告ノ審判。

第四百四十五條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

◇四一九＝上告申立書ノ差出所・三八六＝更ニ上訴ヲ爲シ得サル者・三九一＝在監者ノ上訴手續・四一八＝上訴ノ提起期間。

第四百四十六條　上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十七條　上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百四十八條　前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

◇四五五＝上告ノ審判及事理。

第四百四十九條　不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ但シ必要アルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

◇三五五—三五七＝管轄違ノ言渡・三六四＝公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス判決・四〇二＝第一審裁判所ニ差戻ノ判決・四三八＝原判決破毀ノ判決。

第四百五十條　不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

◇一一〇＝裁判所ノ管轄。裁構一六＝刑事事件ノ區裁判所管轄・二七＝刑事訴訟ノ地方裁判所管轄・五〇＝大審院ノ管轄。

第四百五十一條　被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百五十二條　被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

452 本條ニ規定スル原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得サル制限ハ刑ニ關シテ被告人ノ不利益ニ之ヲ變更スルヲ許ササルノ趣旨ナルヲ以テ假令刑期金額ハ同一若ハ短小ナルモ刑名ヲ變シテ重キ刑名ト爲スコトヲ得サルコトヲモ包含スルノ趣旨ナリト解スヘキモノトス（昭二・大審「新報一三四號一一頁」）

第四百五十三條　判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四百五十四條　原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲ササリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

◇三六五＝第一審裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定・四〇六＝控訴裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定。

第四百五十五條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尙本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章　抗告

第四百五十六條　抗告ハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◇三一＝忌避ノ申立却下ノ決定ニ對スル即時抗告・三五＝裁判所書記ノ除斥忌避等ニ對スルモノ・一九〇＝證人出頭セサル時ノ決定ニ對スルモノ・二一〇＝證人ノ宣誓又ハ證言ノ拒絶ニ關スル決定ニ對スルモノ・二二八＝鑑定ニ關スル決定ニ對スルモノ・二三六＝通譯及翻譯ニ關スル決定ニ對スルモノ・二四三・二四四＝訴訟費用ニ關スル決定ニ對スルモノ・三一六＝管轄違及免訴ノ言渡ノ決定ニ對スルモノ・三六五＝判決棄却ノ決定ニ對スルモノ・三七四＝執行猶豫ニ關スル請求ニ就テノ決定ニ對スルモノ・三七五＝犯罪事實ニ關スル請求ニ就テノ決定ニ對スルモノ・三八九＝上訴權回復ノ請求ニ關スル決定ニ對スルモノ・三九七＝判決ノ申立ニ關スル決定ニ對スルモノ・四〇六＝第一審裁判所ノ公訴棄却ニ關スル決定ニ對スルモノ・四二〇＝上告ノ申立ニ關スル決定ニ對スルモノ・四六九＝抗告裁判所ノ決定ニ對スルモノ・四七四＝裁判長判事檢事及司法警察官ノ處分ノ取消變更ニ關スル請求ニ就テノ決定ニ對スルモノ・五一〇＝再審ノ請求ニ關スル決定ニ對スルモノ・五二九・五三一＝正式裁判ノ請求ニ關スル決定ニ對スルモノ・五六四＝疑義又ハ異議ノ申立ニ關スル決定ニ對スルモノ・四五七・五八九・五九〇・五九一・六一二。

（共通）四〇三・五一四（關係）三七六・三七八・三七九

▼附帶控訴ト不利益變更禁止ノ規定トノ關係（昭四・司口）（共通）三九九・四〇三・五一四

第四章　抗告

四五六　上訴ノ性質（昭二・明・岡田庄）（共通）三七六・三九四・四〇八

457 公判ニ於テ證據調ノ請求ヲ却下スル決定ノ如キハ本條第一項ニ所謂訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ノ中ニ包含セラルルモノト解スヘキモノニシテ此決定ニ對シテハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ規定ナキヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(昭四・大審「法新三〇八五號九頁」)

第四百五十七條　裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告人ノ留置ニ關スル決定ニ付之ヲ適用セス

◇三・四＝數個ノ牽連事件カ事物管轄ヲ異ニスル時・六・七＝數個ノ牽連事件カ土地管轄ヲ異ニスル時・九・一〇＝管轄ノ競合・一二三＝管轄ノ指定及移轉ノ請求・三二四4項＝物證其他ニ關スル請求ノ却下・三二四4項＝證據調ノ請求ノ却下。刑訴一一三＝陪九＝管轄移轉ノ請求ヲ爲ス時。一一四＝勾留ノ原由消滅・一一六＝勾留ノ期間・二一四＝勾留ノ原由消滅・一一六＝保釋ノ請求ト許可・一一九2項3項＝保釋ノ取消・三一九但書＝押收ノ存續・一六六＝押收物・二二二3項＝被告人ノ留置・三一・二六五・四〇六・五一〇。

第四百五十八條　抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◇四五九＝即時抗告期間。

第四百五十九條　即時抗告ノ提起期間ハ三日トス

◇五〇＝裁判ノ告知・三八一＝上告ノ提起期間ノ進行・八一＝期間ノ計算・三九一＝在監者ノ上告手續。

第四百六十條　抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ申立書ヲ受取リタル日ヨリ三日內ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百六十一條　抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得

抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六十二條　即時抗告ノ提起期間內及其ノ申立アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

◇四五九＝即時抗告ノ提起期間。

▽上訴ノ種類(大一三・日・清水)(共通)三九四・四〇八・四八五—四八九・五一六

四五八　裁判(判決)確定ノ意義(大二・京・中川。昭二・明・岡田庄。昭六・九・上原)(共通)三八六・三九五・四一八・四五九・五三三・違警罪即決例七

469 本條第一號乃至第五號ニ於テハ主トシテ被告人其他ノ訴訟當事者ニ對シ爲サレシ決定ヲ列擧規定シ第六號ニハ訴訟當事者ニ非サル證人鑑定人ヲ例示的ニ掲出セルニ鑑ミレハ第六號ニ所謂其ノ他ノ者ノ中ヨリハ訴訟當事者タル被告人若クハ被告人ノ地位ニ立ツヘキ者ヲ除外スル趣旨ナリト解スルヲ相當トス(大一四・大審「大判四卷八號刑四五九頁」)

第四百六十三條　原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記錄及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

抗告裁判所ハ訴訟記錄及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十四條　抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十五條　抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

◇三一六＝管轄違、免訴及公訴棄却ノ言渡ノ決定ニ對スル即時抗告。

第四百六十六條　抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

◇四五六—四六〇＝抗告ノ期間及手續。

第四百六十七條　抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ

第四百六十八條　第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付之ヲ準用ス

第四百六十九條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

一　公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二　控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

三　再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

四　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五　裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告

六　證人、鑑定人、通譯、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

◇三六五＝第一審裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル即時抗告・四〇六＝控告裁判所ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スルモノ・三九七＝控訴ノ申立棄却ニ付テノ決定ニ對スルモノ・三八九＝上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スルモノ・五一〇＝再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スルモノ・三七五＝犯罪事實ニ關スル請求ニ付テノ決定ニ對スルモノ・五六四＝疑義又ハ異議ノ申立ニ付テノ決定ニ對スルモノ・一九〇・二一〇＝證人ノ受ケタル決定ニ對スルモノ・二二八＝鑑定人ノ受ケタル決定ニ對スルモノ・二三六＝通譯及翻譯人ノ受ケタル決定ニ對スルモノ・二四三・二四四＝訴訟費用ニ付テノ決定ニ對スルモノ。

第四百七十條　裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ掲クル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求